

令和7年度訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）

プラットフォームを活用した  
中国地方アドベンチャーツーリズム推進事業

事業実施報告書

2026年2月

中国運輸局 観光部 観光地域振興課



## 目 次

1. 事業全体の概要 .....	1
1-1. 背景と目的 .....	1
1-2. 実施フロー .....	2
2. 中国地方の AT ビジョン策定に向けた検討 .....	3
2-1. AT ビジョン・モデルプラン検討ワーク .....	3
3. 人材交流・育成の促進 .....	14
3-1. 全体オープニングセミナー .....	14
3-2. AT の現地視察・意見交換等の実施 .....	27
3-3. AT ガイドの能力の底上げに資する研修会 .....	39
4. 中国地方における AT コンテンツの情報収集・調査 .....	50
4-1. 各県によるコンテンツの状況 .....	50
5. モデルプラン・ツアーの検討・作成、モデルツアーの実施と販売促進に活用可能なテンプレートの作成 .....	62
5-1. モデルプランの作成 .....	62
5-2. モデルツアーの実施 .....	63
5-3. 販売促進に活用可能なテンプレート（タリフ）の作成 .....	71
6. 検討会の実施 .....	77
6-1. 概要 .....	77
6-2. 参加者 .....	78
6-3. 第 1 回検討会 .....	79
6-4. 第 2 回検討会 .....	89
6-5. 第 3 回検討会 .....	100
7. 今後の課題 .....	107

# 1. 事業全体の概要

## 1-1. 背景と目的

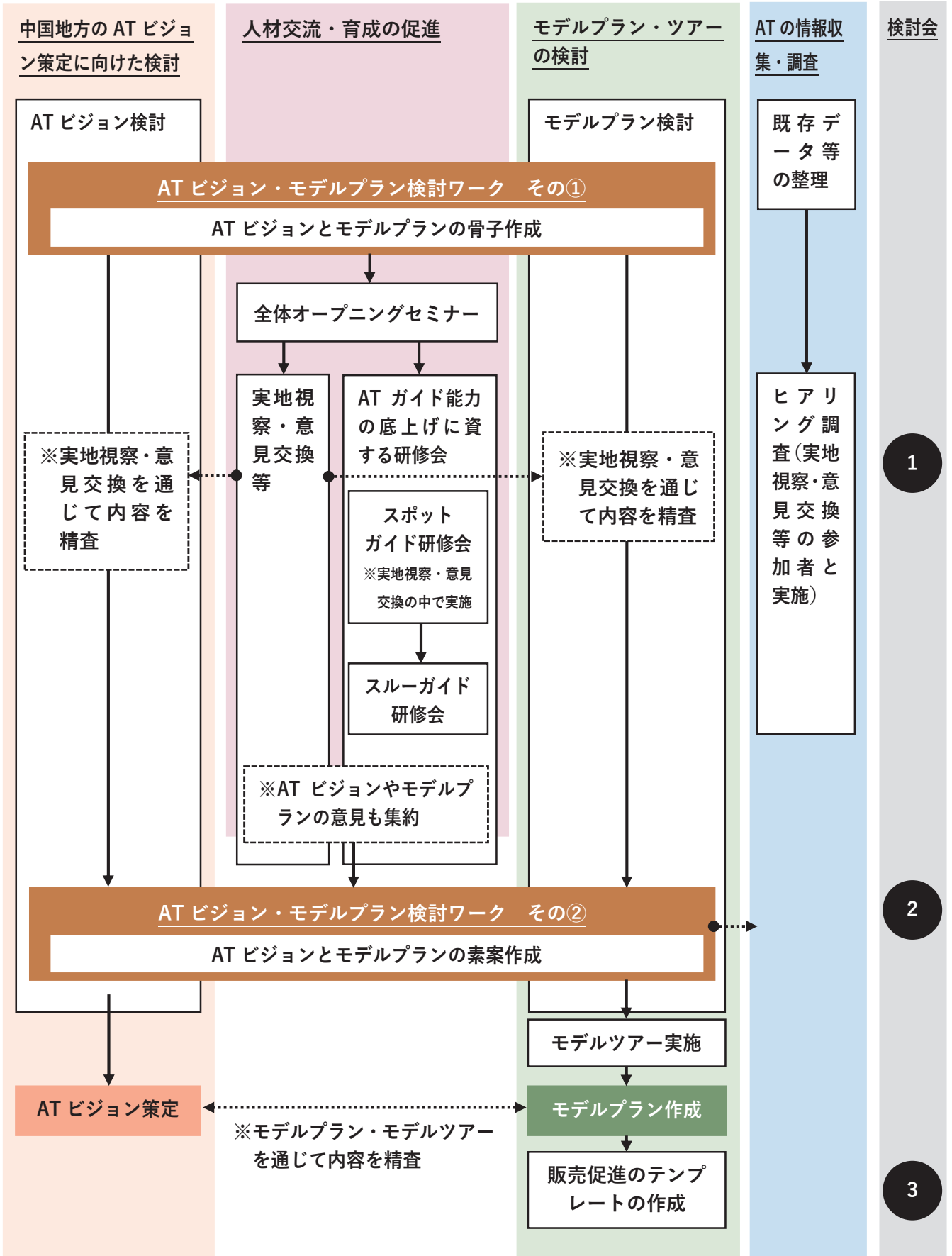
令和6年度にサステナブルな観光とアドベンチャーツーリズム（以下「AT」という）のプラットフォーム検討事業を行い、プラットフォームの役割と組織構造の案を固めるとともに、少数のコアメンバーによるプラットフォームとしてのネットワーク組織「中国地方アドベンチャートラベルネットワーク（Chugoku Adventure Travel Network（以下「CAT」という））」の立ち上げに寄与した。

現在、中国地方全体としては各地域のATガイドの質と量の底上げ、AT要素の1つである異文化体験の魅力向上、中国地方のATにおける事業者等の連携強化が求められている状況にある。

このため、本事業では上記課題を解決するために、中国地方におけるプラットフォーム参加メンバーの拡大や、人材交流・育成に向けた実地視察や研修会の開催、ATコンテンツの調査、各地域のストーリー性を考慮したモデルプランの作成に取り組み、中国地方のAT市場の拡大を目指すこととする。

# 1-2. 実施フロー

以下の流れで事業を行った。



## 2. 中国地方の AT ビジョン策定に向けた検討

### 2-1. AT ビジョン・モデルプラン検討ワーク

#### (1) 第1回 検討ワーク

##### ① 開催概要

##### ○開催日時

令和7年8月6日（水）～7日（木）

##### ○開催場所

ユーハイム似島歓迎交流センター

##### ○実施目的

- ✓ AT ビジョン・モデルプランの検討（方向性・たたき台作成）
- ✓ コアメンバーの関係性強化

##### ○参加人数

ランドブレイン、Hiroshima Adventure Travel、Expe、てんちゃんのサーフィングクラブ、合同会社 MAV、岡山県観光連盟、地域ソリューションパートナーズ、瀬戸内市観光協会（オンライン）、中国運輸局（オンライン）

※合計参加者数 13名

##### ○検討内容

##### 1日目

##### ●AT ビジョンについて

##### ワークその1

- 中国地方としての AT 推進の意義
- 中国地方の強み・多様性
- 中国地方のストーリー・価値
- 目指す未来像・キーワード

##### ワークその2

- 行動方針
- 今後の戦略・展開
- 関係者の役割

##### ●モデルプランについて

- テーマ・ストーリーのアイデア出し
- テーマに分かれてグループ議論：1時間30分
- 発表共有：15分

##### 2日目

##### ●1日目に検討したビジョンとモデルプランのとりまとめ



## ●記録

《中国地方の状況や実施する意義》 ※ワーク形式での実施のため、発言のあったキーワード記載

- ・中国地方はインバウンドが来ていない ⇒AT の概念+コンテンツが必要
- ・山陰、山陽で区切らない（行政の区切りで区切らない）
- ・ターゲットはインバウンド ⇒なぜ、呼ぶのか？ 持続可能なまちづくりにつなげる

★AT のジャンルで括る

★主語を決める！（事業者⇒観光関係者⇒地域）

国内／インバウンド AT 中心か？ 世界の観光者

★中国地方がどういうものかを考える = 定義（AT はあくまで手段）

⇒ “このエリアならではの”が必要

★AT を通じて、自分たちを再認識できる

- 誇りをみつける（AT をきっかけに）
- 次の世代に地域を引き継ぐ
- 歴史からつむいできた知恵や技術
- 自然観の違い

## 《中国地方の強み》

- ・世界遺産が4つ、原爆の被害を受け、そこから再生したまち＝広島が含まれている
- ・欧米豪の観光客が多い
- ・アピール力がある
- ・広島（平和都市）がある（＝マグネットになる）
- ・日本のはじまり（日本人のルーツ）がある  
⇒出雲、神様、感謝（神が宿る）、礼儀正しさ
- ・日本の美しさ／復興
- ・日本の精神性、心
- ・自然（中国山地等）／文化／歴史（北前船の貿易）
- ・自然崇拜・循環（地域に様々なものが残っている）

《中国地方の AT 行動指針検討》

行動方針に関する要素・キーワード		
● 守る (例：オーバーツーリズム対策 ⇒ 自然を守る等)	● 自然・信仰・文化	● 幸せになるために、多くの仲間(みんな)で取り組む／場が必要(巻き込む)
● 主語は人	● 体感・体験 (こういう体験をつくる)	● 経済活動(持続化)の視点も大事
● 感謝する	● 時間・時、刻む(静と動)	● 成長し続ける(1人ではなくみんな)でやれる)
● 共生	● 過去・現在・未来	● 中国地方の価値
● 営み	● 平和	● 自然の摂理に寄りそう
● つなぐ、つながる、出会う、ご縁	● 準備する人の時間も大事	● 地域の活性化
	● ちょうど良い	



《中国地方 AT 行動指針(案)》

我々は

**この国のアイデンティティを消さないために、  
中国地方全体で地域と世界をつなぐツーリズムをつくり続ける**

ために、以下の考えで行動します。

自然の摂理に 寄り添う	地域・世界に 貢献する	価値を認識・発見、 残す・伝承する	提供する	ブランディング、PR
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然を壊さない</li> <li>● 自然に寄り添い開発を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関わる地域に貢献する、つなげる</li> <li>● 世界に対して貢献する視点</li> <li>● 地域の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の宝、価値を再発見、認識し、地域の誇りを未来につなぐ・残す</li> <li>● 伝承することを重要視・残す</li> <li>● 八百万神が宿る、感謝の心を伝える</li> <li>● 文化を感じ、伝え、つなぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 唯一無二の旅</li> <li>● 人生観が変わる価値</li> <li>● 人の営みを体感できる時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイドで生活できる(暮らせる)</li> <li>● ステータスをあげるブランディング</li> <li>● 中国地方を見にoidsと云えるような地域に</li> <li>● 地域のファンを増やす</li> <li>● ツアーだけでなく、メディアでも発信</li> </ul>



組織の役割

● 地域で活動する(したい)人と手を取り合い活動する	● プロモーション、販路拡大	● 自治体や観光連盟、DMOとの連携、売り込む	● 相互理解も重要
● 3年のロードマップをつくる	● キャラバンを通じて仲間を集う	● 集客・送客	● 多様性を認める
● 中国地方の情報をまとめる(海外から見もらう)	● 目標(ゴール)、KPIを設定	● 売れるツアーをつくる	
● 事業者(サプライヤー)の整理	● 地域をPR(HP等)	● 自走するプラットフォームの形を検討	







## (2) 第2回 検討ワーク

### ① 開催概要

#### ○開催日時

令和7年12月4日（水）

#### ○開催場所

オンライン会議

#### ○実施目的

- ✓ ATビジョンの共有・意見交換
- ✓ モデルプランの共有・意見交換

#### ○参加人数

17名

#### ●中国ATビジョンについて

##### 意見

- ・ 生態系の維持および生態系の持続性への配慮は欧米向けには意識しておくことが必要。ストーリー作りにはこの部分は不可欠の重要視点。
- ・ 中国エリアの各地域において意識的に落とし込んでいくことは、この段階で共通認識として持っておいていただきたい。
- ・ 広島がエリアの核であるなか、山口でのディスカッション（キャラバン）でも「平和」というワードが出た。陰と陽に含んでいるという話なのか、敢えて入れていないのか考え方を聞きたい。
- ・ 神道がメインになっているが他に仏教的な要素はないのか。
- ・ 神道と仏教に関わらず、何かしら、対比からの融合、調和に持って行き、そこからまた平和を考えるとというくり方、そして最後は広島がスタートだったり締めだったり、それは分からないが世界に向けて発信する強力なメッセージになるのではないか。
- ・ 行動ポリシーを実現するための5つの方針が良いので、これに沿ってお客さんも地域、事業者も喜んで、始めて、続けていけたら良い。
- ・ 中国エリア（山陽、山陰）でどのように売っていかうか考えているが、深い精神性に出会うとか、そもそも日本のなりたちとかを体験できるのが中国エリアというのはすごく良い。
- ・ 日本の始まりに触れることができるのは「ここだけ」といった占有性が出せることを期待している。われわれも協力したいし教えていただきたい。
- ・ 私たちにも分かりやすく、地域の関係者に伝える際にも理解を促進しやすい内容にまとまっている。
- ・ 中国地方のポジショニングでは、この地方が唯一無二なところもあれば、逆に他の地域でも同様なことが言える。差別化を図り、こちらを選んでもらうためのブランディングや発信が大事である。
- ・ 中国という言葉が自治体名に置き換えたら、そのまますべてのスライドがその地域の人に落とし込みができそうなほど完成度が高い。
- ・ 他の地域でも「日本の始まり」をテーマにしているところが多いとのことであるが、私自身も学びながらテーマに沿ってツアーを考えたい。
- ・ 足りないと思うのが「ちゃんと稼ぐ」という点である。皆さん、きれいにまとまっているとのコメントだが、きれい過ぎるような気がする。
- ・ 関係者を共感させ巻き込むためには、ATで稼いでそれを地域に還元するということが見えなければならない。これを入れ込むとすれば、行動指針のなかの「価値を認識・伝承する」という部分か。このなかで「価値に見合った対価を得て地域に還元する」という経済的に自分たちも潤っていくという表現があった方が良い。

○モデルプランについて

参加者からの質問・コメント	回答・意見
モデルプラン①について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動の自転車は電動自転車か、ノーマルか。レンタルか、持ち込みか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本はeバイクを想定している。eバイクじゃない方が良い人には別のものに対応したい。基本はレンタル前提。サイクリングだと、サイクリングを楽しみながら地域のことを知りたい層だと思うので、そういった人が対象になると考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>コースは何を目的にした設定になっているのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島側の近代の平和と日本古来からある平和的な思想（出雲大社や稲佐の浜）をつなぎたい。</li> <li>出雲の神話とたたらは欠かせない。そのあたりをつなげられたらと思っている。各地の平和の要素をつなぎたい。</li> <li>スタートとエンドは、イメージが固まっているくらいだが、宿泊のクオリティを担保する必要もあるので、ルートは限られると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>季節によっては、大山は登るのが厳しいかもしれない。俯瞰で景色を見られることを考えて、大山中腹のトレッキングの方が入りやすい。工程の最後に登山となると、体力にもよるが、地元の人でも、時期によって大山登山は厳しい。</li> <li>平和的な要素や昔のはじまりの内容であれば、ルートは逆の方が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山登山はあまり考えていない。サイクリングのゴール（締め）として全体が俯瞰できればと思っている。バスで行けるところまでアクセスし、少し歩いて全体の景色が見られる場所へといったイメージを持っている。</li> <li>巡る順番については、最後が広島だとそちらに全部引っ張られる感じがする。入口として広島があり、そこから過去を遡っていく方が、ストーリー構成として作りやすい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大山はバスでギリギリのところまで移動し、そこから30分歩けば全体を俯瞰できる場所がある。冬場でもスノーシューで行けるので、協力したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぜひお願いしたい。冬場はこのエリアを自転車で完走するのは不可能なので、基本的には春、秋で実施できればと思っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もののけミュージアムを入れているが、平和につなげられるのかという危惧もある。妖怪のせいにより争いを避けるという流れに何とか持っていけるかとも思うが、平和とたたらはもっと深くつなげるよう考えなければならぬ。皆さんからもっとアイデアをいただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>湖畔ステイズ庄原（丘陵公園）は宿泊のみか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その予定である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>丘陵公園内に田園風景を残した場所がある。半日、田園をゆっくりと歩くことができ、横田の田園風景との比較もできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イントロクとして使えるかもしれない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>たたらについて、木炭を採取するために森林伐採してきたという面もあるが、そのなかで自然と人間が共存してきたという広い意味での平和に結びつけられるのではないかと感じた。もののけについても、昔の人たちが自然も含め目に見えないものとこれまでどう対峙してきたかという点も、間接的ではあるが平和につなげられるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原爆被災者が100キロ離れた庄原まで歩いて避難した。この距離を実際に歩いたという事実は一つのストーリーになり得るのではないか。当時、中学生だった祖父は兵士志願だったが、家族は猛反対した。戦争一辺倒の時代に、農村部での人間らしいこのような実体験はストーリーに入れることもできる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>たたらと平和がどうつながるか。世界的に見ると、鉄は領土拡大によってその土地で採取・生産し、取り尽くしたらまた次の領土拡大のための争いが起きていた。たたらは領土拡大ではなく、地域内の資源を活かす循環型社会のなかで鉄を生産してきた。このことは平和、循環型社会、まわりとの調和を表し、争いごとを起こさなかったという点で評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンド想定なので、日本人の自然観や平和的なところが訴求できるかもしれない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1月は難しいが、季節の良い時期にたたら刀剣館からたたら山内までeバイクで走るのはとても気持ちが良い。奥出雲のそばや田園風景を見ながら、たたら食と文化に触れることもできる。</li> <li>平和に関しては、長崎で自らも被爆しながら患者の治療を続けた、雲南市ゆかりの永井隆の記念館がある。</li> <li>出雲市は中国山地の土砂が堆積してきた平坦な平野であり、サイクリングしながらそのダイナミックさを感じてもらえる。弓ヶ浜も同様な経緯がありこれらのエッセンスを伝えることにより、地形のなりたちと文化をさらに理解してもらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雲南、吉田から出雲大社までのルートはどこが良いか、また相談させてほしい。1月はサイクリングができないので、車走行によるルート設定になる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人と人との争いということに止まらず、自然との調和という意味で平和を考えるとということも良いのではないか。私はマネジメントの次に来る経営のコンセプトはハーモニーであるということをずっと主張している。例えばアジアと日本の調和、人々と自然の調和、人々同士の調和などは、日本らしいキラコンテンツだと思っている。鉄から刀剣が生まれ原子爆弾に至るまで、文明の発展だけが人々を幸せにするのかということを考えさせることも、日本らしい切り口である。それを経験した日本だからこそそう言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の人たちも今、人類の文明発展の歴史を検証する時期であると感じている。そのヒントの一つがここにあるということは、セールスしていく上でも重要な視点である。</li> </ul>
<p>プラン②について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>プラン②はもっと粗い計画である。岡山でキャラバンをした時には、鉄と刀でルートづくりをしようということになったが、鉄だけでは相当マニアックなツアーになるだろうとの懸念があり、海外に向けてはサムライとつなげる必要があるとの結論になった。現在、Netflixでは「イクサガミ」という侍ドラマが世界的にも注目されている。日本のサムライ文化の中心地が中国地方であり、そこで刀を作ってきたということは、サムライを中心に据えたツアー構成ができるのではないかと。ただし、このルートをサイクリングでつなげるかどうかについては全く考慮してはいない。サムライの精神を伝えられるところがこのエリアにあるかどうか知りたいが、おおよそこんなルートになるのではという粗いイメージでこのルートと作ったので、皆様からご意見をいただきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>サムライをストーリーとするのであれば武将が必要となるのではないかと。鉄の伝来ルート（大陸から出雲を経由して入ってきた）とは逆の岡山市の吉備津神社の神事からスタートするというのも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モノづくりから入ると狭まる気がする。サムライの精神性に海外の関心が高まっている。入口としての間口を広げることは大事だが、サムライを語る上では日本刀は欠かせない。最初に日本刀がどんなものか分か</li> </ul>

<p>私自身、サムライでストーリー化することが今は想像できない。</p>	<p>った上でツアーを始めないと、中だるみするような気がする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>サムライというイメージから入っていくのか、刀という物から入っていくのか、どういうストーリー性を持たせて誰をターゲットに売っていくかによって組立てが変わる。瀬戸内市の刀剣博物館に来る2千人のフランス人をターゲットにするのであれば刀から入るのが良いし、サムライ、日本、イメージということであれば、そちらから入る方が良い。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>瀬戸内市にはイギリス人とフランス人の多言語支援員がおり、彼らは刀の学芸員や刀の研究で来日したという経歴を持ち、彼らに聞いてみるのでこのテーマは私の宿題として預らせてほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>雲南市の旅行会社が、Samurai are Still Here を企画している。情報提供として見ていただきたいが、松江城には侍はまだ生きているというコンセプトのもと、お茶と日本食を楽しんでもらいながらガイディングで補足説明していくというものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>締めは出雲大社、松江城、どちらが良いか考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>昨日、カナダ人2名のガイドをしたが、アメリカへの敵対心が感じられるなか、広島がどうアメリカと接してきたか（オバマ大統領が来て被爆者と握手を交わすなど）を説明したが、世界の情勢がナショナリズムやファシズムの方向に進んでいると感じた。もう一つは一昨日、山伏修験道を宮島で行ったが現在、人は知ったつもりでも感じるということをおぼれていると思う。</li> <li>今なぜ日本に興味があるかと言えば、茶道や華道などの道の部分についてであろう。サムライは武士道を体現する人であり、武士道から入っていくのが面白いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士道を語れるポイントがこのエリアのどこにあるか、そういったところがちりばめられれば良いが。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>岡山から新見までの間はサイクリングでなくても、伯備線に乗るのも良い。そういう可能性もあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それは十分可能だが、単にサイクリングではきつからという理由ではなく、その鉄道が通った背景など理由づけが必要である。プラン①の木次線は、赤字路線ながら存続している何かしらの理由を伝えられないかという思いからコースに入れた。きちんとした背景があれば鉄道移動も可能である。</li> </ul>
<p>プラン③について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>プラン③はほとんど形になっていないが、壮大な秋吉台を含めたツアーはあってほしい。どういうコンセプトで秋吉台を使うかというアイデアが私自身にもない。秋吉台と他のポイントをどのように一体的につなぐのが効果的か、2つの県にまたがるツアーの必要性やテーマの深まりも鑑みつつ、秋吉をどう活かすかについてご意見をいただきたい。</li> <li>秋吉台に着目する理由の一つは、地元的美祢市が今 AT に力を入れており、秋吉洞プレミアムツアーや本来は入れないカルストをeバイクで走るなどの企画を展開しており、何かしら一緒に活動できればと思っている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>秋吉台は陰と陽が交わる場所であり、何かあるか分からないが、秋吉台に陰と陽が交わった要素があれば良い。</li> </ul>	<p>—</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>秋吉台の陰と陽とは、洞窟の内部と外部を指すのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それもあるが、山陰側と山陽側の文化の交わりみたいなものが、存在しているかどうかということである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>先月、秋吉台でのツアーを実施したと思うが、その背景やコンセプトから説明いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弊社が実施しているのは、秋吉台から発した水の流れをたどるというもので、陰と陽という話しにはあまりマッチしないと思うが、昔、山陰と山陽をつなぐ街道の一部で人々の往来があったという点は狙いに合致する。</li> <li>何街道だったかはすぐに出てこないが、秋吉台のなかに1カ所だけ長者が森という森があり、昔そこを目印にして人が往来していたというのは間違いのない事実である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>秋吉台から島根へのツアーでは、長門を経由して日本海側に行くのか、それとも一旦山口に戻って津和野に行くのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おそらく一旦山口市に戻るルートだったと思う。秋吉台の観光案内所の方が島根県的情報を欲しており、JR山口線で日本海側を移動しているようだ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省が設定している長距離自然歩道というものがあり、極論すると九州から青森まで歩いて行けるルートがあり、秋吉台あたりを通るコースもありそうである。国もこういうコースを整備しているということを、情報提供として伝えておく。</li> </ul>	<p>—</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後モデル①、②、③について詳細を調査し、有益情報があれば逐一田添さん経由でも直接でも構わないので教えていただきたい。おもしろいプランを作成したいと思うのでよろしく願いしたい。</li> </ul>	

# 3. 人材交流・育成の促進

## 3-1. 全体オープニングセミナー

### (1) 開催概要

#### ○開催日時

令和7年8月27日(水) 15:00~17:00(第1部)  
17:00~19:00(第2部)

#### ○開催場所

TSUTAYA BOOKSTORE 岡山駅前 Wonderwall

#### ○実施目的

- ✓ アドベンチャーツーリズムのさらなる浸透
- ✓ アドベンチャーツーリズムの中国地方全体での実践への展開
- ✓ アドベンチャーツーリズムの推進に共感する賛同者の拡大・ネットワーク構築

#### ○講師

(一社) Hiroshima Adventure Travel 佐藤 亮太 氏

#### ○参加人数

現地 19名、オンライン 30名、計 49名参加



### ○プログラム

#### 第1部 オープニングセミナー

1. 開会
2. 今年度事業全体の趣旨及び流れの共有
3. 実践的勉強会 中国地方が一体となったアドベンチャーツーリズムの「実践」に向けて  
講師：(一社) Hiroshima Adventure Travel 佐藤 亮太 氏
4. AT ビジョン・モデルプランのアイデア共有
5. 意見交換会

#### 第2部 交流会

※現地参加者のみ

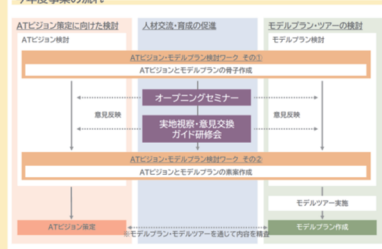


## 2. 実施結果

### ○ 今年度事業全体の趣旨及び流れの共有

- ・ 事業に関連するこれまでの背景と経緯、今年度事業の流れ等について説明。

<p><b>01 今年度事業全体の趣旨及び流れ</b> これまでの背景と経緯</p> <p>「持続可能な観光」や「アドベンチャーツーリズム」へのニーズの高まり 観光立国推進基本計画において、「持続可能な観光」がキーワードとされており、サステナブルな観光やアドベンチャーツーリズム(AT)へのニーズが高まってきており、高付加価値な自然文化体験型観光が注目されています。</p> <p>中国地方のアドベンチャーツーリズムの実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知度向上や認知促進に課題！！</li> <li>● ATに持続的に関われる事業者や人材、ガイドが地域にない！！</li> <li>● ATの事業者同士のつながりや専門士のつながりがない！！</li> </ul> <p>ただ、...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高価値な「体験」がたくさぬある！！</li> <li>● みんなしんがっている！！</li> <li>● もっと中国地方を誇りにしている！！</li> <li>● ATで中国地方を盛り上げてほしい！！</li> <li>● ATで中国地方を盛り上げたい！！</li> <li>● ATで地域の課題解決や経済循環につなげていきたい！！</li> <li>● 各地域でATを推進する動きもある！！</li> </ul> <p>上記の課題解決や資源・人材・ニーズを活かすために...</p> <p>人や情報がつながる「プラットフォーム」が効果的</p>	<p><b>01 今年度事業全体の趣旨及び流れ</b> これまでの背景と経緯</p> <p>昨年度は、地域の垣根を超えた事業者交流の「場づくり」を行いながら、ATと一緒に取り組む仲間を求め、対話を重ねながら、「プラットフォームのあり方」を検討。</p>  <p><b>Chugoku Adventure Travel Network を設立</b></p> <p>代表 佐藤 亮太氏(一社)Hiroshima Adventure Travel 副代表 広瀬 健一(一社)epel</p> <p>このネットワークは、中国地方におけるアドベンチャーツーリズムの事業者・団体が連携し、相互の成長共有や交流を促進する場を創出し、地域の歴史・文化などの魅力を最大限に活用し、観光客の体験を向上させること、観光や地域振興に貢献する観光事業者のネットワークを創出して、観光客の向上を図ります。また、観光や地域振興に貢献する観光事業者のネットワークを創出して、中国地方全体の持続可能な観光や地域活性化に貢献することを目的としています。</p>	<p><b>01 今年度事業全体の趣旨及び流れ</b> Chugoku Adventure Travel Networkの目的と役割</p> <p>● 中国地方を世界に誇る目的地へ ● 地域で稼ぎ、持続可能なまちへ</p> <p>売る つながる 集める 育てる 伝える</p> 
--	--	--

<p><b>01 今年度事業全体の趣旨及び流れ</b> さらなるAT推進に向けた課題</p> <p>課題① AT推進への共感を広げ、地域全体を巻き込むための土壌をつくること 課題② 担い手が育ち、地域をつくる人材が活躍できる環境を整えること 課題③ 地域資源の魅力を引き出し、伝わるストーリーに編集すること 課題④ 地域を超えて旅をつなげるストーリーと仕組みを構築すること</p> <p>↓</p> <p><b>今年度事業の展開</b> (プラットフォームを活用した中国地方アドベンチャーツーリズム推進事業)</p> <p>上記の課題を踏まえ、プラットフォームを活用しながら、以下の取り組みを行い、中国地方のAT市場の推進・拡大を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 中国地方のATビジョン策定に向けた検討</li> <li>② 人材交流・育成の促進 ・ATの現地地帯・意見交換等の実施 ・ATガイド能力の向上に資する研修会の実施(スポーツガイド・スルーガイド向け)</li> <li>③ 中国地方におけるATコンテンツの情報収集・調査</li> <li>④ モデルプラン・ツアーの検討・作成、モデルツアーの実施</li> </ol>	<p><b>01 今年度事業全体の趣旨及び流れ</b> 今年度事業の流れ</p>  <p>ATビジョン策定に向けた検討 → 人材交流・育成の促進 → モデルプラン・ツアーの検討</p> <p>ATビジョン策定 → オープニングセミナー → 現地地帯・意見交換ガイド研修会 → 現地地帯</p> <p>ATビジョン策定 → モデルプラン・ツアーの検討 → モデルプラン・ツアーの実施 → モデルツアーの実施</p>
--	---

### ○ 実践的勉強会 中国地方が一体となったアドベンチャーツーリズムの「実践」に向けて

- 講師：(一社) Hiroshima Adventure Travel 佐藤 亮太 氏
- ・ 佐藤氏のこれまでの取組や広島県内をはじめ、中国地方における展開について講演いただいた。

※以下、当日投影資料より抜粋

 <p>中国地方が一体となったアドベンチャーツーリズムの「実践」に向けて</p> <p>一社社長 佐藤 亮太氏 業務執行理事 佐藤 亮太</p>	 <p>アクティビティ → 楽しい研修</p>	<p>一貫したエモーショナルアーク設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティビティ：ツアーの中に、成功体験の積み重ね、フロア体験、環境との一体感を組み込み、最後に大きな達成感を得られるように</li> <li>・ その他の体験：体験・ガイドングが、コンセプトからずれておらず、一つのストーリーになっていて、最後に大きな感動を得られるように</li> </ul>												
<p>シャワークライミング エモーショナルアーク</p> <table border="1"> <tr> <th>【導入】</th> <th>【準備・確認】</th> <th>【上記】</th> <th>【リラックス】</th> <th>【クライマックス】</th> <th>【リフレクション】</th> </tr> <tr> <td>・ 懸崖前準備 ・ 安全確認 ・ 装置点検</td> <td>・ 安全確認 ・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備</td> <td>・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備</td> <td>・ 自然との一体感 ・ クライマックス ・ 前回の</td> <td>・ 自然との一体感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感</td> <td>・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感</td> </tr> </table> <p>感情の起伏を誘う、ガイドが必須</p>	【導入】	【準備・確認】	【上記】	【リラックス】	【クライマックス】	【リフレクション】	・ 懸崖前準備 ・ 安全確認 ・ 装置点検	・ 安全確認 ・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備	・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備	・ 自然との一体感 ・ クライマックス ・ 前回の	・ 自然との一体感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感	・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感	<p>参加者推移</p> <p>シャワークライミング実施数</p>  <p>60 (2018), 200 (2019), 300 (2020), 854 (2021), 862 (2022), 774 (2023)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感動レベルの体験をつくること</li> <li>・ いつでも予約できる！環境をつくること</li> </ul>	<p>「アドベンチャーツーリズム (AT)」との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティビティ、体験型プログラムという言葉では弱い 一音階が必要だと感じていた</li> <li>・ アドベンチャーツーリズムとの出会い (2019年12月22日)</li> <li>・ 自己変容が1つのキーワード</li> <li>・ 地域の持続可能性に着目</li> </ul> <p>・ これだ！ ・ 軸ができ、方向性が定まったことで、 ・ 事業構築が加速</p> 
【導入】	【準備・確認】	【上記】	【リラックス】	【クライマックス】	【リフレクション】									
・ 懸崖前準備 ・ 安全確認 ・ 装置点検	・ 安全確認 ・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備	・ 懸崖前準備 ・ 装置点検 ・ 懸崖前準備	・ 自然との一体感 ・ クライマックス ・ 前回の	・ 自然との一体感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感	・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感 ・ 達成感									
<p>アドベンチャーツーリズム (AT) について</p> <p>アドベンチャーツーリズム (以下、AT) とは アクティビティ、自然、文化体験の要素を盛り込み、高付加価値な旅。</p> <p>旅行者が地域独自の自然や文化を、地域の方々と共に体験し、自己変容・成長の実現を目的とする旅行形態。</p> <p>「アドベンチャー」は「冒険」を意味する。アドベンチャーは「冒険」を意味する。アドベンチャーは「冒険」を意味する。アドベンチャーは「冒険」を意味する。</p> <p>一内的なワオ！！すげー！！ をいかに作れるか</p>	<p>アドベンチャーツーリズム (AT) について</p> <p>AT旅行者の特徴として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育水準の高い富裕層の割合が高い</li> <li>・ 通常の旅行者の約2倍の消費額</li> <li>・ 平均で14日間と長期間の滞在を好む</li> <li>・ アウトドアギア (用具、装備) にもこだわる</li> </ul> <p>経済波及効果が高く、北米・欧州・南米の主要地域ではそれぞれの国内市場を除く海外での消費額のみで約16830億ドル (76.5兆円)</p> <p>目的地を選ぶにあたっては、その地域の魅力はもちろん、旅行者がATを通じて、地域の自然・社会環境のサステナビリティ、地域住民の雇用・所得向上に貢献できるかといった視点が重視されるなど、従来の旅行とは違った観点で構築された質の高い旅行プログラムが求められる</p>	 <p>143.2億 (2018), 150.0億 (2019), 160.0億 (2020), 170.0億 (2021), 180.0億 (2022), 193.2億 (2023)</p>												





(中国地方の AT の現状に関する報告内容)

山陰地方	CAT 副代表 (一般社団法人 Expe) 広瀬 徹氏
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 鳥取、島根、山陰というところで、日本海に面していて、大山隠岐国立公園があり、日本海に迫っている中国山地があり、自然的な環境、アドベンチャートラベルの舞台としては、様々な資源があると考えている。</li><li>● 実際に鳥取、島根それぞれにプレイヤーとして、先ほど例示のあったシャワークライミングやシーカヤック等、それぞれ様々なアクティビティはあるが、これらをしっかり AT として体系立てて、先ほど佐藤氏が発表されたように、商品のもっと突き詰めたストーリーをバックグラウンドにした商品造成というものをもう少し突き詰めていく必要がある。</li><li>● 物理的な提供の仕方は、色々と改善の余地があると思っている。さらに、プレイヤーの方々とネットワークというのは、まだまだ希薄と思っているので、CAT の取組にあわせて山陰地方の方でも、鳥取、島根全体で、AT のネットワークをつなげていくことによって山陰の AT の魅力をもっと増して中国地方全体でネットワークの中で様々な楽しみ方、ストーリーをもって、様々な商品を提供できればと思っている。</li></ul>
岡山県	岡山県観光連盟 池田 隆文氏
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 我々は観光連盟なので、直接的・主体的に事業を進めていく立場ではないが、岡山県内の取組をお伝えしていければと思っている。</li><li>● 岡山県では、9月8日に岡山県内外の観光事業者、特にアドベンチャーや体験を主体的に取り組まれている方々に岡山で一堂に会してもらい、相互理解を深めるような会議を実施したいと思って準備をしている。特に、課題や成功事例など、今後どういったところを伸ばしていきたいかというところを県内の事業者同士で共有しあって、今後の販売促進や会の拡大のきっかけになればと思っている。</li><li>● そこには、広島の方、中国地方の皆さんが取り組まれている活動をしっかりと共有する場を設けて、今回実施していただいている事業を、岡山県内でも共有を深め、中国地方全体の動きに参加していただくというような組織づくりを進めていきたいと考えている。</li></ul>
山口県	山口県観光政策課 古川 知弘氏
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 山口県はアドベンチャーツーリズムと若干経緯は異なるかもしれないが、アウトドアツーリズムの構築に向けて、様々な取組を進めている。</li><li>● 令和5年にアウトドアツーリズム創出会議を設立し、体験のコンテンツの開発やプロモーションの展開を進めているところである。その中で、ガイド人材の育成もしており、10月にも開催するが、アウトドアツーリズムのシンボルイベントということで、アウトドアフェスを開催し、アウトドアツーリズムの周知・定着を図るといった取組をしている。</li><li>● また、山口県内の錦地区に錦川というきれいな川があるが、そういったところをテーマに、人がつながることをテーマにツアーを組んだり、取組を進めている。</li></ul>

# ○ AT ビジョン・モデルプランのアイデア共有

・ 8月に実施した検討ワークの結果を基に概要を説明。

<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○目的 ATビジョン・モデルプランのアイデア出し・方向性の検討を行うこと</p> <p>○実施日時 令和7年8月6日(水)～8月7日(木)の2日間</p> <p>○参加メンバー Hiroshima Adventure Travel, Expe. メディアスコープ、てんちゃん のサーフィングクラブ、合同会社MAV、岡山県観光連盟、地域ソリューション パートナー、瀬戸内市観光協会、ランドブレイン、中国運輸局</p> 	<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○中国地方におけるAT推進の意義は??</p> <p>★地域や自分たちを再認識できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隔りをみつける</li> <li>・ 次の世代に地域を引き継ぐ</li> <li>・ 歴史から紡いできた知恵・技術をつなぐ</li> <li>・ 自然観</li> </ul> <p>★行政区域で区切れない面白さ</p> <p>★インパワンドの集香</p> <p>○中国地方の強みは??</p> <p>★世界に誇る資源</p> <p>世界遺産(4つ)、広島(平和都市)、日本のはじまり(出雲・神話)</p> <p>★自然・文化の多様性</p> <p>中国山地や里山・里海、棚田、神楽、アート(瀬戸内)</p> <p>★歴史と精神性</p> <p>北前船の貿易、日本の精神性・心、自然崇拜・循環、神道・八百萬神</p>	<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○中国地方のAT行動ポリシーは??(案)</p> <p>この国の(中国地方の?)アイデンティティを紡いでいくために、 中国地方全体で地域と世界をつなぐツーリズムをつくり続ける</p> <p>そのために</p> <table border="1"> <tr> <td>自然の再生に寄り添う</td> <td>地域・世界に貢献する</td> <td>価値を認識・共創・伝承する</td> <td>旅の時間を提供する</td> <td>ブランディング・PRを行う</td> </tr> <tr> <td>●自然の再生に寄った開発</td> <td>●地域への経済的・文化的な貢献</td> <td>●地域の宝・価値を再発見・認識し、地域の誇りを未来につなぐ</td> <td>●唯一無二の旅を人生観が変わる</td> <td>●中国地方を目的地に</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●世界への貢献</td> <td>●伝承を重要視</td> <td>●人の営みを体感できる時間</td> <td>●中国地方のリアルブランディング</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●地域のファンを増やす</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●世界へ発信するメディア</td> </tr> </table>	自然の再生に寄り添う	地域・世界に貢献する	価値を認識・共創・伝承する	旅の時間を提供する	ブランディング・PRを行う	●自然の再生に寄った開発	●地域への経済的・文化的な貢献	●地域の宝・価値を再発見・認識し、地域の誇りを未来につなぐ	●唯一無二の旅を人生観が変わる	●中国地方を目的地に		●世界への貢献	●伝承を重要視	●人の営みを体感できる時間	●中国地方のリアルブランディング					●地域のファンを増やす					●世界へ発信するメディア
自然の再生に寄り添う	地域・世界に貢献する	価値を認識・共創・伝承する	旅の時間を提供する	ブランディング・PRを行う																							
●自然の再生に寄った開発	●地域への経済的・文化的な貢献	●地域の宝・価値を再発見・認識し、地域の誇りを未来につなぐ	●唯一無二の旅を人生観が変わる	●中国地方を目的地に																							
	●世界への貢献	●伝承を重要視	●人の営みを体感できる時間	●中国地方のリアルブランディング																							
				●地域のファンを増やす																							
				●世界へ発信するメディア																							
<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○実現できそうなモデルプランは??</p> <p>テーマ:自然(大地・鉱物・神道)</p> <p>プランの狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然・鉱物・神道を一体的に体験</li> <li>● 鉱物と人間の関わり(例:銀=文化を育む/ウラン=破壊をもたらす)を学ぶ</li> <li>● 出雲大社・厳島神社を結節点に据え、広島へとつなげる</li> </ul> <p>プラン案(よりロングで構築する際は、秋吉台もルートに)</p> <p>1日目 岡山県:吉備津神社で「神道」に触れる 岡山県:新見市で「ウラン」 → 地質・鉱物に触れる</p> <p>2日目 鳥取県:三朝神社で休養と癒し 鳥取県:三徳山で修験道・大山でジャワークライミング → 自然の中でアクティビティのピーク</p> <p>3日目 鳥取県:出雲大社・出雲(たたら文化)・石見銀山を經由し、広島へ</p> <p>4日目以降 鳥取県:出雲大社・出雲(たたら文化)・石見銀山を經由し、広島へ → 自然・鉱物と人の関わりを考える</p> 	<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○実現できそうなモデルプランは??</p> <p>テーマ:歴史</p> <p>プランの狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「刀」と「鬼」を入口に神話とたたら文化を体験</li> <li>● 自然・文化・歴史を横断的に楽しむ</li> <li>● 山陽と山陰の対比を通じて、中国地方の奥深さを体感</li> </ul> <p>プラン案</p> <p>山陽 × 山陰の対比と陽を感じながら、歴史・文化・自然を組み合わせたツアー</p> <p>岡山県:「刀」と「鬼」をキーワードに神話の世界へ 奥出雲町:雲南町:たたら現場体験 刀好き向け:刃先や製法 知的好奇心向け:森林伐採・砂鉄・棚田など暮らしの歴史 一般層向け:鉄の資料館(奥出雲・雲南・安来)</p> <p>大山・三徳山 現代版「修験」を体験</p> 	<p><b>03 ATビジョン・モデルプランのアイデア共有</b></p> <p>検討ワークの実施</p> <p>○実現できそうなモデルプランは??</p> <p>テーマ:食</p> <p>プランの狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5県を横断しながら「文化の違い」を楽しむ</li> <li>● 食・酒・体験を組み合わせ、多様な滞在型観光へ展開</li> </ul> <p>プラン案</p> <p>酒 × 食のペアリング 岡山、西条・竹原、山口 ご当地フードとの組み合わせ 山陽・山陰で異なる酒文化を比較</p> <p>ご当地食 × 体験 お好み焼きづくり、和菓子、お茶、そば打ち フルーツ狩り・体験 ※岡山+広島で構成も可能</p> <p>発酵食 × 薬味 × 一汁三菜 日本の伝統食文化を深掘り 発酵や薬味の役割を体験 地域の食文化の多様性 居酒屋・飲食街・ご当地メニュー スナック文化も含めた「夜の楽しみ」</p> 																									

○ 意見交換会

- |       |  |
|-------|--|
| 参加者 A | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国地方全体のリーブランドイングを考えていて、それが軸になっており、北極星（指針）をあぶり出していこうとされているのだと思う。話の中で、広島や湯来という範囲から、中国地方全体を通したコンタクトを作る必要があるとの思いにいたった流れやその経緯を教えてください。</li> </ul>  |
| 佐藤    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● これまで専門家からも、「広島だけでは狭い」と言われてきていて、そのことが頭の片隅にあった。その上で、去年、JNTO のアドベンチャーウィークに手を挙げた時に、広島県全域だと違うかもしれないが、広島市を中心とした半径 50km 程度の中のツアーでは、文化的な多様性が欠けるのではないかと意見があった。山陰と山陽の大きな文化圏の違いもあるし、日本に、2 週間から 1 ヶ月滞在し、多様な文化を見たいとのニーズがある中で、仮に中国地方に来てもらって、1 週間も滞在してもらえれば、少なくとも中国地方の中の、瀬戸内海から日本海側の様々な文化的な違いをうまく見せていくことで、文化の高みというか、日本人の自然観的なものを感じてもらったり、全然違う文化圏を見てもらったりすることによって、参加者に投げかけられるものがあるのではないかと考えている。</li> <li>● 国や専門家の指摘もあり、様々な文化背景を伝えることによって、より中国地方の深みが伝えられるのではないかとというのが理由である。</li> </ul> |
| 参加者 A | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界に向けて魅力を発信することが背景にあるのだと思うが、魅力をアピールしていく上で、中国地方のように、大きい地域の方が、インパクトがあると思う。実際に、私も中国地方出身だが、自信がない。実際に、佐藤氏は、海外に行かれたり、お客さんに接したりして、中国地方は、広島が平和の街として知られているにもかかわらず、実際に中国地方に来たらどのような魅力があるのか、具体的にピンと来る方が少ないとおっしゃっていたが、そのような会話をしていく中で、これなら世界に打ってでられそうとの脈があるとか手ごたえを感じられものがあるのか。</li> </ul>  |
| 佐藤    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 私もこの中国地方という立場で商談にのぞんだことがない。今年、ATWS に行って、話をしながら、果たしてどのような反応が来るのか、実際に話をしてみても、どんな反応が返ってくるかを見てみたい。全く脈がないのに、やるのかという話になるかもしれないが、話はしてみたい。</li> <li>● 例えば、厳島神社と出雲大社があり、深い日本文化が南と北にある。文化的な象徴があるので、それらをストーリーに編むことを、今からしっかり私も見つけたいと思っている。その辺のアイデアを皆で輪になってつくりあげることができたらよいと思う。</li> </ul>  |
| 参加者 B | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 私自身も昨年度から岡山におけるアドベンチャーツーリズムの推進ということで、フォーラムを開催したり、人材育成開発などの事業を推進している。今、啓発や認知の段階で、これからも当面積極的にやっていきたいと思っている。</li> <li>● ここからどのように、ガイドや事業者やコーディネーターが、例えば年収 800 万円、あるいは 1,000 万円ぐらいの事業感に持っていくための、次のイノベーションが必要だと考えている。我々もそこに向かって、どう具体的な施策を打っていけば良いかを考えている。</li> <li>● その中で、金脈に関して、佐藤氏が、今度パタゴニアに行って、是非感じていただきたい。1,000 万円プレイヤーなどの事業者が、世界的に「うじゃうじゃ」といるのか、もしそうなら、そうした人たちが日本中にどんどん出てくるのか。そこに向けて佐藤氏もどう動かれようかとされているのか、直近の</li> </ul>   |

<p>佐藤</p>	<p>策があれば、お話いただければと思う。佐藤氏だけではなく、是非皆さんからも意見いただければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● その策と一緒に考えたい。世界に行くと、年収 2,000～3,000 万のガイドが普通にいると思う。日本はまだ、そこまでは行っていないと思う。それは、為替レートの違いも含め色々な要因があると思うが、まずガイドに関して、まだまだ日本におけるガイドの地位、本当はガイドが最も重要だが、そこに対する認識や実際に支払われているフィーがあまりにも低い。ガイドとして、1,000 万円を一つの目安としてやることを、国も含めた観光業界が進める必要がある。国も今ローカルガイドをどんどん育成しなければ、東京一極集中がなくなれないと考えているところが表の事業としても出ていると思うが、その地域で稼げて、1,000 万円稼げるガイドをどれだけ生んでいくか。そのためには、ガイドという仕事がいかに魅力的で、かつ稼げるかというところを伝えていかなければならないし、実際にそういう人がもっと生まれていかなければならない。</li> <li>● 実際、私たちのツアーとしては、ガイドフィーとして、1日 5～6 万をベースで支払っているが、会社にもよるが、時給 3,000～4,000 円が一番ベースとして多く、これでは 1,000 万円は厳しい。最低でも、時給 5,000 円ベースとして、一日 5 万で月 20 日稼いで月 100 万円で、年 1,000 万届くかどうかというところ。</li> <li>● そのためには、ツアー費自体も高くし、ガイドにもフィーを流しても、DMC の方にもお金が残るようなことをする必要はある。</li> <li>● 広島では、ニーズはあるがガイドが足りていない状況で、通訳案内士が 300 名弱いるが、稼働可能者は 2 割ぐらいしかいない状態で、全然ニーズに対して追いついていないのが現状である。また広島は、人口の県外流出が日本一だが、学生や若い人に、ガイドという仕事が楽しくかつ稼げるという価値をどのように作って伝えていけるかが重要だ。スイスでは、国認定のガイド資格を持っていれば、飲食店が無料になるなどの制度もあり、お店にとってもガイドが、お客を店に連れてきてくれるメリットがある。</li> <li>● 飲食店がガイドの価値を認めることを含めて、国全体で行う話だと思う。また、しっかり稼げるツアーを作っていく。そのため、おそらく時間もかかり、私たちもまだ実際にガイドの年間売上で一人一人雇用するのは難しいのが正直なところである。今、国などの事業を受けながらなんとか回っている状況で、私たちも専任をおけておらず、結局ツアーの本数もこなせない状況である。どこのタイミングでどこにドライブを入れるのかは、私たちもまだ、かけきれていないのが、正直なところである。答えは全くないが、ガイドの魅力を高めつつ、単価を向上させることを地道にやっていくことしかないと考えている。</li> </ul>
<p>参加者 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おっしゃる通りで、我々日本人がこれまでの観光という概念で、どちらかというとマスツーリズム、大衆に消費してもらい、見てもらう物見遊山な観光という刷り込みがある中で、どうやって、その目に見えないものをガイドングすることで、マネタイズしていくか。パラダイムシフトというか、発想の転換、その自信のない中と、まさしくおっしゃる通りで、不安とか心配の中を突き進んでいくしかないだろうと思う。我々もアドベンチャーで。そういう気持ちでよろしくお願ひしたい。</li> </ul>

佐	藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● こんな金脈がありそうだなみたいな、実際色々な商談をして、何か感じる方がいらしたら、ぜひ教えていただきたい。</li> </ul>
広	瀬	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金脈というわけではないが、我々は山陰で今、観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」という事業の中で、キーワードが、ウリ、ヤド、ヒト、コネ、アシとそれぞれキーワードがあって、その中のヒトの部分のことについて言うと、ガイドだけではなくて、例えば、宿泊施設でのコンシェルジュを担う人。コンシェルジュとまではいなくても、ホテルのフロントできっちり対応できる外国語人材の人、それから、タクシードライバーなど。</li> <li>● 最低条件として、例えば、英語がきちんとできるということ。それから、英語ができて、そのキャラクター的に、お客さんに対して、ホスピタリティを持って接することができるかどうかということ。こういうことを、しっかりみんなで勉強していこうと、人材育成セミナー等は、様々なところでやられていると思う。ここに参加する方々は、例えば資格のない方もいらっしゃるし、あの全国通訳案内士という非常にハードルの高い資格を持っていらっしゃる人もいます。そういう人材もある程度我々は、把握していて、色々調査もして、山陰にはある程度こんな方がいらっしゃるというのは把握しているが、先ほどから話にある金脈というお金の文脈でいくと、その方がそういう一つのガイドであったり、あるいはコンシェルジュであったり、語学を生かして、観光という分野で生業として、仕事としてあるかということ、ボリュームが圧倒的に山陰においては少ない。</li> <li>● 今我々が検討をしようとしているのは、そういう人材の方々を我々がきちんと把握をして、ゆくゆくは登録をさせていただいて、ガイドがメインだが、空いている時間はほかの仕事もできる、語学を生かした他の仕事もできるという、プラットフォームを構築するかどうかということも含めて検討するというのを、今年度しようと考えている。</li> <li>● 本当に卵、にわたりの話になって、仕事があるからそこに来るのか、語学ができるからそういうことを仕事に持ってくるのかということだと思うが、そこがなかなかバランスよくスツといかないところがある。</li> <li>● 東京でも、たくさんの人材がいらっちゃって、色々なツアーがあるが、全国通訳案内士の方々、資格を持っていても、それがしっかり仕事を結びつけているという人は本当に全国的にも見ても2~3割だと思う。</li> <li>● 国として、何か考えていけないといけないのではないかと、そういうところまで訴えていく、あるいは我々も実証をやっていき、そういうことが必要だということを国なり、行政なりに訴えていくということも、ある1つのエリアとしてやっていき、それが実証できればできるのではないかと思う。</li> </ul>
佐	藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨日も、広島のとある大学の理事長と話をしていて、毎年140人近い方が学校のヒストプログラムで、半年ぐらい海外に行く。ただ、実際その人たちが英語を使う仕事に就いているかということ、おそらく1割程度。ただそこに魅力とフィーが観光の中でしっかり支払えることができる構造になっていくと、恐らく若い人たちがどんどん参入してくる。若い人たちがどんどん参入していかないと、産業としては衰退するしかない。産業構造自体をどう変えていくかという違う話かもしれないが、そういうところがATとして一石を投じていくところで、可能性としてあるのではないか。そういったところも、</li> </ul>

<p>オンライン 参加者</p>	<p>やっていたらと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AT 推進においては、フィールドとなる地域との関わりが構築する上で重要だと思う。企画や運営にどのように地域住民が関わっていくのか。また、今後の地域住民やガイドの育成や支援体制などについてどのように推進していく予定か。</li> </ul>
<p>佐藤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状で言うと企画というところまで一緒に考えられているかというところまで至らないというのが、現実だと思う。</li> <li>● 本当にこの地域の本物を知りたいというニーズはどう高くなっているかというところ、本物しか知りたくないという人がすごく増えてきている。そうすると、そこに住んでいる人たちが何を語るか、その人たちの暮らしを共に体験できるかどうかというところが重要だと思っている。</li> <li>● 実際、私たちも古民家に泊まってもらう時には、その家主や地域の人に来てもらって、一緒に食事を囲むということはしている。今ツアーを作っているところでは、その地域として、それがガイドとしての具体的な役割として提示されているのではないが、自然と外からお客様が来られた時に、そのおもてなしとしての姿勢として、外からの方をもてなすような、そういった姿勢がある地域はすごく私たちも安心してお客さんを送れるということはすごくあると思っている。</li> <li>● 地域に住んでいる方がバイト等に関わるための研修みたいなことはすごく必要だ。たぶんそういったところに対して、AT というものが地域にとってもプラスになるというところの、発信みたいなことも同時に発信しながら研修も一緒にして、その地域が良くなるために「AT が使える」ということは伝えて、もっともっとやっていかないといけない。おっしゃる通りで、そういったところはもっとやっていきたいと思う。</li> </ul>
<p>参加者 C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私自身、旅行業のものではなくて、ド素人というか、去年、アドベンチャーツーリズムと一緒にやろうと言うまでは、観光というのは、自分がお客さんになって色々なところに行く、そういう楽しみだった。</li> <li>● お話の中で色々出て来ている、例えば、巖島神社だとか、建物だとか物だとか、自然や人の営みがあると思う。人の動き、例えばお祭りだとかイベント、そういったものも中国地方でどこにそういったお祭りがある、例えば、吉備地方では加茂大祭というすごい祭りがあるが、そういうものを結びつけていくというのを、インバウンドや、日本中から来ていただくと非常に大きいネタになるのではないかなと思うが、その点いかが。</li> </ul>
<p>佐藤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● そういったものを一覧で整理できるような情報ツールやウェブサイトかわからないが、祭りというものが、その時期だけのものであれば、その時に行かないと意味がない。</li> <li>● オマージュして、違う時期にもできるのかもしれないが、本物という意味で、実際にやられる時期にやることに意味があるとお祭りだと思うので、そこにどう当てていくかというところの難しさはある。そこに対面としてお連れできれば可能性があるし、中国地方全体で捉えると、ひょっとすると毎週レベルで色々なところでお祭りがあるのかもしれないし、そういうことをうまく情報として一元化整理して、私たちが持っておけば、この時に来るのであれば、ちょっとルートを組み替えて、ここに先に行った方が、この本質的なものを持っていけるのではないかな等、を整理しておきたい。情報を持っておくことがものすごく大事だと思う。</li> </ul>
<p>参加者 C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 恐らく色々なところで毎週のようにあるのではないかなと思う。</li> </ul>

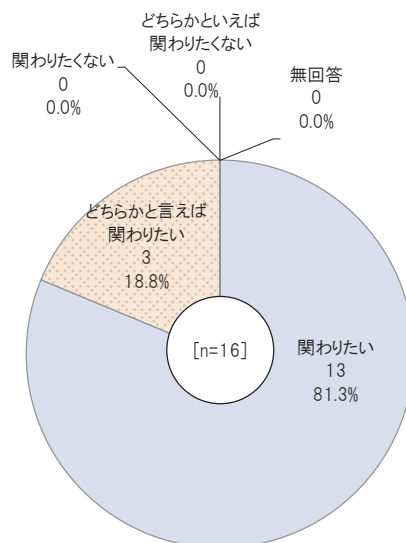
<p>佐藤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この土日に、玉野市の宇野港で、フランスフェスティバルがある。フランスとのたまたま繋がりがあり、インバウンドでフランスからも20人ぐらい来る。そういったことも例えばローカルのところだけで、相手するのではなく、このような、皆さん方のところで発信していただくと、それが1つのポイントになっていくのではないかと思うので、ぜひ検討いただきたい。</li> </ul>
<p>参加者 D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々なアクティビティも、お祭りだとかその地域にしかないものを、中国地方として情報を一元化することは、やらなければならないので、何か作れたらと思う。</li> <li>● 弊社も、今、ATの推進に向けて、取り組みを始めていて、最初の一手として我々もATを獲得していくための知見を持っていくということと、地域にATの可能性を示していくということで、今、ツアー作りに取り組んでいる。</li> <li>● 実際にやってみながら感じたところが、我々は2泊3日のプランで考えているが、泊数が伸びれば伸びるほど、巻き込む事業者だったり、調整は多岐にわたる。</li> <li>● 一方で、ATという名目上、ツアーそのもののストーリーがしっかりしていないといけない。そのためには、各事業者がストーリーを理解し、演者となって、伝えていかないといけないということで、今伺ったのが一週間等、非常に長いプログラム作られているところで、事業者との調整や巻き込みは、どのような取り組みをされているのか参考にさせていただきたい。</li> </ul>
<p>佐藤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おっしゃる通り、コンセプトの共有は重要だ。そこと、スルーガイドが話すことと、そのスポットで話す方の話す内容はかぶらないように役割分担は明確にすることが大切だ。スルーガイドが話すこととスポットで話してもらうことを落とし込みながら、全体像として、事業者が「今からこの全体の中で、この役割として話す」というところが、明確になるように、ある程度文章として示すというところは、厳密にやっている。</li> <li>● 特に、スルーガイドの方が気をつけないといけないことかと思うが、本来そこも、スポットガイドが話すことを先に話してしまうと、スポットガイドが話す話が、かなり価値が下がると思う。そこをいかにスルーガイドが話さないようにするかといった、トスアップとして最初にその事業者のことを語るかは重要である。スルーガイドとスポットガイド等、事業者との関係作りみたいなことはすごく重要で、ある程度、友達として何でも話せるぐらいの関係になっていくと、色々な調整はいくらでも利く。ある程度、ツアーが進んでいくと、スルーガイドが時間の調整等で事業者と連絡するということが増えてくると思うので、その関係値をいかに作っていくかは重要と思う。</li> <li>● 実際にオーダーがきて、お客さんの嗜好によって、組み替えたり、見積もりを取り直したり、コーディネートがめちゃくちゃ煩雑で、めちゃくちゃ工数かかると思う。</li> <li>● 事業者の顔が見える関係性をどう作れるかというところはあるが、DMCやDMO等は、しっかり間を繋ぐところは重要ではないかと思う。</li> </ul>

○アンケート結果 ※回答のあった原文のままを記載

オープニングセミナーで気になる言葉やキーワード、気づき等	
気になる言葉、 キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 知っていると考えなくなる。</li> <li>● 中国地方としてのブランディング。</li> <li>● 3,000万プレイヤーのガイドが世界にはいる。</li> <li>● AT成功の鍵が「感情曲線を描き、最後に大きな達成感を得られる」ようなツアー造成をすること、というのが刺さりました。</li> <li>● エモーショナルアーク。</li> <li>● 他地域を意識した地元取組。</li> <li>● スルーガイドが話しすぎないようにする。</li> <li>● 「人生観が変わる、人生のターニングポイントとなるAT」のくだりが特に印象的でした。</li> </ul>
気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広島では複数日・複数事業者によるツアーが始まっているという事実。</li> <li>● 連携、共有は大事ですね。魅力ある商品造作を頑張りましょう。</li> <li>● 中国地方に自分が住んでいるという自覚があまりなかったのでその言葉がすごく印象に残りました。</li> <li>● PeaceをキーワードでATを捉えるということに共感しました。このPeaceが広島を越えて広がってほしいと思います。</li> <li>● 中国地方の魅力はそれ以外の視点に立ってみると見えてくるかとも思いました。</li> <li>● ガイド協会所属のうち3割しか稼働していないこと、「中国地方に自信がない」という言葉。私自身もこれを何とかしたく、ガイドがきちんとストーリーを伝える→ゲスト→地域がそれに気づく流れを作りたいと考えている。</li> <li>● 「ストーリー」：昨年瀬戸内市でATの活動にかかわる中で、ストーリーをいかに作り、それをいかに伝えるかが大事だと感じました。セミナーの中でもストーリーという言葉が出てきましたが、一地域→県→中国地方と活動のエリアの拡大に伴いストーリーを作ることが難しくなるようにも思いました。</li> </ul>
全体を通しての感想、意見等	
取組の意義や可能性を感じた	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国地方の顔が見える関係構築のオープニングが開催された意義は大きいと思います。</li> <li>● 中国地方として連携してATを推進していくことに可能性を感じました。</li> <li>● アドベンチャーツーリズムを岡山の方々に認知していただけたのは良かったです！</li> <li>● これまで中国運輸局主催の企画に参加してきた中で、対面で顔を合わせるメンバーはほぼ固定の人だと感じました。これからのプラットフォームづくりの上で重要なメンバーになっていくはずなので、立ち上げ段階から繋がりをもてていることが嬉しいし、共に観光を盛り上げて行ければと思います。</li> <li>● 少しずつではありますが参加者を含めCATの活動の意味を理解されつつあると感じる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 良いスタートだと思う。</li> <li>● 女子感と若者感を増やしたいですね。</li> <li>● 取り組み事例などを中心にわかりやすかった。</li> <li>● 次回はリアル参加したい。</li> </ul>

アドベンチャーツーリズムの推進やプラットフォームの展開に関わってみたいと思いますか。

- 「関わりたい」が81.3%で最も多く、次いで、「どちらかと言えば関わりたい」が18.8%となっている。



上記の選択肢を選んだ理由

関わりたい理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域を盛り上げたい。</li> <li>● 日本の盛衰に関わるから。</li> <li>● 観光のお仕事が増えてきて、自身も生涯を通したテーマがあると良いと思うため。</li> <li>● 自地域でも AT 推進に取り組んでいるから。</li> <li>● 広島県地域通訳案内士としてもっと活躍したいため。</li> <li>● 今が真に観光が世界に向けて展開する絶好の機会と思っています。</li> <li>● 自身の事業で取り組みを進めているがもっと広域での魅力発信による誘客が必要だと思っています。</li> <li>● すでに岡山県内で展開が始まっているため。</li> <li>● AT は地域の魅力を伝えるとても良いアイテムだと思うから。</li> <li>● 一つの団体だけではやはりできることが限られてくると今後とも色々な方と交流を深めながらお互いに送客やノウハウの共有など出来ることが増えるので是非今後も関わられたらと思っています</li> <li>● 単純に面白そう、楽しそうなことが好き！</li> <li>● 山陰インバウンド機構としてのミッションでもある。</li> <li>● DMO にて事業を推進しているため。</li> </ul>
どちらかと言えば関わりたい理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 弊社企画のコンテンツを取り入れてもらいたい。</li> <li>● 岡山県観光連盟として岡山を推進するために取り組みたい。</li> <li>● 積極的に関わりた一方で、マネタイズ出来るかを考えた時に、AT は魅力的に見えるもののまだ確信は無いためあえての上記回答。</li> </ul>

その他

- 大きな第一歩、ありがとうございます。今後もオンラインでも対面でも継続的に開催していきましょう！よろしく願いいたします！
- 活動を活性化しましょう！
- ひとつの地域にこだわらず中国エリアで誘客したい。
- プライシングの地域基準のようなものを共有できるといい
- 中国地方や自分たちの地域にとって、AT 推進をすることが地域の豊かさにつながることに期待したい。
- 海外や国内他地域の事例や取り組みを知りたい。
- 質疑の際、お祭りで各地をつなぐツアーの話が面白かった。

## 3-2. AT の実地視察・意見交換等の実施

### (1) 実地視察・意見交換会・ガイド勉強会

#### ① 目的

- ・アドベンチャーツーリズムに関する理解と意識の共有
- ・ガイド力の育成・向上
- ・プラットフォームのコミュニティ拡大、パートナーシップの強化
- ・AT ビジョンやモデルプランのブラッシュアップ

#### ② 実施概要

▼岡山開催 岡山県岡山市・新見市	令和7年10月27日(月)～10月28日(火)
▼山口開催 山口県美祢市	令和7年11月10日(月)～11月11日(火)
▼島根開催 島根県奥出雲町	令和7年11月13日(木)～11月14日(金)

## ▼岡山開催

### ○実施日時・実施場所

令和7年10月27日（月）～10月28日（火） 岡山県岡山市・新見市

### ○内容

- ・実地視察・意見交換会（岡山市吉備津神社鳴釜神事・新見市鍾乳洞ケイビング）
- ・スポットガイド勉強会



## 【1日目】

### ≪意見交換会で整理された内容≫

#### ■テーマ

岡山から出雲へ、製鉄・鉱山・信仰の「暮らし」をたどる

#### ■目的

中国山地を貫く「鉄」をテーマに、製鉄・鉱山・鍛冶といった技術の系譜と、それを支えた地域文化・暮らし・生業を広域的にたどるもの。

#### ■主な訪問地

岡山県瀬戸内市 備前長船刀剣博物館

→ 日本刀づくりに受け継がれる製鉄・鍛錬技術

岡山県岡山市 吉備津神社「鳴釜神事」

→ 火と鉄を神聖視した古代祭祀・信仰

岡山県総社市 古墳・製鉄・農具づくり

→ 製鉄技術と鋤で栄えた農業文化の結びつき

岡山県高梁市 吹屋銅山

→ 銅の採掘と鉱山町の形成・近代化の歩み

岡山県新見市 鍾乳洞群

→ 鉱物資源の生成と自然的基盤

鳥取県日南町 若松鉱山（日本最大のクロム鉱山）

→ 近代鉱業の発展

出雲地方（奥出雲町・雲南市・出雲市）

→ たたら製鉄と和鉄文化の総まとめ

## 【2日目のプログラム】

### ○講師

(一社) Hiroshima Adventure Travel 佐藤 亮太 氏

#### ●開会

#### ●事業の趣旨説明

- ・今年度事業概要
- ・本日の目的共有

#### ●勉強会

##### ①アドベンチャーツーリズムのガイドの基本的な考え方

ATの基礎やガイドの役割について共有

##### ②歴史・文化、地勢等を伝えるガイドの工夫（伝え方・ストーリーテリング）

わかりやすく地域の歴史や文化、地勢、ストーリー等を魅力的に伝える手法

#### ●勉強会を踏まえたワーク

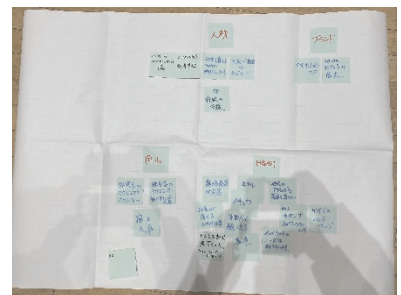
#### ●発表・講評

#### ●閉会

### ○各班発表結果

#### 1班

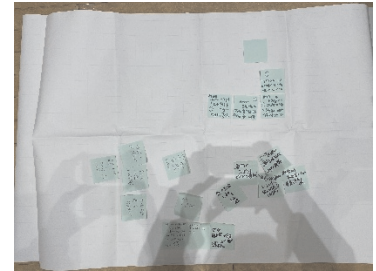
- 岡山吉備津神社から新見に出て、奥出雲、出雲を鉄のストーリーでつなぐという話のなかで、日南町はその通り道となっている。
- 現時点で日南町はインバウンドについての計画はないが、将来を見据えるとコンテンツとして今も外国人が見に来ているホテルやイチョウ、カヤックやシャワークライミングをやっている事業者もある。
- ガイドの中には、お金をもらってガイドをすることにまだ抵抗のある人がおり、そのマインドをチェンジしていくことが必要である。
- ガイド人材の育成では、民間でガイドを育成しようと思えば能力的にも経験的にも1~2年かかる。
- 育成にかかる時間、労力、コスト、時間から、民間でガイドを育成するのは現実的ではない。行政からの支援があるということが理想である。
- 育成のノウハウについては、現在HATが官公庁のモデル事業として広島で実践中であり、その実践経験は使えるのではないかと考えている。
- DMC、ツアーはあまり話をしていないが、「中国地方、中国山地の特徴はたたら歴史」という言葉があり、まさにこれをテーマにしてツアーのストーリーを組んではどうかという話しになった。
- 岡山、鳥取には、ATにくるお客さんを泊らせる宿がないことが大きな課題である。宿がないと途中のコンテンツを充実させてもツアー全体のクオリティに影響する。



## 2 班

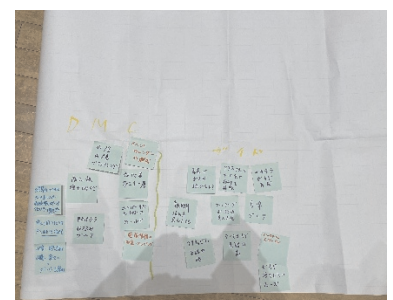
(クロム鉱山について)

- ・クロムは高炉(鉄)を作るために不可欠な鉱物で、日南町では全国の7割を産出していた。
  - ・かつて大正時代から昭和の高度成長期まで、日南町と新見の一部では全国8割のクロムを産出、耐火レンガに焼かれた後、それが日本中の溶鉱炉建設のもととなった。中国地方は重要な役割を果たしている。
  - ・若松鉱山は現存している全国でも稀な工場で、今は廃墟マニア、コスプレイヤーがやって来て彼らに対するガイドをやっている。
- 昨日、新見までのルートについて話し合ったが、ここから先のルートが課題である。新見から鉱山までは40~50分、鉱山から奥出雲までは30~40分、何が言いたいかというとコースが出来上がったということである。
  - ツアーモデルコースは、岡山の東側から入り、まず瀬戸内市の長船刀剣博物館で刀と職人をみてもらおう。その後、吉備津神社での神事、古墳のある総社では鍬などの農業用鉄製品、高梁には吹屋がある。その後、新見、日南、たたら製鉄の奥出雲、安来を回り出雲大社、新見には鍾乳洞もあり、鉱物・鉄を巡るというルートとしてより深みのあるコースが提案できたのではないかと思う。
  - ガイド育成については、説明のあった北海道のガイド制度をこの地区用にカスタマイズして、運営するのが一番手っ取り早い。北海道の水口さんにアドバイスをもらいながら、中国エリアに落とし込む方法を私たちもCATとしても勉強する。CATのDMC化は年度内には実施すべきで、責任ある法人団体として今後収益化(マネタイズ)含めて取組んでいく。
  - 北海道ATガイド制度を中国エリアに置き換える制度設計もCATがやるべきである。認定制度についても国と一緒にやってやるくらいの責任感を持たなければならない。



## 3 班

- 山陰においては兼業ガイドでは持続性がない。
- ガイドとして、しっかりした基準を作るということ、報酬の決め方やガイド料金を見える化することによってガイドを目指す人が増えるのではないか。
- ガイドやインストラクター同士のマッチングを見える化する仕組み、自分が困った時に助けてくれるガイド間交流の仕組みがCATの中にできれば良い。
- ガイドの技術的な部分につき、スルーガイド、スポットガイドで山陽、山陰を移動するなか、最初と最後のガイドの方向性が一致する。複数のガイドがこれを実践することにより、よりお客様に伝わりやすく、そういうレベルのガイドが必要。
- DMCとツアーについては、山陰と山陽をつなぐブランディングは重要で、ガイドの育成、商品の数を増やす、様々な地域を紹介していく、これらが並走して続くようなCATになれば良い。
- 中国地方の特徴としてのアクティビティは、初心者向け、ファミリー層向けが共通点である。そこに向けての商品開発が重要。



## ▼山口開催

### ○実施日時・実施場所

令和7年11月10日（月）～11月11日（火） 山口県美祢市

### ○内容

- ・実地視察・意見交換会  
（弁天池、秋吉台等）
- ・スポットガイド勉強会



## 【1日目】

### ≪意見交換会で整理された内容≫

- 中国地方のポジショニング
    - ・日本の源がキーワード（リアルジャポン（山陰山陽））
    - ・Discover origin of JAPAN  
（ORIJIN、ALIVE（大地の成り立ちやはじまり、神話のはじまり））
    - ・日本の陰陽がわかるエリア
    - ・神出ずる地 中国地方 ⇒ 日本の精神に触れる旅（日本の奥座敷）
  - 上記に関するモデルプランの要素
    - ・海外観光客は「人がいない京都」を求めている
    - ・ディープな日本の歴史・民俗を知りたいのではないか。（そこを提案したい）
    - ・ポップな旅も良い。（アニメ×聖地×歴史）
    - ・島根県はインバウンドが少ないので、レストラベラーは貴重。そこもウリになる
    - ・戦争と平和～自然
- ⇒山口の工場の発展の背景にカルスト地形や石灰岩など自然資源を活用。  
⇒自然地形に目を向けてもらい、日本列島の成り立ちにつなげる  
⇒国引き神話、日本列島の起こりにつなげる。  
⇒火山と地震の大国・・・多数の温泉地がある

## 【2日目のプログラム】

### ○講師

(一社) Hiroshima Adventure Travel 佐藤 亮太 氏

#### ●開会

#### ●事業の趣旨説明

- ・今年度事業概要
- ・本日の目的共有

#### ●勉強会

##### ①アドベンチャーツーリズムのガイドの基本的な考え方

ATの基礎やガイドの役割について共有

##### ②歴史・文化、地勢等を伝えるガイドの工夫（伝え方・ストーリーテリング）

わかりやすく地域の歴史や文化、地勢、ストーリー等を魅力的に伝える手法

#### ●勉強会を踏まえたワーク

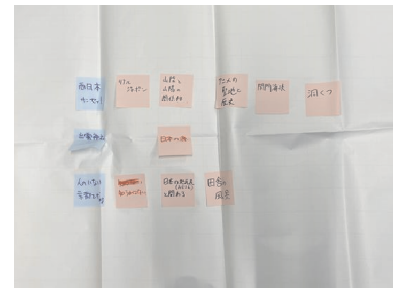
#### ●発表・講評

#### ●閉会

### ○各班発表結果

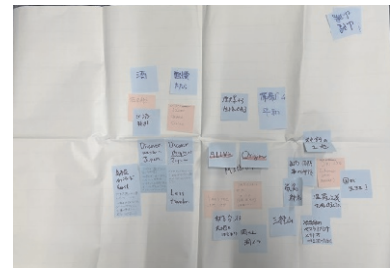
#### 1班

- ・地理的に本州の西にある。サンセットがキレイ。
- ・「日本の源」がキーワード。
- ⇒出雲大社だと、神話のはじまり。
- ⇒総理大臣も結構でており、政治の中核、日本を動かしている人が多い。
- ⇒幕末で維新のとき、長州、日本を変える役割を担った。
- ・海外観光客が求めているには、「人がいない京都」。
- ⇒日本の歴史・文化に興味があるが、オーバーツーリズムで人があふれたところには行きたくない。
- ・ディープな日本の歴史・民俗を知りたいのではないか。
- ⇒知られていない場所を我々が提案したい。
- ・リアルジャポン、山陰山陽。
- ⇒地球でいうと朝と夜があるように、山陰山陽では陰と陽がある。
- ・ポップな旅も良い
- ⇒アニメ×聖地×歴史（例：銀魂では、吉田松陰等。コナンは鳥取。アニメで歴史を絡められないか）



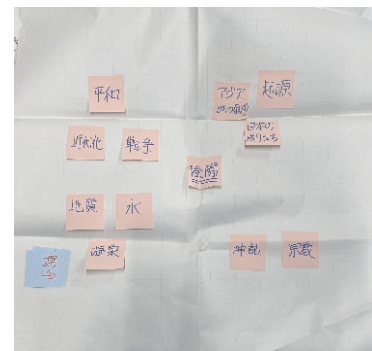
## 2 班

- ・印象的なキーワードは、「ORIJIN」、「ALIVE」
- ⇒ORIJIN：日本の源、起源、日本の中でも神話が詰まっているエリア。
- ⇒ALIVE：生まれ変わる、広島という土地は、原爆で1度なくなつたが、そこから生まれ変わった。国も生まれている。
- ・ポジショニング：Discover orijin of JAPAN
- ・大地の成り立ちやはじまり：秋吉台、洞窟、鳥取砂丘、ユネスコジオパーク等。
- ・神話の土地：出雲大社、隠岐の島、岡山吉備津神社、奥出雲、たたら、お酒の発祥の神社もある。
- ・島根県はインバウンドが一番少ない。レストラベラーだから貴重、そこも売り出せるのでは。



## 3 班

- ・中国地方の立ち位置：日本の陰陽がわかるエリア
- ・陰と陽でモデルツアーをつくる。  
(言葉のイメージ)
- ⇒陽：明るい、にぎやかなイメージ
- ⇒陰：静か、落ち着いたたり雰囲気  
(旅の基点)
- ・世界的に見たら、広島。世界的に平和を発信しているところは外せない。
- ・外国人に目を向けてもらうところのキーワードは、「戦争や平和」  
(戦争と平和)
- ・原爆が落ち、復興したまち。(戦争に関連づける)
- ・山口にも軍事施設が多く、それらが戦争を支えていた歴史の背景があり、工業が発展し今に至る。そこで、広島と山口をつなげたい。山口の工場が発展した背景には、カルストの地形、石灰岩など、自然資源を活用して、戦争に利用されていた。ここから自然に目を向けてもらう。  
(自然)
- ・自然に関して、山口県内でおっていく。
- ・石灰岩地形から自然地形に目を向けさせた後、日本列島はどのような成り立ちでできたかといった地層含めた話に持って行きたい。そこから、島根県につなげる。
- ・国引き神話、日本列島の起こりの話。(大陸をひもでひっぱって、つくってきたといった、神話がある)
- ・山口で大陸の話をして、島根で出雲や国引きにつなげていく。
- ・その後は、日本は、火山と地震の大国。数多くの温泉があるので、三朝温泉、湯原温泉につなげていけば、岡山、鳥取にも話をつなげられる。山陽から山陰に渡って、近代的な発展した岡山で話を決着させるツアーにしてはどうか。



## 4班

### ○地理

- ・行きにくい（交通の便が悪い）／絶対的なハブとなる空港（国際空港）がない／大都市もない／災害が少ない

⇒強い目的性がない

### ○環境

- ・三方を海で囲われている（山口だけで考えると周るのは簡単だが、中国地方となると広すぎる）／未開の地／人が全体的に少ない。

### ○歴史

- ・歴史が深い／毛利の存在／日本本来の魅力に触れられる／日本の近代化に関わっている

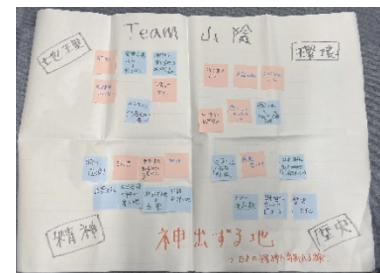
⇒日本の奥座敷

### ○精神：日本の西側／西の京／世界遺産／

### ★ポジショニング：神出ずる地 中国地方

⇒日本の精神に触れる旅

- ・世界から日本全体からみたとき、神道のイメージが大きい
- ・日本全体の神様にフォーカスすると中国地方まとまって、色んなところに神様がでてくる、日本の神様の発祥の地



## ▼島根開催

### ○実施日時・実施場所

令和7年11月13日（木）～11月14日（金） 島根県奥出雲町・雲南市

### ○内容

- ・実地視察・意見交換会  
（奥出雲たたらと刀剣館、福頼の棚田、菅谷たたら山内）
- ・スポットガイド勉強会



## 【1日目】

### ≪意見交換会で整理された内容≫

1. 中国地方のポジショニング（全体観）
  - ・日本のはじまりと精神性が残る地域  
神話・多神教文化、たたら・製鉄、稲作・棚田など、日本文化の源流が点在
  - ・自然・地質・文化が連なる広域的な舞台  
地層・火山・海岸線・山岳信仰・里山農業など多様なストーリー
  - ・ゴールデンルートの“ゴール”になり得る癒し・静けさ  
老舗文化、ゆったり過ごす時間、地域の人による深いおもてなし
  - ・「始まりとゴール」が同居する地域  
日本の成り立ち（神話・鉄・稲作）と、旅の締めめの静けさを両立
2. モデルプランのテーマ
  - ① 山陰をつなぐ旅 大地の成り立ちを旅する
  - ② 製鉄と稲作 日本文化の源流をめぐる
  - ③ 島根と広島を神話でつなぐ旅
  - ④ 陰と陽のコントラストな旅
  - ⑤ ゴールデンルートの“ゴール”としての中国地方

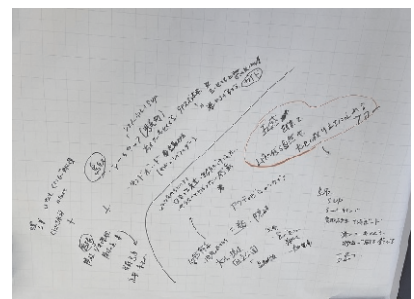
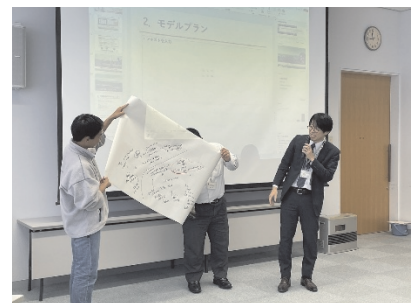
## 【2日目のプログラム】

- 開会
- 事業の趣旨説明
  - ・今年度事業概要
  - ・本日の目的共有
- 勉強会
- ①アドベンチャーツーリズムのガイドの基本的な考え方
  - ATの基礎やガイドの役割について共有
- ②歴史・文化、地勢等を伝えるガイドの工夫（伝え方・ストーリーテリング）
  - わかりやすく地域の歴史や文化、地勢、ストーリー等を魅力的に伝える手法
- 勉強会を踏まえたワーク
- 発表・講評
- 閉会

### ○各班発表結果

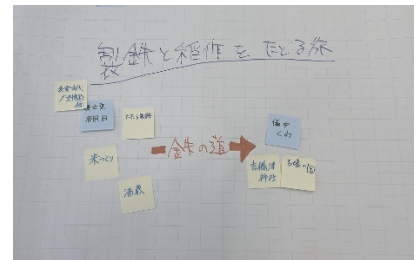
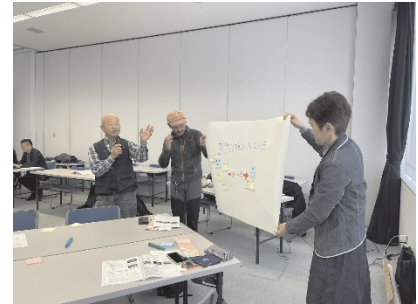
#### 1班

- ・山陰を巡るツアーという観点から整理した。（「五感を使って山陰における自然や大地のなりたちに触れるツアー」）
- ・彼は岩美町でサップ、シュノーケリング、シーカヤックを行っている。大地のなりたちとして、地層を見ればその年代が分る、今川町では堆積岩、花崗岩の地層の違いをガイドさんに語ってもらい、なぜそういう違いがあるのか、学びがあらうかと思う。合わせて鳥取県では鳥取砂丘でサンドボードのアクティビティがあるので、地質ということ言えば砂丘のなりたちも学ぶことができる。
- ・島根県の隠岐では、大山・隠岐国立公園に認定されているエリアで、ジオについて研究されている施設がある。そこではDMOが行っているが、そのガイドは大学教授なみに調査し自らも英語が堪能であり、先ずその人に大まかなストーリーを聞き、自然のなりたちについても語ってもらう。その上で隠岐の島以外の島前三島（海士町、西ノ島、知夫里島）に渡りマテンガイ、セキヘキの地層を見ることができ、加えて、ものすごく雄大な自然を感じることができる。（写真を見せ）馬とたぬきが人間よりも多い島で、それくらい手つかずの自然が残っている。ストーリーとして鳥取県との地層の違いを学んでもおもしろい。
- ・大田エリアには三瓶山がある。ここには国引き伝説があり、稲佐の浜から引っ張て来た話もある。三瓶山に登ると海岸線を見下ろすことができ、ガイドさんからは国がどうやってできたか、神話の視点から解説があるので、3点をつないで自然に触れないながら大地のなりたちや国の作り方に触れるツアーができると、冒頭のストーリーにもつなげていけると思う。



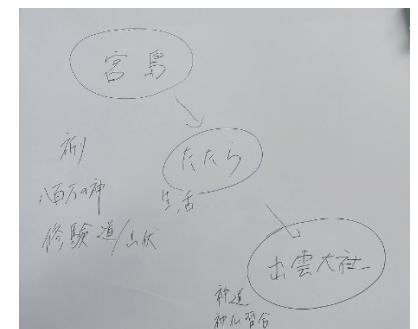
## 2班

- ・製鉄と稲作をテーマに中国地方を回るツアーを考えた。出雲地方は稲作が始まった弥生時代に勢力のあった地域で、米作りのためには鉄の道具が必要ということ考えた。
- ・ルートとしては、出雲から鳥取を通り岡山に行けるのではないかと。出雲の古代歴史博物館等で、弥生時代の文化に触れることができる。奥出雲の棚田の風景はたたら製鉄の鉄穴流しで作られたということを感じ取れるし、おいしいお米をいただくこともできる。おいしい酒もあるので、米との関連で酒蔵を訪問することも可能である。
- ・岡山では吉備津神社や弥生時代歴史や文化の中心地であったことが感じられ、このテーマに通じる。



## 3班

- ・島根と広島をつなげたいという以前からの強い思いがある。出雲大社は日本を代表する神社であり、広島にはインバウンド客がすごく多い宮島、宮島は厳島神社だけでなく島全体が神の島である。出雲大社の大国主命、須佐之男命、宮島は市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）、天照大御神と須佐之男命が互いに占いをしてから生まれた女神様が宮島で祀られている。出雲大社と宮島はつながりがある。そのなかで、たたら製鉄は須佐之男命がヤマタノオロチを退治する時の刀、たたら製鉄に関わる神話ではないかという話もある。
- ・出雲大社、宮島、神話、たたら製鉄。出雲大社のそばに鰐淵寺（がくえんじ）という寺があり出雲大社と深い関係がある。鰐淵寺（がくえんじ）も宮島も修験道の修業の場、弥山に登るということもある。一神教の外国人が日本の八百万の神（多神教）を巡りながら、日本人の精神性に関心を持ってもらう。
- ・そういうことを考えつつ具体的なプランは作れなかったが、島根と広島を結びたいというのがグループの結論だった。

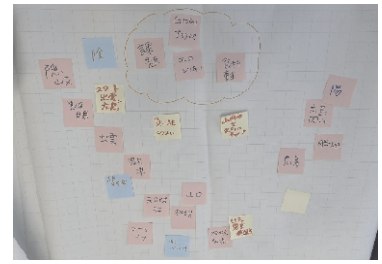


## 4班

- ・山陰と山陽、陰のイメージは負け組、切ないイメージ。山陰から入る時にスタートは隠岐からという案が出た。隠岐から美保関、出雲、山口、最終的に広島という意見。岡山から出雲大社ルートの説明があったが、われわれのグループでは是非入れてほしい周遊コースとして、奥出雲町の世界農業遺産がある。鉄がらみの話しもでき、それは今につながる話しだから。
- ・陰から陽のルートだと山間地から都会地へのギャップがすごい。以前、ツアーの最後に広島に入ったらお客様が「文明だ」と言って沸いた。そういうギャップがハイライトになり得るかもしれない。

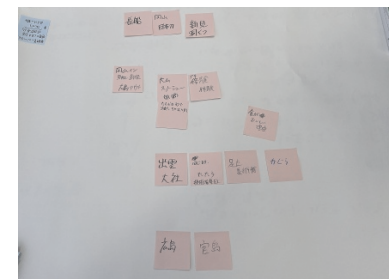


- ・世界共通の話題がいいという話しになり、それは食料問題（土の取り合い）でありこれを地球課題として、日本古来のやり方を紹介することにより話しをつなげることができればどうか。



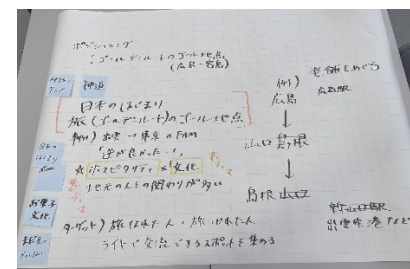
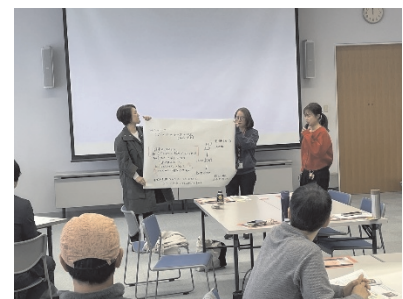
## 5 班

- ・中国地方では対比が面白いと思っている。ストーリーの検討においては、Iターンであったり、Uターンであったり、カーブを描きながらの周遊が良いのではというところからスタートした。
- ・男女の対比、男性目線からは技術的な面、なぜ日本が技術者集団による技術大国になったのか。
- ・一方、女性のリラグゼーション（ご飯がおいしいなど）を一緒に盛り込めば楽しいツアーになるのではないか。
- ・いきなり大山は遠いので、岡山、新見、大山のルート、大山には修験道があるので、ライトな修験道、女性にはスピリチュアル要素も加えながらのリラククス体験、冬であればスノーシューを履いてのきれいな絶景ツアーもできる。出雲大社への途中は足立美術館、鬼滅の刃に出てくるようなきれいな庭も日本人らしいところとして見てもらえる。そしてもうひとつ付け加えたいのが神楽、これをルートのなかのどこに付け加えるかということもあるが、最後は広島、宮島で平和と対比に戻る。陽陰どちらもあるということが伝えられるツアーになればと思う。



## 6 班

- ・ゴールデンルートの最後のゴールであるということが、中国地方の強み。広島がゴールデンルートの最終地点だが、津和野、出雲は疲れた人が休みに来る。以前、出雲から東京というルートを組みしたが、逆の方が良かったという声をもらった。日本のゴールデンルートを見た後で、最後に中国地方でゆっくりして帰ってもらうことこそ、中国地方ならではのルートとなる。
- ・そういう構造の中で、表テーマと裏テーマを作った。島根には老舗が多い、災害がない、外部資本が入っていないと聞く。老舗に行くとおもてなしがすごい。地域の人によるおもてなしは旅の満足度に大きく影響する。
- ・日本の始まり、旅のゴール地点でいかにおもてなしをするか。ホスピタリティを前面に打ち出すのではなくあくまで裏テーマ、老舗でのおもてなし、地元のアクティビティが良いのではないか。
- ・具体的なルートは決めていないが、中国5県であれば何とでもルートは組める。ホスピタリティとその地域が持つ文化を中心にツアーを組めば良いと思う。



## 3-3. AT ガイドの能力の底上げに資する研修会

### (1) スルーガイド研修会 開催概要

#### ○開催日時

令和7年11月27日（木）14:00～17:00

#### ○開催場所

Port.cloud （広島商工会議所ビル9階）

#### ○実施目的

- ✓ アドベンチャーツーリズムへの理解促進
- ✓ 中国地方をつなぐスルーガイドの育成
- ✓ 中国地方のスルーガイド人材の底上げ

#### ○講師

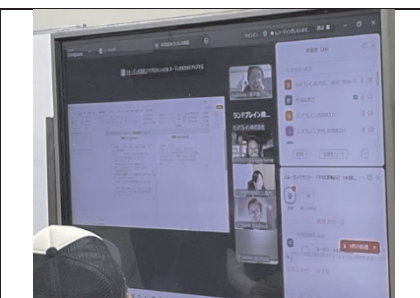
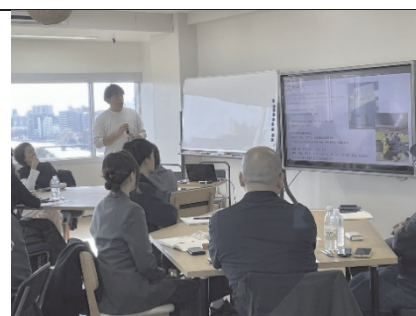
（一社）Hiroshima Adventure Travel 理事 川口 康太 氏

#### ○参加人数

現地14名、オンライン48名 計62名参加

#### ○プログラム

1. 開会
2. 本事業とスルーガイド勉強会の趣旨説明
3. アドベンチャーツーリズムの考え方  
講師：（一社）Hiroshima Adventure Travel 業務執行理事  
Chugoku Adventure Travel Network 代表 佐藤 亮太 氏
4. あなたが描く理想のスルーガイドとは？  
講師：（一社）Hiroshima Adventure Travel 理事 川口 康太 氏
  - ① セミナー
  - ② ワーキング





<p><b>私がスルーガイドとして大切にしていること</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. その場で高にベストな動きを柔軟に考え、最大の価値を出す</li> <li>1. ゲストの目の情報と感情をイメージし、ファシリテートする</li> <li>1. 国際交流の感覚でゲストと接する</li> <li>1. 世界観をもち自分の言葉で語る</li> <li>1. 相手の人生のイマを想像し、どの様な体験と言葉を掛け合わせるとより良くなるかを考える</li> <li>1. 相手のコンフォートゾーンから、少しはみ出たところを刺激する →「自分の人生について考えるきっかけとなった」という言葉は最大の賛辞</li> <li>1. 自分が働く地球や社会の未来に、あると良いツアー事業者のみと関わる</li> </ol>	<p><b>どのように体現するか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の距離感</li> </ul> <p>どこまで突っ込み、どこで止まるか</p>	<p><b>私がスルーガイドとして大切にしていること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顕在ニーズと潜在ニーズに応える</li> </ul> <p>表面的に見えるものと、本人も見えていない感覚を意識</p>
<p><b>私がスルーガイドとして大切にしていること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タビマエ、タビナカ、タビアトを意識する</li> </ul> <p>特に準備が全てを決めると言っても過言ではない</p>	<p><b>私がスルーガイドとして大切にしていること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三方良し・自身の立ち位置</li> </ul> <p>ゲスト(世界)、受け手(事業者)、地域が理想なカタチ</p>	<p><b>どうやっているか(5W2H)</b></p> <p>Who 誰が(ポイントガイド、参加者、地元の人、モノ、風景、写真)</p> <p>When いつのタイミング、食事、夜、ツアーの後半</p> <p>Where 場所(宿を見て宿を感じている状態?)</p> <p>Why 理解、疑問を持たず、考える機会</p> <p>How 言葉、無言、見せる、質問</p> <p>What 何を伝えるか</p> <p><b>How much</b></p>
<p><b>スルーガイドとしてもらって嬉しい言葉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲスト</li> <li>・自分の人生を深く考えた</li> <li>・you gave me inspiration</li> <li>・HAT他エージェント</li> <li>・想像を超えた結果だった</li> <li>・地域</li> <li>・世界とよっつながっていきたい</li> </ul>	<p><b>ありがちな間違い</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイドが話さなきゃ、全部見せなきゃ：誰の時間?</li> <li>2. ゲストのいうことは絶対：地域とつなぐ立場</li> <li>3. たくさん見せることが良いこと：ゲストの目的は?</li> </ol> <p>スルーガイドとして、自分の最終理想のカタチは“無” →ゲストが五感で感じ取り、地域が受け入れ準備でき、最高の掛け合わせが自然派生する状態</p>	 <p>2025 ATWS : Soul of the Water, Spirit of the Land</p>
<p><b>Kris Tompkins</b> - former CEO of Patagonia</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツーリズムがラグジュアリーになっていることを危惧する 全ての人、特に未来を担う子供達が体験する機会を造る必要がある</li> <li>・長期目線で人と自然をつなぐ、それを繰り返していく必要がある</li> <li>・Love the place to death/死ぬほど(とことん)その土地を愛せ</li> </ul>		

## 《ワーキング》

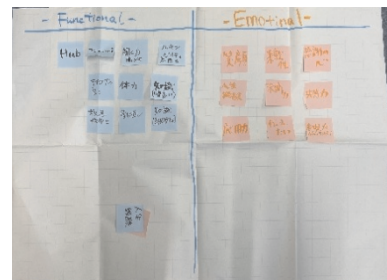
- ・理想のスルーガイド像を検討するにあたって、スルーガイドが担う役割（FUNCTIONAL）、感情面（EMOTIONAL）で大切なことを整理するワークを実施した。



### （発表結果）

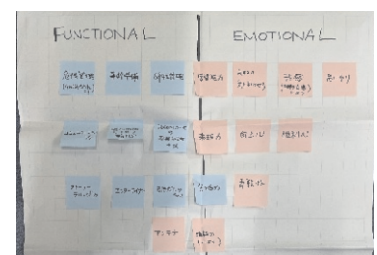
#### ■グループ1

- ファンクショナルでは、ハブの力、コンシェルジュ、聞く力、応用力等が意見として挙がった。
- 今は風景を見ようと思えば、ネットでも見られるが、現地に来るというアナログの良さもある。市内でもガイドをすると、1人1日1万5千歩くらい歩くので、体力が一番重要。知識も大切で、例えば、自分が着物を着せたりするときに、再度、大奥や水戸黄門、銭形平次を見て昔のことを学び直す楽しさがある。体力は若い人に負けるが、高齢者はいろんなことを良く知っており、どこの病院が良い等、すぐに答えられる。高齢者の魅力を再確認した。
- エモショナルの部分では、笑顔が一番。家ではしないような笑顔をキープする。プライベートツアーでは10数万円のコストをかけて来てくれる（ディズニー、USJではなく）ので、感謝の心を持つこと、相手の人生経験について聞く機会があれば聞くように努力している。
- 共感力を持つ、決断力を持つ、応用力では天気が変われば素早く動いて、相手に不安な気持ちを与えない。そういう気持ちを表現するにもボディランゲージを使い、ふだん日本人がしないようなオーバーなジェスチャーを使うこともある。自分磨きにもなっているような仕事だと思う。



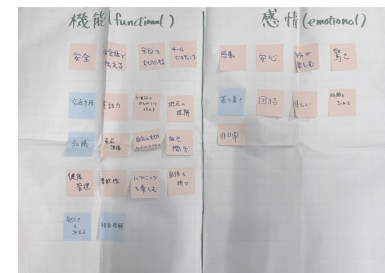
#### ■グループ2

- 危機管理は臨機応変に対応が必要。何か起きた時、すぐ動けるためには事前準備が大事である。計画通りにプランを実行する力、それをするためには、スルーガイドは工程管理が大切である。スポットと違い案内範囲が広いので、現地調査や下見にどれだけ時間を費やせるかということも重要である。案内範囲が広がることにより、観光地に対する知識も浅く広くではなく、深く広くでないスルーガイドはできないと感じている。
- スルーガイド故にストーリー性（フロー）がつながっているか、ぶつ切りになっていないか、自分のなかで考える必要がある。
- エモショナルの部分では、数日間行動を共にするので人間関係の構築も大事である。



### ■グループ3

- 余白を大切にすることと言えば、詰め詰めのスケジュールは良くない。ある程度振り返りの時間を与えることができるとそのガイドかと思う。伝え方、安全はもちろんのこと、ファシリテーションも重要だ。交通手段、英語力、ゲストの歓迎を伝える、地元の理解という意見があったが、いくらガイドが頑張っても、周りの人の力を借りないのはもったいない。
- エモーショナルについて、知識、事前準備、自分の大切なものを話す、自己開示、健康管理、ハプニングを楽しむ、気づきを与える、相互理解などの意見があった。
- 感動していただくこと、安心していただくことはもちろん、加えて自分たちが楽しんでいないと相手に伝わらない、驚かせるということを入念に入れておく、まず自分自身が落ち着いて相手にその落ち着きを伝えガイドすること。うれしい、時間を忘れる、非日常なども意見があった。



### ■オンライン参加のグループ1

- 最初に出てきたワードは「信頼感」で、そのなかには人間性、知識、地域との連携、安全、工程管理とあるが、機能としても信頼感を形成していくことが大切であり、信頼感という感情になる。
- 旅のなかではしっかりストーリー作りをしておくことが大事である。トータルで軸の通ったストーリーもありつつ、感情面では、サイクリングツアーで言えばサイクリングというストーリーのなか、例えば、船で移動するとか、そういうものを含むことによって、よりサイクリングの良さが際立って感じてもらえるということもある。
- 感動や心が揺さぶられるということが、スルーガイドの楽しさでありテクニックではないか。気づいていない人をさりげなく気づかせる手法もテクニックのひとつだと思う。
- 何よりも参加者が話しかけやすい雰囲気づくりが旅のなかでは大事で、自己紹介等を通じてお互いの信頼関係を作ることにより、一人ひとりが意見を言いやすくなる。ツアーを通じて参加者それぞれの意見が違えば、新たな気づきや感動につながる。フレンドリーな雰囲気づくりも重要で、バスによる移動時間のなかに自己紹介の時間を盛り込むなど、気づきなどを話す時間を取るというのもツアーの作り方による。
- ガイド自身が感動したり、楽しんだりすることができるということが何より大事で、それを持って伝わる部分も増え、帰国後「こう変わっていきこう」というものにつながる何かがあると思う。そういうつながりや変革につながるようなツアーが作れたら良い。

機能(functional)	感情(emotional)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼感 (人間性、知識、地域との連携、安全、工程管理)</li> <li>・ストーリー作りをしっかり準備しておく</li> <li>・トータルで軸の通ったストーリー</li> <li>・広げやすい単語</li> <li>・言葉の選び方(話しやすい単語を使う)</li> <li>・事前に自己紹介をして、お互いを知る(信頼関係づくり)</li> <li>・事前に質問をして、質問応答しながら行く(参加者の反応)</li> <li>・参加者それぞれの話を聴くと、より深まる</li> <li>・ガイド自身が感動したり、楽しんだりできる時間を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動、驚き、心が揺さぶられる</li> <li>・ストーリーの軸の通った良さ</li> <li>・フレンドリー(話しやすい)</li> <li>・旅行先に楽しみや期待がある</li> </ul>

### ■オンライン参加のグループ2

- 全体としての理想像は、「旅を安心して過ごしていただきつつ、いろいろな情報をシンプルに分かりやすく伝えてくれる」ということで、そのパートナーがスルーガイドであるということがこのグループの答えである。そのなかでのテクニックとして、ゲスト同士のコミュニケーションが生まれやすいように、まずはそのゲストがどんな事に興味や関心がある

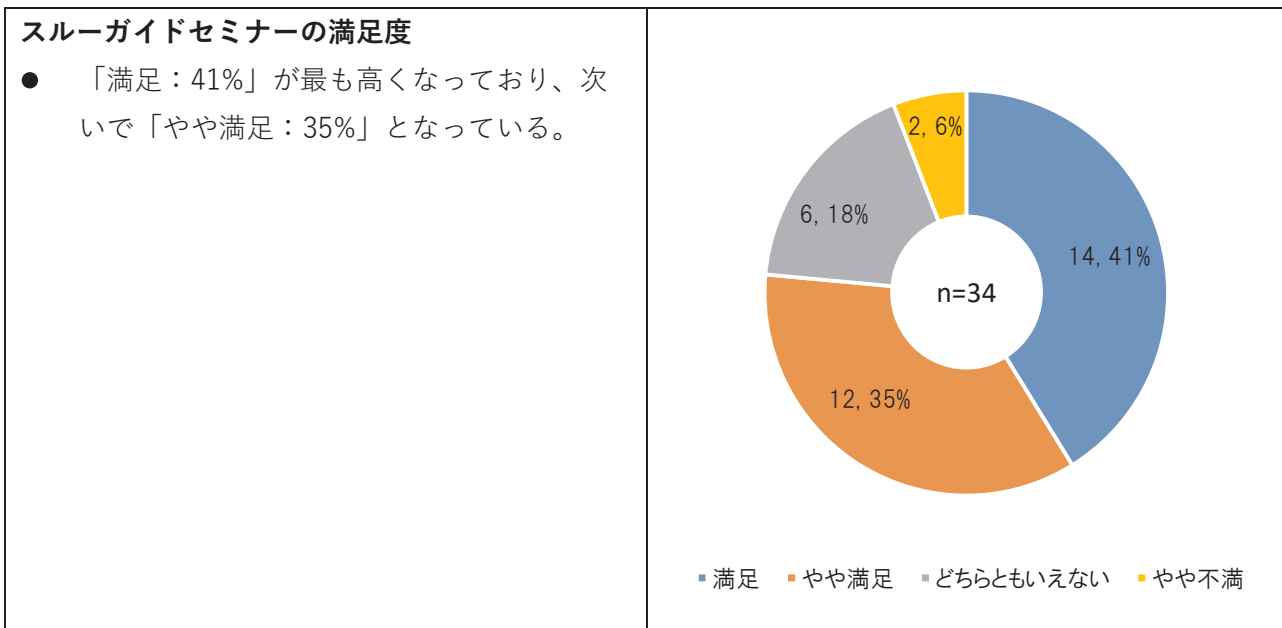
のかに気づいてあげることが大事である。

- 10 日間のうち 2 日間ガイドというのも多いので、情報の引継ぎや伝達をうまくやる必要がある。
- 自分が下見に行けない場合はデジタルツールや AI を活用し事前に調べるだけでなく、現地で即座に対応することも求められるという話しもあった。そういうことを駆使しながら、「なぜ鎖国していたのにオランダは許されたのか」、「これはオランダがキリスト教を広めないで約束したから」みたいにシンプルな答えで納得してもらうことが大事との話しも出た。
- 日常生活も興味を引くので、そこについて自分たちの感度を磨いていく必要もある。以上がテクニックに関する話である。
- 感情（エモーショナル）のところでは「安心して」というところが重要で、そのためにコミュニケーションを取りスケジュールを細かく伝えなければならない。
- ガイドは何を伝えたいかというものを根底にしっかりと持っておくことが必要である。

機能(functional)	感情(emotional)
毎日を丁寧に伝える ゲストの気持ちに寄り添う シンプルに伝える アットホームな雰囲気 笑顔で対応 言葉で伝える 言葉で伝える 言葉で伝える	安心して伝える 笑顔で伝える 言葉で伝える 言葉で伝える 言葉で伝える 言葉で伝える 言葉で伝える

#### ≪総括（講師：川口氏より）≫

- 私も明日、直ぐガイドとして使える要素がたくさんあった。ガイドの良さは学んだことを直ぐ伝えられるということで、換言すればパクリかもしれないがこのオマージュにはリスペクトがある。さっき知った情報を、ちゃんとリスペクトを持って何年も前から知っていたように言うことができる。
- 伝えたいことが 2 つある。ひとつは「皆さん、旅をしましょう」ということ。いろいろと考えることは可能だが、自分が旅人にならないと旅人の気持ちは分からない。たとえば日本人が全く言語の分からないロシアでどうやって旅をするか、そこで居てくれる人（ガイド）の有難みは全く違うものになる。旅人と同じ気持ちにならないとガイドができない。
- もうひとつは、世界は今、戦争というよりも分断の時代。民族同士によるもの、貧富の差、いろんな分断ができています。それに対するのは平和、対義語で言うと対話、コミュニティになる。世界の中では日本ではまだコミュニティが保たれており、その前提で日本に来る人を受入れること。日本という国をどう思うか、リスペクトであったり先人に対する感謝であったり、いろいろあると思う。その流れのなかで、自分たちがどう表現し体現していくのかが問われている。これは個人で対応するのは難しいことであり、チームで頑張ってください。



**スルーガイドセミナーで気になる言葉やキーワード、気づき等ありましたか。**

- AT という言葉を初めて聞いたので、色んなツアーが国内にもあるのだなと言うのを知れました。
- 喋るだけがガイドではない。誰のためにガイドするのか？
- 柔軟に対応、自己変容につながる案内。
- アドベンチャーツーリズムは、ハードなアクティビティを指すのではなく、地域を知り、地域の人との交流などを通じてより深い体験をしてもらうこととの認識を得ました。また一貫したストーリーが大事でそれを自分の言葉で語ることが重要なのですね。
- 場所のストーリー 人のストーリーが旅を盛り上げる事の大事さを改めて感じました。
- 外国人訪日客が、日本に対して一番「文化」に興味を持っていたという事興味。
- ガイドの固定観念(ガイドは話す仕事という)を捨てること。
- 「顕在ニーズと潜在ニーズに応える」本人も見えていない感覚の部分も意識して、今後の活動に繋げていきたいと思った。
- 体験を中心にツアー造成することで、長期滞在を魅力的にできる事。
- 特に準備が全てを決める。その上での柔軟性。
- 無になる。
- 「旅人であれ」と「Love the Place to Death」。
- アドベンチャー。
- 富裕層。
- 実際のツアーを詳しく解説頂いたことでスルーガイドに対して解像度が上がりました。
- 「ガイドが一番ではなく、ツーリズムは総力戦」「相手を想像し、どんな体験と言葉をかけあわせると人生が良くなるかを考えて、コンフォートゾーンの少し外を刺激する」など、多くの学びを頂きました。
- ガイドの役割で、スルーガイドとスポットガイドに言及されていましたが、お互いが協力しあうことでより良いツアープランが誕生するかも？と思いました。
- スルーガイドという言葉そのものを知らなかったのに加えて、観光のサプライチェーンの概念を教えていただき大変勉強になりました。
- アドベンチャーに文化体験も含まれること。
- ひとつの旅の中で伝えたいテーマがはっきりしており、5W2Hを意識した綿密かつフレキシブルなガイディングに感銘しました。
- ゲストの気持ちを汲み取る力。
- 横のつながり、信頼関係の構築、収益化。
- 事前の周到な準備とそれによる相手の満足度 UP。
- 中国地方には、宝物となる素材がたくさんある。

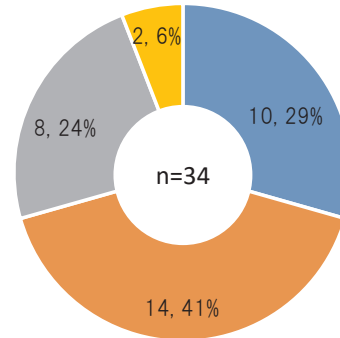
**本日全体を通してのご感想、ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。**

- 具体例踏まえて教えていただき、業界全体の動きがイメージしやすくなったのでよかったです。
- 参加しやすい環境をありがとうございました。
- 後半のワークでのグループ分けで、すでにスルーガイドとして活動されている方のお話をたくさん聞けたので、貴重な時間となりました。
- オンラインだと参加難しかったです。音声の機能がこちらになく、申し訳なかったです。今後の実施の場合、実働でやられている方と今から興味があってなにをしたらいいのか考えている導入の人で分けてもらうとかするといいかなあと思いました。
- 改めて再認識する事が多くありました。
- オンライン参加でしたが、参加者の方とのグループチャットで意見交換できて良かったです。
- ガイド未経験での参加でしたが、これから海外の方を地元を受け入れていく上での心得を学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 非常に前向きな気持ちでガイドをする気になった。自信を持って笑顔でガイドをして行けるようになりたい。
- もっとより深く地元のことをお客様にお伝えするにはどうしたら良いかと考えさせられました。ツアーはガイドだけでなく、造成、販売、マーケティングと様々な分野の方が関わり出来上がっていること、その中でガイドとして何が出来るか。一期一会の出会いを、最高のものにするには自分のモチベーションを高め、相手のことをより細かく観察し、良いツアーを作りたいと思います。刺激的な時間を共有していただきありがとうございました。
- 広島を中心に地域にお金落ちる仕組みを具体的に考えていく良いきっかけとなりました。
- スポットガイドをしてる自分には、全く違う視点が、多く必要と思った。レベルが高いと思う、フィジカル面も含めて。
- テンポもよくおもしろかった。
- 参加して本当に良かったです。ありがとうございました！
- 川口さんが最後に仰っていた「旅をしましょう」という言葉が印象に残った。これを機会に旅行をしてもっと色々な世界を知りたいと感じた。
- 凄く未来を感じることができてよかったです。
- まず、グループワークがお粗末でした。オンラインで行うのであれば、各グループ毎にファシリテーターを配置すべきです。できないのであればやらない、または指示書を参加者にわかるように提示してください。グループワークでの成果物があるわけでもなく、現地での発表も聞き取れず記載したものも見ることができないので1時間無駄にした気持ちでした。また、スルーガイドに対するセミナーですが、ある程度スルーガイドに対する知識があるガイドにはいいのですが、そうでない人には前提が弱く、スポット観光地のガイドにとってスルーガイドへの理解が進まないと思います。
- ありがとうございました。オンラインでもディスカッションや、他のエリアの人たちとの交流の場を設けていただいたのもありがたかったです。
- とても楽しく有意義な時間を過ごせました。特にグループワークの一班の方の発表はユーモアに溢れ笑顔を一杯頂け、これぞプロのガイドさんの心意気を学びました。自分に何か出来ることは？と問いかけの機会も頂け、楽しい研修でした。有難うございました。
- 川口さんがご用意されていたプレゼンテーションを可能であれば共有いただきたいです。
- If you want to formulate policy, address logistical concerns, design experiences, and discuss opportunities about developing experiences for foreign tourists, having the conversation in English assures that the problems are diagnosed in a way that allows for the solutions to be actionable, and avoids cul=de-sacs in cultural commensurability that tend to make the solutions proffered inoperable.
- ガイドの皆さんが気をつけておられることなど伺うことができて、大変勉強になりました。
- オンラインで参加しましたが、ワークの時間に何をすればよいのかははっきりしなかったため、会場で参加させていただくべきだったと思いました。
- 地域の実情・要望を鑑みながら今後もアドベンチャーツーリズムについて学んでいきたいと思いました。

- 外出先から移動しながら参加したため、途中で切れてしまいました。すみません。前半だけでしたが、アドベンチャーツーリズムのお話はとても面白く、いつか自身でもチャレンジしたいと思いました。
- 最後のグループ作業の実施要領がよくわからないまま始まってしまった。
- アドベンチャーツーリズムが私が今まで考えていたものより広いものであることがわかった。

アドベンチャーツーリズムの推進やプラットフォーム（Chugoku Adventure Travel Network (CAT)）への関わり意欲

- 「どちらかと言えば関わりたい：41%」が最も高くなっており、次いで「関わりたい：29%」となっている。



- 関わりたい
- どちらかと言えば関わりたい
- どちらともいえない
- どちらかといえば関わりたくない

### ※上記の理由

#### ○関わりたい

- 個人としても活動したい、熱を注入したいベクトルが合致しているため。
- 単に観光地を巡るだけでなく、プラスアルファの体験や感動をしていただけた、やりがいがあると感じた。
- まだローカルガイドをしていてスルーガイドはしていませんが、一例として挙げた自転車のツアーの中で、お客さまが地元の産業などを見学し、理解を深めていく様子がとても興味深かったので。
- 多方面の観光業態にチャレンジしたいため。
- わたしは広島で生まれ育ち欧米で 25 年暮らした後広島に帰ってきて通訳ガイドになろうと思立ち、地域通訳案内士の資格をとったばかりです。でもなにかからどう動いていったらいいのか自分で勝手に圧倒されて勇気が出せず足踏みしている感がありました。今日お話しを聞いて、自分の広島と日本文化に対する「好き」をまず再確認して自分の中で高めまくってみよう、できること・やりたいことから、今日から一個ずつすればいいんだと思えました。というわけで私にとってとても inspirational で、研修に参加して本当に良かったです。ありがとうございました！
- 未来を感じるので。
- 自身の活動エリア（山口県）以外の近郊エリアとの連携や山口県内での市町やジャンルを超えた連携、機運醸成の重要性を感じているため。
- 広島により多くの人々に訪れてほしいから。
- My son Horatio is particularly adept at adventure or extreme sports and recreation activities. Specifically, he is proficient at rock climbing and he may want to get involved in this business in the future. Additionally, my daughter Reika also does tourism experiences (currently kimono and tour guiding) and may be interested in branching out to adventure. She's also athletic. As to myself, I'm very concerned with developing narratives for the new wave of tourists based on

doing research into the academic literature in Japan Studies. This initially concerned the Sanyo Rai legacy, and has branched out into other areas. The dominant narratives being promoted under the rubric of "Peace Culture" are largely ahistoric, solipsistic, and grounded in the logic of advocacy and political party promotion, rather than the more insightful firmament of Japan's actual cultural heritage. Again, translating Japanese language narratives is insufficient and it is preferable to ground narratives in academic research.

### ○どちらかと言えば関わりたい

- 中国地方を活性化するよい取り組みだなあと感じたので。
- スルーガイドは非常に力量が求められ、また体力面も重要で、果たしてできるだろうかという不安はあります。ただ、事前の準備や下見で克服できることだと思います！
- 地域の表面だけでなく文化や考え方に触れてもらうことができる点が魅力的に感じた。
- 興味はあるがまだ準備ができていない。
- まだ、勉強不足な部分もあるため、しっかり勉強してから関わっていきたい。
- 旅行者に喜んでいただけるプランを提供したい。
- 現在の有資格は、「山口ゆめ回廊地域通訳」と「日本語教師」のみで、ガイドとしては広島で活動出来ません。来年以降、全国通訳案内士の資格が取れましたら、是非。
- なお、常々感じているのが、日本語を勉強したいと思っている外国の方が少なからずいらっしゃる。ツアープランの中に初級日本語講座を数時間組み込んでみるのも楽しいのではと思います。
- 地域の方々との交流も図れそうですし、日本文化や歴史をツアー前に予備知識としてお話するのも一案かと考えます。それであれば、日本語教師として参加させていただきます。
- 主に平和公園、宮島をガイドしていますが、インバウンドのお客様に広島の魅力をもっと多角的に味わっていただきたいと日頃から思っているため。
- 観光ガイドをしていて、変わったガイドの体験もしてみたいから。
- まだ詳しくイメージは浮かんでいませんが、ただ観光地をご案内するだけよりも、日本を体験して頂ける経験を提供できることが、面白そうだったため。
- 地元の宝物や中国地方のいろいろな素晴らしい物を世界の人々に知ってもらうことに関わりたいので。

### ○どちらともいえない

- 現在、スルーガイドを養成もできず、アドベンチャーツーリズムといえるところまで、体験やガイドができていない状態だと、思っています。ただ、今後、必ず必要になると思っており、勉強のために参加させていただいております。
- 年齢的に積極的に関わっていけないと思うので。
- 魅力的な中国地方が目されるように 私でできる範囲でお手伝いさせていただきます。
- 現在まだガイドとして経験を始めたばかりだから。
- 現在スポットガイドのみ実施しており、当面これを継続したい。

### ○どちらかと言えば関わりたくない

- 一人で、何日もゲストの命を守り楽しませてあげるのは、本当に大変だと思った。現在、定点でガイドする（平和公園、縮景園、広島城）事しかしていないが、旅行社からの依頼でツアーコンダクターの代わりにそこだけをガイドする事もある。こういう定点ガイドのリレーで繋がる、全体ではスルーガイドがあればいいなあと思った。
- 自分の所属団体と関わりが無い中で、内輪話のようなセミナーを開催するようでは関わる気になれない。

## 4. 中国地方における AT コンテンツの情報収集・調査

### 4-1. 各県によるコンテンツの状況

中国地方の各県における AT に関連するコンテンツの情報や情報発信の概況を整理した。

#### (1) 鳥取県の団体・コンテンツ・ツアー等の内容

関係団体 or ツアー	概要						AT の要素		
	体験内容	体験場所	料金・総費用	人数	情報発信	時期	アズテイティブ	自然	文化
グリーン・ツーリズムやまだ	旧庄屋の施設を利用した <b>農家民宿</b> 。顧客のプライベートを守り、心の安らぎと、田舎のよさを味わう。	八頭町	¥3000/人	最大6名	—	—		●	
TRAIL ON (トレイルオン)	<b>鳥取砂丘</b> の見どころや絶景撮影ポイントなどをプロカメラマンが案内する <b>ガイドツアー</b>	鳥取砂丘	¥6,000	2～20名	—	常時		●	●
鳥取県自然体験塾、いわみガイドクラブ、鳥取観光ガイドセンター	<b>鳥取県岩美町</b> において、いわみガイドクラブがわかりやすく案内する。 <b>ジオパークガイド</b> 。浦富海岸トレイルの四つのコースがある。	浦富海岸	・1～4時間までの場合 5000円/ガイド1人 ・昼食をまたぐ5時間の場合8000円/ガイド1人 ・5時間を超える場合(8時間程度まで) 10000円/ガイド1人	ガイド1名: ビクター2名から 10名を超える場合: 2名以上ガイドが必要	—	—	●		
鳥取県自然体験 USKAYAK (浦富海岸シーカヤック)	<b>シーカヤック体験</b> 。波が浸食して出来た奇岩や洞門。海の生き物たちを覗きながら、洞窟に入ったり、岩と岩の間を抜けたり、カヌーならではのツーリングを楽しむ。ユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸の中でも最も美しい浦富海中公園を体験する。	浦富海岸	¥7,700～ ¥11,000/人	—	英語	4月～10月	●		
Develop Surf & Sea	<b>カヤックに乗って</b> 、浦富海岸を観光。日本海の荒波に侵食されてできた景色は、迫力のあるものばかり。名勝・浦富海岸を楽しむ。	浦富海岸	¥6,700～ ¥9,900/人	—	英語	4月下旬～9月下旬	●		
因幡麒麟獅子舞の会	鳥取県東部に約350年前より伝わる麒麟獅子舞の見学	県民ふれあい会館	無料	—	—	11月			●
一般社団法人大山観光局	伯耆大山の <b>ガイド、イベント</b> を色々実施。自然にあふれ、多くの命に恵まれ、数多くの文化が育まれてきた大山を体験。	伯耆大山	¥3,000～ ¥9,000	コースによる	英語	コースによる	●	●	
せれん環境教育事務所 (NatureGuide Ametsuki)	五感を使ったネイチャーインタープリテーションによる自然体験を通して、自然と、地球と、自身とがつながる、森の時間、自然とツナガルを作っている。自然体験のなかでも <b>間歩き・星空野宿</b> など夜・闇・宇宙をテーマに活動	鳥取県	¥5,000～ ¥10,000程度	コースによる	—	コースによる	●		
東部タクシー貸切観光タクシー 智頭町めぐり+芦津溪谷での森林セラピー	<b>タクシーで巡る</b> 智頭宿と牛ノ戸窯 <b>ツアー</b> 、 <b>山陰海岸ジオパーク・"砂丘の夢"ツアー</b> の二つのツアーがある。	山陰海岸砂丘 牛ノ戸窯	¥5,000～ ¥35,000程度	4人乗り	—	常時		●	●

大山・中海エコツーリズム協議会	<b>ハイク、サイクリング、カヤック、登山など各種ツアー。大山隠岐国立公園</b> とその麓に広がる周辺エリア、及び、ラムサール条約登録湿地 中海とその周辺エリアを中心とした、エコツーリズムの促進に取り組む。	伯耆大山 周辺	¥1,000～ ¥7,500 程度	コースに よる	英語	コース による	●		
森の国	森の国というアドベンチャーパークでの、 <b>散策、サイクリング</b> などいくつかのツアー	大仙森の 国	¥1,000～ ¥30,000 程度	コースに よる	—	コース による	●		
鳥取砂丘パラグライダー砂丘本舗	『 <b>鳥取砂丘パラグライダー</b> 』では、パラグライダーでフライトされる方に砂丘の大空を提供	鳥取 砂丘	¥10,000～ ¥1,5000	—	英語	常時	●		
SANDSLIDER SAND BORD 株式会社 Casting net	日本で唯一の <b>サンドボード体験・レッスン</b> が楽しめる鳥取砂丘サンドボードスクール。	鳥取 砂丘	¥3,500～ ¥5,000	各回 1～50 人	英語、 中国語、 韓国語	常時	●		
わかさ氷ノ山インフォメーションセンター (氷ノ山グリーンテ等活用実行委員会)	<b>E バイクツアーとスキー教室</b> 。「わかさ氷ノ山インフォメーションセンター」は、春は新緑、夏は登山やキャンプ、秋は紅葉、冬はスキーなどが楽しめる、遊びながら学べるスポーツの拠点	わかさ 氷ノ山	E バイクツアー ¥4,000/人 プラススキー ¥6,000	2～5 名	—	5 月 上旬 ～11 月上旬	●		
Hidden west	<b>プラネタリーヘルスツーリズム</b> 。あなたにオリジナルのプログラムを提案する。大山流域の山、川、海を身体知性を通して感じ、自然のシステムを学ぶプログラムである。	伯耆大山 皆生温泉 付近海	¥6,000/人 前後	4～5 人	—	—	●		
砂丘 YOGA	<b>砂丘ヨガ</b> (夕陽のパワーを全身に取り込むサンセットヨガ)、サップクルージング&サップヨガ	鳥取 砂丘	¥5,000～ ¥7,000/人	—	—	コース による	●		
鳥取砂丘セグウェイアドベンチャー 事業者名：株式会社 S i S S	鳥取砂丘での <b>セグウェイツアー</b> をおこなっている。この他、SISS で、鳥取と淡路島でフロアリックシーアドベンチャーパーク鳥取や淡路島を運営している。	鳥取 砂丘	¥7,800～ ¥9,800/人	2～8 人	—	夏は 短い コース のみ	●		
智頭町森のガイドの会： 智頭町森林セラピー推進協議会	<b>森林セラピー</b> 。森を楽しみながら、森の中で歩行や運動、リラクゼーション、ライフスタイル指導などを受ける一歩すすんだ森林浴	鳥取県 智頭町	¥8,800～¥14,300/ ガイド 1 人	ガイド 1 名につき 6 名まで	—	—	●		
鳥取県境港市の遊漁船 JOY FISHER (ジョイフィッシャー)	<b>釣り船</b> によるフィッシング。	美保湾、 島根半島 沖	¥12,000/ 人, ¥90,000/チャーター	8 名～10 名	—	—	●		
一般社団法人 倉吉観光 MICE 協会	全身で歴史に触れる、自然に触れる体験。歴史のある <b>伝統工芸</b> に触れる体験や、 <b>自然ワークショップ、トレーニング</b> など全身で楽しむ。 →やまもり温泉キャンプ場/倉吉餅でまち歩き/はこた人形顔描き体験]	倉吉	¥15000/ガイド1人 英語対応の場合、 ¥10,000 追加	最大 5 名	英語	—	●	●	
かすみジオカヤッククラブ	<b>ジオパークガイド (カヤック・SUP)</b> で、香住海岸や河口を散策する。奇岩や洞門を間近に見る事ができる。	香住 海岸	¥7,000～ ¥10,000/人	—	—	5 月 ～ 9 月	●		

民藝美術館	民衆的工芸すなわち「民藝の美」に関する <b>美術品の鑑賞</b>	鳥取県鳥取市栄町651	¥500/人	—	—	通期			●
一般社団法人倉吉観光MICE協会	「はこた人形」とは、倉吉に江戸時代から伝わる子供が無事に成長することを願って作られた張り子の人形。はこた人形のほか <b>倉吉張子の顔描き体験</b> 。	鳥取県倉吉市魚町2529（夢倉内）	起き上がり（干支含む）1,100円＋体験料500円＝1,600円 はこた人形【豆】1,100円＋体験料500円＝1,600円 はこた人形【小】2,000円＋体験料500円＝2,500円 因幡の白兔【小】2,000円＋体験料500円＝2,500円 因幡の白兔【大】2,500円＋体験料500円＝3,000円	—	不明	通年			●

## (2) 島根県の団体・コンテンツ・ツアー等の内容

関係団体 or ツアー	概要						ATの要素		
	体験内容	体験場所	料金・総費用	人数	情報発信	時期	アタビリティ	自然	文化
㈱石見銀山生活観光研究所	■ <b>古民家での滞在</b> を通じて体験する、もう一つの故郷の時間。(株)石見銀山生活観光研究所（鳥根県大田市）、子会社の(株)他郷阿部家（同）は、世界遺産 石見銀山のある大森町において、古民家を改修・再生した、宿泊施設の経営を手掛ける。	石見銀山	¥88,000~ ¥154,000/ルームに 人数により 追加料金	2~6名/ 1棟程度	—	通期			●
Yu-na 推進協議会	<b>サイクリング</b> をはじめ、数件のツアー。	津和野	¥8,800~ ¥11,000/人	1名~ 10名	英語	通年	●		
	早朝に <b>津和野城跡に登り</b> 、静かな山頂で特別な津和野の食材をふんだんに使用したオリジナル <b>朝ごはん</b> を頂く		¥13,200/人	2人~6人	英語	通年	●		
島根県 水の都松江水辺ブランド創出協議会	宍道湖に浮かぶ小さな島「嫁ヶ島」を中心とした <b>水辺空間の景観や自然環境</b> を住民が主体となって地域の宝物として守り、水の都松江の文化観光の拠点として保全・活用している。色々イベント事業を予定している。2025年は、島根半島東部回遊スポット体験ツアーや嫁が島万灯会など	宍道湖	—	—	—	—		●	●
島根県 一般社団法人益田市観光協会	益田の神楽は SDGs~日本遺産「 <b>石見神楽</b> 」を多様な来訪者に届けるユニバーサル ツーリズム造成事業である。	益田市駅前ビルEAGA 3階大ホール	¥1,200/人	—	英語	主に土曜日			●

島根県 一般社団法人西ノ島町観光協会	隠岐諸島 パワースポット西ノ島（西ノ島町）での <u>ダイビング</u> 、 <u>シュノーケリング</u> 、 <u>シーカヤック</u> 体験。加えて『フォトウェディングの商品開発』と『リ・ブライダルへの展開』事業を実施。	隠岐の島	¥6,500~ ¥14,000/人	—	英語	4月 ~11 月	●		
農家民宿 梨の木原	「三瓶山」が望める山間の里で <u>田舎の暮らし</u> を通した体験、 <u>蕎麦打ち体験</u> 。 <u>撒きき割</u> をして <u>五右衛門風呂を焚いて入浴</u>	大田市	1泊2食¥8,000 体験により ¥2000~¥4000 プラス	—	—	体験 コース による			●
自然体験、エコツアー、野生生物調査などツアー色々ある	隠岐諸島の独自の自然環境が未来永劫守られていくことを目指し、持続可能な地域づくりのための活動を行っている。 <u>シースクーター&amp;シュノーケリングツアー</u> 。海の中を自由自在、隠岐の海を大冒険。	隠岐の島	1名様基本料金： 12,100円	2名様以上 で実施 ※最大7 名様まで	—	7月 1日 ~ 9月 15日		●	
たなべたたら の里	田部家の <u>たたら吹き</u> 室町時代初代彦左衛門が神夢によりたたらをはじめ600年。伝統と革新を繰り返しながら、先人より受け継いだ日本古来の鉄づくりの精神と技法を「鉄師」田部家が現代に伝える。 3日フルコース：工程を最初から最後まで体験頂きます。 初日は島根県雲南市吉田町エリアのたたら遺構や田部邸内をご案内します。	たなべたたら の里	日数により： 71,500~159,500円	10名	英語	10/28 9:00 ~ 10/29 11:00 (26時間)			●
株式会社 Visfactory	島根半島小波地区を中心とした海端コンテンツ活用ブランド構築事業。SUP体験・講習、 <u>SUPアドベンチャーツアー</u>	松江市	6,600円（税込） ~12,100円	2名~	—	通年	●		
Heart Land Japan	江の川流域 <u>アドベンチャーツーリズム</u> 。「HASHIWATASHIプロジェクト」事務局(株式会社NTTアド)は、三次市から江津市を流れる江の川流域エリアを世界有数のアドベンチャー・ツーリズムの聖地とすべくプロジェクトを立ち上げた。	島根、 広島	¥462,000	—	英語	通年			●
Two hidden gems in Japan: Hagi and Tsuwano Series Part 2 Tsuwan	Hagi and Tsuwano became popular destinations for castle towns, along with the famous Magome-juku and Tsumago-juku on the Nakasendo Highway. Hagi and Tsuwano are also rich in nature; therefore, <u>hiking</u> and <u>cycling</u> are recommended for those who want to actively enjoy the natural beauty of the castle towns.	広島 岩国 津和野 萩	¥767,000	Minimum number of participants: 4	英語	通年			●
HITUYAMA(ひとやま)	標高の <u>高い山へ足を伸ばし</u> 、様々な地形を楽しみます。フリーランスの登山ガイド西山肇年が主宰しているHITUYAMAは、山陰の野山をからだひとつで楽しむコトをつくっています	三瓶山	500円/1人 (3.5時間程度)	2名~5名 で開催	—	—	●		

HISOM	島根県大田市温泉津町の日祖（ヒソ）地区にできた <b>ゲストハウス</b> HISOM。古民家の魅力溢れる外観や建具を残しつつ、海外からのゲストも快適に過ごせるように改装を加えた中長期滞在者向けの宿である。	温泉津	¥46,000	5名	英語	通年	●	●	
ココリト大根島 大根島農業体験推進協議会	ココリトは大根島と湖周辺地域を満喫するために、2018年春オープン。農場に面した旧縫製工場をリノベーションし、快適空間が生まれた。ここを拠点に、 <b>ゲストハウス、島サイクリング、収穫・創作体験</b> を提案している。 <b>山陰双湖周遊</b> のナビゲーション機能も充実を図っている。	大根島	1泊約¥4,700	—	英語 中国語 韓国語	—	●	●	
知夫里島観光協会	<b>サップ、シーカヤック</b> のツアー、 <b>創作体験</b> などを実施している。	知夫里島	大人(中学生以上) 7,700円	3名	—	—	●		
一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構	国指定の名勝 布施海岸の海上に身をおき、「家族皆で自然を楽しむ」そんなワクワクする時間をガイドと一緒に作り上げる 1日1組限定のプライベートツアーである。 <b>シーカヤック、スノーケル、魚釣り、アウトドア調理、夜釣り、星空観</b> 。	布施海岸	大人 7,000円	1名～最大4名まで、1ツアー1グループのみで開催	英語	3月頃～11月頃	●	●	
瑞穂ハイランド	2人乗りタイプの迫力ある <b>バギー</b> に乗って、山の自然ならではの風や音、絶景を楽しみながら気持ち良く運転できる。安全性確保のため、施設スタッフが誘導のうえ案内している。	瑞穂ハイランド	¥4500～¥10,000/人	—	多言語	—	●		
一般社団法人 飯南町観光協会	飯南町森林セラピーでは、 <b>森林浴</b> の持つ癒し効果をより五感で感じられるよう、森林セラピスト・森林セラピーガイドがサポートし、心身の健康増進・疾病予防を目指す取り組みをおこなっている。	飯南町	¥8,000～¥20,000	森林セラピーガイド1人につき、最大6名まで対応可	英語 中国語 韓国語	—		●	
ゲストハウス かたゑ庵	美保関ゲストハウスかたゑ庵で泊まる、 <b>カヤック体験</b> 。かたゑ庵のカヤック体験ツアーは、日本ジオサイトの美保関町片江湾の絶景を巡ります。	美保関町	1名につき 7800円	2名あるいは4名まで対応可	英語	—	●		
一般社団法人 出雲観光協会	日御碕 <b>トレッキング</b>	出雲	無料	15名	英語	—		●	●
大久保間歩予約センター 株式会社 石見観光	<b>石見金山の間歩ツアー</b> 。石見銀山 大久保間歩 一般公開限定ツアー	石見銀山	大人 4,500円/1人	1日4回 各回20名様限定	—	3/1～11/30 金・土・日・祝日・GW・お盆期間			●
一般社団法人 浜田市観光協会(主催・受付)	<b>夜神楽鑑賞</b> (20:00～21:00/抽選会・記念撮影あり)	三宮神社 (浜田市 相生町)	1,500円 (小学生以下無料)	定員約 100名		毎週 土曜 +			●



まにわ発酵ツアー	発酵の息づくまち“真庭”を巡る - まにわ発酵ツアー -。 2012年、発酵に魅せられた真庭の酒蔵や企業、工房が集まり、同じ「発酵」でも真庭には多ジャンルの発酵があることに気づき結成。真庭の <b>食文化</b> を発信し、国内外から注目を集めている。	真庭市	①【勝山町並み保存地区と発酵文化を五感で体感する6時間プラン】1人様23,000円 ②【山ぶどうを使った「ひるぜんワイン」を体感する蒜山周遊5時間プラン】1人様23,000円 ③【里山・真庭の発酵蔵めぐり 5.5時間サイクリングツアー】お1人様15,000円	約10~15名	英語、中国語	-				●
BASE 101% - NISHIAWAKURA-	<b>いちご摘み体験</b> 。工場隣に新設した3,000平米のいちごハウスで完熟いちご摘み体験。 百年の <b>森林構想</b> を引っ張る「西栗倉村森の学校」が2022年3月にオープンした複合施設「BASE 101% - NISHIAWAKURA-」。西栗倉で採れたDIY用アウトレット木材の販売が一番の人気	西栗倉	-	-	-	例年1月~5月末頃までがシーズン				●
藤クリーンリサイクルセンター	株式会社藤クリーンが運営するリサイクルセンターの <b>施設見学</b> と <b>産業廃棄物の現状やリサイクル</b> について学ぶ。 一般ごみは知っている人が多いが、知られていない産業廃棄物について、現場を見ることで理解を深めてもらいたいとの思いから始めた。	岡山市	無料	最大30名	-	-				●
蒜山ツアーデスク	登山、トレッキング、スノーシューなど。 現場を熟知したガイドが、小学校高学年から年配の方まで体力に合ったルートを案内してくれる。	蒜山	¥6000前後	おおむね2~15名	-	通年	●			
吉備中央町観光協会	初めての方もOK、吉備高原の大自然の中での <b>乗馬レッスン</b> 。	吉備中央町	【初めての方向け】 ¥2,200(税込) ¥5,500(税込)	-	-	通年	●			
【岡山・蒜山】見所一杯感動一杯!!大藪漕ぎと巨木巡りトレッキング	2018年日本エコツアー大賞特別賞(環境大臣賞)受賞のプロのガイド集団が案内する <b>エコツアー</b> プラン【岡山・美作】大自然の本格山道のバギー体験60分! 【岡山・総社市】歴史ミステリートレイルウォーク 【岡山・吉備路】歴史ミステリートレイルウォーク 【岡山・赤磐市】歴史ミステリートレイルウォーク	岡山県	¥26,000前後	3~8名程度	英語	-	●			
IT plan	「地元だから知っている」「地元だから分かる」岡山の魅力を旅行プランに盛り込んでいる。 桃太郎の温羅(鬼)伝説にまつわる <b>遺跡のご案内</b> 。 <b>水島工業地帯の夜景</b> 。「備前焼作り体験」。「児島ジーンズ作り体験」。「フルーツ狩り」。「農業体験」。「田舎でのショートステイ」	岡山県	¥2,200前後	3~8名程度	英語	通年	●	●		

ポウケンノモリ HIRUZEN	ポウケンノモリとは、「冒険体験パーク」。大人もスリル満点の <b>アドベンチャーコース</b> と子供も楽しめる <b>チャレンジコース</b> 。森の中をセグウェイで突き進む <b>フォレストセグウェイツアー</b> の合計3種のアクティビティが用意	真庭市	施設毎に各種金額	—	—	—	●		
カヌーパーク OKAYAMA(オカヤマ)	カヌーパーク OKAYAMA(オカヤマ)	岡山市	¥6,000	—	—	—	●		
新庄村森林セラピー協議会	新庄村は村全体が NPO 法人森林セラピーソサエティが行う生理心理実験によって森の癒し効果が科学的に実証・認定された「 <b>森林セラピー基地</b> 」である。さまざまなモデルコースが用意されており、参加者の体力や希望に沿って、時間やコース、体験内容などを自由に設定が可能である。	岡山県新庄村	¥1500~¥6,500 (参加人数による)	おおよそ1名~12名(コースによる)	—	—		●	
蒜山ガイドクラブ	蒜山の自然や気候・文化に合わせた体験プログラムを多数用意している。下記の項目を選ぶことができる。 <b>登山、湿原観察、大山古道のツアー、リバートレッキング、きのご鑑定会、スノーシュー、スキーハイキング、野鳥観察会、文化財めぐり、地史観察会、星空観察、野外活動体験、クラフト体験</b>	蒜山	¥10,000~¥12,000 (コースによる)	1名~相談	—	コースによる	●		
北房まちの駅(一社)北房観光協会事務局	■北房 体験案内 ・神秘スポット巡り体験 ・ミニお大師巡り体験 ・野菜収穫~田舎ごはん作り~囲炉裏ごはん体験 ・お祭り氏子体験、お神輿担ぎ体験 ・お寺体験	新見市	¥7,700~¥10,000 (コースによる)	2~20名	英語	ツアー内容による			●
大佐山オートキャンプ場	<b>シャワートレッキング、カヌー体験、洞窟探検</b> などの体験イベントがある。また、不登校や引きこもりの問題に、非認知能力育成プログラムという学びのプログラムを提供している。	新見市	¥7,700~¥10,000 (コースによる)	2~20名	—	ツアー内容による	●		
美星天文台	美星天文台は岡山県井原市美星町にある公開天文台で、誰でも気軽に天体観察が楽しめる。金・土・日・月は18:00~22:00の夜間会館がある。	井原市	¥300	-	英語	通年			●
FAN 美術館(藤原啓記念館)	<b>備前焼</b> 作家で人間国宝の藤原啓の足跡ともいうべき年代ごとの代表作品や、彼が影響を受けた古備前を一堂に集めて広く展示・公開している。備前焼の振興と文化の高揚に寄与する記念館で、藤原啓の長男で人間国宝の藤原雄の作品も多数展示している。	備前市	¥700	—	—	—			●
牛窓ウォータートレイル	手漕ぎの小さな船「 <b>シーカヤック</b> 」で水面を漂えば、先人達の叡智の一端に触れることができる。静寂の乗り物シーカヤックには、潮騒とともにスナメリの静かな息づかいやエイや魚が跳ねる音も聞こえる。	牛窓市	¥6,800~¥25,000	6名-12名	—	コースによる	●		

#### (4) 広島県の団体・コンテンツ・ツアー等の内容

関係団体 or ツアー	概要						ATの要素		
	体験 内容	体験 場所	料金・総費用	人数	情報 発信	時期	アク ティ ビティ	自然	文化
らびっど kayak School	カヤックの楽しみ方の一つとして人気のある、フリースタイルカヤック。このフリースタイルカヤックを中心として、漕ぎ方のイロハから応用の入り口までを丁寧にサポート。三段峡や聖湖でのカヤックツアー。	安芸 太田町	¥4,000~ ¥12,000 (コースによる)	6名程度 まで	—	—	●		
Outdoorbase Bear [アウトド アベース ベア ー]	「特別名勝 三段峡」を歩きながら、四季折々の生き物や植物の観察と渓谷美を鑑賞するドロップスを象徴するツアー。お客様のリクエストを基に、ガイドがその日の一番良いコースを案内し、三段峡を野外博物館に見立てたミュージアムツアーである。小さなお客様から年配の方まで気軽に楽しめる。陶芸教室もある。	三段峡	¥6,000~ ¥10,000 (コースによる)	最大 5名	—	コース による	●		
江の川カヌー公園さくぎ 運営会社 NPO 法人元氣 むらさくぎ	中国山地のど真ん中、広島県三次市作木町にあるアウトドア施設である。カヌー体験や水遊びをはじめ、コテージやキャンプでの宿泊も楽しめる。学校での修学旅行や野外活動、社員研修や子供会などの団体利用の受け入れもしている。	三次市	¥2,030 (カヌースクール)	—	—	—	●		
SUP 宮島 運営 Setouchi Experience	Stand Up Paddle やカヤックを使い、島内の各所でエコツアーを行っている。	宮島	7,700円~ ¥19,000	—	英語	—	●		
MAGIC ISLAND(マジ ックアイランド)	マジックアイランドは、広島のお土産ショップで、プロのインストラクターが在籍し、安心して安全な SUP の体験教室をはじめとした、様々なスポーツのレッスンを開催している。スポーツに必要なアイテムが購入できるショップの運営や、スポーツに関連したイベント企画などもおこなっている。	広島市	¥4,400~ ¥7,700	—	英語	—	●		
HART アドベン チャーセンター	初心者から楽しめるシャワートレッキングを始め、シャワークライミング、カヌー、川遊び、キャンプ等いろいろな遊びのプログラムを企画・運営している。	宮島	¥6,000~¥10,000	2~6名 様(6名 様以上は 要相談)	—	—	●		

広島市湯来交流体験センター 運営：NPO 法人湯来観光地域づくり公社	広島市中心部から車で1時間。広島 の奥座敷である温泉街と、豊かな 自然が広がる湯来温泉に、自然 体験プログラムや伝統的な農林 業、歴史、文化を体験する施設 として、2009年にオープンした <b>シ ャワークライミング等の川のプ ログラム、登山、収穫体験、そし てキャンプやBBQ</b> などが楽しめる。	湯来	¥9800~¥20,000	—	英語	—	●		
	湯来町こんにやく作り体験	湯来町	1,500円（材料費込）	4名以上の 申込で 開催	英語	—			●
ほしはら山のが っこう NPO 法人ほし はら山のがっ こう	ほしはら山のがっこうは、廃校と なった木造校舎「三次（みよし） 市立上田小学校」を活用し、一部 改装した施設である。 ・森の遠足プログラム ・川西（電動）レンタサイクル 暮らしの そばの学校（環境教育）	三次市	¥1,000~ ¥4,000 （コースによる）	—	—	—	●		●
O.M.S(Oasa Mobility Station)(オー ・エム・エス) 運営会社：(有) 大朝交通	バスの駅だった大朝駅がサイク リストや観光客が集える場所、そ の名も大朝モビリティステーシ ョン『O.M.S』となり、スポーツ タイプの <b>電動アシスト自転車(E- BIKE)</b> で大朝を巡るツアーをお こなっている。	北広島 町	6,600円/1人	—	英語	—			●
株式会社 mint	世界中の街や地域にはその土地 ならではの雰囲気を作ってきた 歴史や文化があり、そこで生活 する人々がいる。そんな「ここに しかないストーリー」を感じること ができるよう、地元ガイドと一緒 に <b>電動自転車</b> で街を巡る <b>交流型 のツアー</b> である。	広島市	¥9000~¥13,000	1~10人	英語	通期			●
宮浜アドベンチ ャーズ 運営主体：(株)地 域ブランディ ング 研究 所 Attractive JAPAN チーム 【第二種旅行 業】	宮島の裏側にある雄大な自然を 冒険する <b>カヤックツーリング</b> 、太 平洋を一周した冒険家と行く <b>セ ーリング</b> 、海の上に浮かぶ <b>海上レ ストラン</b> 、周辺の島への <b>クルーズ &amp;サイクリング</b> ツアー、プライ ベートビーチでの島時間、宮島と瀬 戸内の絶景広がる経小屋山 <b>トレ ッキング</b> などをおこなっている。	宮島	1-4名 53,850円/グループ	7名	英語	通期	●		
SETOUCHI Seakayak Adventures 村 上水軍商会	村上水軍商会では、広島県福山市 にある鞆の浦での <b>シーカヤック アテンド</b> を行っている。	鞆の浦	13,500/人	—	英語	—	●		
瀬戸内案内舎た びたす	しまなみ海道は瀬戸田（生口島） をベースに、 <b>サイクリングガイド ツアー</b> ・レンタサイクルサービス を提供している。	瀬戸田	1人 ¥12,000（税込）	最少催行 人員2名 -最大人 員5名	英語	通期	●		
株式会社麻世勝 エビス	<b>人力車による観光ガイド</b> 。本社は 東京にあり、フランチャイズ店が 宮島にある。	宮島	2名乗車時： ¥10,000~¥38,000	—	—	通期			●

NPO 法人 Peace Culture Village	PCV は、一人一人にとって <b>平和</b> な世界を構築するための役割、ビジョンを磨くための <b>機会・場所作り</b> を行っている。プログラムで大切にしていることは、自由な探求と個々人の気づき、そして私たち一人ひとりから生まれ出てくる平和文化である。人々の新たな視点とそれぞれの「平和のピース」が平和文化をより良いものへと育み、世界にその輪を広げている。	広島平和公園	—	—	英語	—			●
自転車観光案内 ぼたりん	<b>とびしま街道をサイクル</b> する、3時間程度の四つのモデルコースと1日のオダーメイドツアーが組める。	下蒲刈、蒲刈、豊島、大崎下島	3時間¥7,000~ 1日¥25,000	2~9名	英語	通年	●		
マジカル トリップ	<b>Taste Hiroshima's foods</b> in one night at the biggest nightlife district in Hiroshima!	広島市中心街	\$85.40	不明	—	常時			●
西条酒蔵通り観 光案内所	<b>酒蔵見学</b> やお酒の試飲(有料)を楽しみながら、風情ある街並みを散策。西条の歴史を学ぶこともできる。	西条酒蔵通り	—	—	—				●
公益財団法人東 広島市観光協会	1.5時間の <b>酒蔵巡り</b>	西条酒蔵通り	¥5,500	1~6名	—				●

## (5) 山口県の団体・コンテンツ・ツアー等の内容

関係団体 or ツアー	概要						ATの要素		
	体験 内容	体験 場所	料金・総費用	人数	情報 発信	時期	ア ク ティ ビ ティ	自 然	文 化
秋吉台アドベン チャーツアー ーズ	秋吉台に460ある洞窟の中から美しさ、難易度を厳選したうえで案内している。ただ <b>洞窟を探検</b> するだけではなく絶景を堪能することもできる。(すべてのコースで、地底湖でボートを遊覧できる。)	秋芳洞	¥16,000~ ¥2,6000/人	最小遂 行人数 1名か ら	—	—	●	●	
萩市ふるさと ツーリズム推 進協議会事務 局	<b>クラフト、農業、林業、料理、伝統文化</b> などの体験	萩市	数千円程度	—	一部 英語	—			●
はぎまえ69 8合同会社	FURUSATO <b>サイクリング【日本酒づくりのすべてを巡るサステナブルコース】</b>	萩市	1人 ¥23,650 2人 ¥14,300 3人 ¥12,650 4-8人 10,500	—	一部 英語	—			●
山口県漁協江 崎地区女性部	れんご鯛の <b>干物づくり</b> を伝授している。	萩市	¥2,500 (税別)	5~15 名	一部 英語	春か ら秋			●

ラフティング NEO	錦川でのラフティング、タッキー、リバーサップ、シャワートレッキングツアー	岩国市錦町	大人 ¥5,430 (税込 ¥5,950)	—	—	—	●		
やまぐち萩往還語り部の会	萩往還語り部の会では、4つのコースを設定し、土日・祝日には参加費 500 円でガイドが見どころを案内、全コース歩かれた方には完歩証明書を発行している。	山口県内	¥500	—	英語 中国語 韓国語 タイ語	—	●		●
Labu フロント ティア協会	都道府県営ダム総貯水量全国3位(中四国・九州最大級)を誇る阿武川ダム湖を活用したアクアレジャー施設である。昭和42年から8年の歳月を費やし昭和50年に阿武川ダム完成。ダム建設に伴い、複数の集落が水没。水位により、水没集落跡を垣間見ることができる他、四季折々の湖上風景を散策したり、フィッシングを楽しむことができる。	萩市阿武川ダム	—	—	—	—	●		
萩ふくや	レンタル着物とそれらをいかした体験プランがある。	萩市	¥5500~ ¥8500	—	—	—			●
株式会社 天 白ひらこし [ふく楽舎]	フグの料理教室	下関市	¥7,130 (税込)	4名から(最大80名様)	—	—			●
茶宗天地	一服のお茶を心行くまでゆっくりと味わえる。海の青・木々の緑・鳥のさえずり・波の音・茶葉から漂う清々しい香りそんな全てが味わえる。	宇部市	—	—	英語	—			●
Daiduk Ocean Kayaks	山口県平生町にあるカヤックガイドショップである。目の前の瀬戸内海には、魅力的な海と山が広がっており、そんな自然に囲まれながら、シーカヤックやサバニに乗って海上を探検する体験ができる。	平生町	¥7,700~¥13,200	1~8名	英語	—	●		

## 5. モデルプラン・ツアーの検討・作成、モデルツアーの実施と販売促進に活用可能なテンプレートの作成

### 5-1. モデルプランの作成

中国地方をストーリーでつなぐ周遊ツアーを創出するため、以下の流れでモデルプランを検討した。

<b>STEP1</b> 骨子の作成	○ 「第1回 AT ビジョン・モデルプラン検討ワーク」を実施し、モデルプランの骨子を作成
<b>STEP2</b> 実地視察・意見交換から現場の声を反映	○ 「実地視察や意見交換会」を通じて、骨子をベースに現場の課題や思いを収集
<b>STEP3</b> 素案の構築・調整	○ 「実地視察や意見交換会」の意見を整理・集約し、「第2回 AT ビジョン・モデルプラン検討ワーク」でモデルプランの素案を作成
<b>STEP4</b> モデルツアーを通じてモデルプランを検証・精査	○ モデルツアーを実施し、モデルプランの課題の明確化と検証を行う。
<b>STEP5</b> モデルプランの完成	○ モデルプランの作成 ○ タリフの作成

## 5-2. モデルツアーの実施

### (1) 開催概要

#### ○目的

- ✓ モデルプランのルート検証
- ✓ モデルプランの実現性の検証
- ✓ モデルプランのブラッシュアップ

#### ○日時

令和8年1月19日（月）～1月21日（水）

#### ○招聘専門家

（一社）Hiroshima Adventure Travel 理事 川口 康太

#### ○ガイド

##### ○スルーガイド

（一社）Hiroshima Adventure Travel 業務執行理事 佐藤 亮太 氏

##### ○スポット

神楽門前湯治村 江種 恭匡 氏（取締役統括部長）

もののけミュージアム 博物館事務局長 勝山氏

出雲神社他 全国通訳案内士 石飛 千恵 氏

大山 大山観光局 車 浩一 氏

#### ○その他参加者

ランドブレイン株式会社 田添 雄大

（一社）Expe 広瀬 徹

株式会社メディア 藤岡 雄太

## ○モデルプランのテーマ

### The Genesis of Japan and the Timeless Prayer for Peace

#### 日本のはじまりと、変わらぬ平和への想い

- 日本。世界でも独自の文化を築くこの国ですが、実はその多くの起源が、山陰地方であることはあまり知られていません。
- そして、平和という言葉。今は広島を中心にこの言葉が語られていますが、実は古来から争いを避け、平和を築こうとする想いが日本人の根底にあり、それは、はるか昔、出雲の国で行われたとされる、国譲り神話でも語られています。また、自然を搾取するのではなく、自然と共に生態系と調和した暮らしが、ここにはありました。
- しかし、時は戦いの世へと移り、その果てに、広島には人類初となる原子力爆弾が投下。悲惨という言葉では語りきれない状況があり、そして同時に、自然も破壊されました。そうした状況から、二度と人と人が殺し合う戦争を起こしてはならない、そして、自然と共に生きていこう、という強い意志が改めて生まれました。日本人が原点に戻った、ということかもしれません。
- 今、争いが絶えない世の中において、日本における平和への想い、そして生態系と調和した暮らしを体感し、語り合うことは、これからの時代の平和を、共に作っていく礎になると考えています。サイクリングで巡りながら体感し、一緒にあなたにとっての平和を考えてみませんか？

## ○モデルプランのルート案



## ○モニターツアー実施内容

上記のモデルプラン案の抜粋・短縮バージョンで実施し、コンテンツの確認と評価・検証を行う。

日	時間	内容	備考
1/19	9:00	加計 月ヶ瀬温泉集合	
	9:00	モニターツアー開始	イントロダクション
		加計～太田川ルート検証	
	10:30	神楽門前湯治村	※別ルート検証のため、一旦立ち寄りのみ
	11:15	月ヶ瀬温泉	
		加計～大朝ルート検証	
	12:00	大朝	
		ランチ	
	13:30	神楽門前湯治村	
		ルート検証	
	14:00	もののけミュージアム	※別ルート検証のため、一旦立ち寄りのみ
		ルート検証	
	14:45	湖畔ステイズ庄原	
		ルート検証	
	15:30	もののけミュージアム	ガイド 博物館事務局長 勝山氏
	16:30	ルート検証	
17:00	神楽門前湯治村	ガイド 湯治村 江種 恭匡 氏	
18:00	神楽門前湯治村 宿泊		
1/20	7:00	朝食	
	8:00	車移動	
	9:10	備後落合駅 着	
	9:20	備後落合駅 発	※電車組と車組に分かれる
		出雲坂根 着 延命水・三段式スイッチバック 奥出雲おろちループ・道の駅	
	11:00	奥出雲たたらと刀剣館	※今回は寄るだけ
	11:30	ランチ (そば) 一風庵 (奥出雲町下横田 89-2)	
	12:30	移動	
	13:30	菅谷たたら山内	※今回は寄るだけ
	15:00	吉田地域のまちなみ散策	
	17:00	RITA 雲南吉田	
1/21	8:00	出発	
	9:00	出雲大社、稲佐の浜	ガイド 全国通訳案内士 石飛 千恵 氏
	10:30	宿インスペクション	NIPPONIA 出雲大社門前町
	12:30	ランチ	
	13:30	大山観光案内所	ガイド 大山観光局
	14:00	大山から弓ヶ浜を見渡す	
	14:30	振り返り	
	15:30	解散	

※悪天候（大雪）で木次線が運休となり、1月20日午前の備後落合駅～出雲坂根駅の木次線乗車は中止し、車移動とした。

※悪天候（大雪）のため、1月21日午後の大山は中止とし、別日で視察を行った。

## (2) 実施報告

### ① 1日目

#### ▽広島県安芸太田町加計

→たたら製鉄とその水運の歴史



#### ▽太田川沿いルート検証

→太田川の程原橋（水と共に生きる沈下橋）とそこからみる景色



#### ▽広島県北広島町

→巖島神社



巖島神社から見る景色



#### ▽広島県北広島町

→「彩聖-saisei-」でランチ



#### ▽広島県三次市

→もののけミュージアム（妖怪と人間がどう共存してきたか、助け合ってきたか、たたら製鉄と妖怪の関係性を学ぶ）



#### ▽広島県安芸高田市

→神楽門前湯治村（神道と深い関係性を持ち、戦後の新たな形としての神楽を楽しむことができる。食事、宿泊も可能）



## ② 2日目

### ▽広島県庄原市

→備後落合駅



### ▽島根県奥出雲町

→出雲坂根駅（JR西日本で唯一の3段スイッチバック、地元住民の生活を支える延命水）

→おろちループ（日本最大規模の二重ループ方式道路、日本神話のヤマタノオロチより命名）



### ▽島根県奥出雲町

→一風庵にてランチ（そば）



### ▽島根県雲南市

→RITA 雲南吉田（森とたたらの記憶をたどる宿）



### ▽島根県雲南市

→RITA 雲南吉田（和鉄を使用したぐい呑み、サウナ付き）



### ③ 3日目

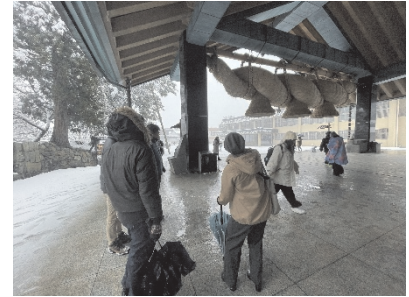
#### ▽島根県出雲市

➡稲佐の浜（国譲り・国引きの神話で知られる浜・八百万の神々をお迎えする神事の浜）



#### ▽島根県出雲市

➡出雲神社



#### ▽島根県出雲市

➡NIPPONIA 出雲大社門前町



### ④ 大山：別日視察

#### ▽鳥取県大山町

➡大山（大山から俯瞰した弓ヶ浜、大山さんのおかげの体感（大山が存在することで地域の暮らしや産業、文化が成り立っているという精神性））



### (3) 招聘専門家からの評価・フィードバック

招聘専門家川口氏より、以下の評価・フィードバックがあった。

項目	評価
全体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの点や全体のテーマは理解したがまだ線として繋がっておらず、今後全体のストーリー構築や、伝えたいことに対しての蓄積が必要</li> <li>●良い点としては、HAT/CAT 視点で海/島のサイクリングツアーを既に造成した中で、山/里山メインの違ったランドスケープの体験が提供できること。</li> <li>●たたら関連施設は、宿泊をすることで当時の暮らしをより鮮明に想像できたことがとても良かった。未来志向の大きなプロジェクトとして動いていることも、訪問価値を向上する。</li> </ul>
ストーリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国譲りの話がテーマで挙がったが、現状では出雲大社での点の話で実際の体験や道中の話で結びついてはいない状態。今後編み込んでいく必要がある。</li> </ul>
サイクリングの距離・ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おおまかな構成は良いと感じる。</li> <li>●ただ確定したルートがないので詳細評価できず。今後選定、実走し評価する必要あり。</li> </ul>
立ち寄り先の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学びの視点での立ち寄りはあるが、体験できることがあると良い印象。</li> <li>●鉄打ち体験、日本海を実感する体験、山間部の暮らしを実感する体験、など文化自然を五感で味わえる体験を入れて深みを出す必要性。</li> </ul>
立ち寄り先の品質面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他のプロジェクトでも出入りした際に、例えば資料館より実際の菅谷たたら山内が評価高かったので、本物を意識して訪問先として設定していくことが大切。話す内容に関して我々の意図するものを伝え、ストーリーを整えていく必要あり。</li> </ul>
ガイドの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●余り神話に寄りすぎず理解しやすかった。</li> <li>●今後全体感をシェアして、どんな意図を持ってどこで何を話すか、共に整えていけると良い。</li> </ul>
食事のクオリティ	<p>大朝「彩聖-saisei-」昼食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●畑の恵みが多く、味、量も満足度高い。</li> </ul> <p>神楽門前湯治村夕食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●山の中にあって十分な食材、内容、味。</li> </ul> <p>奥出雲町「一風庵」昼食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●そば、天ぷら共に味が良く季節感もあり。</li> <li>●棚田とそば、地域の関係を伝えるのに良い。</li> </ul> <p>RITA 雲南吉田夕食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の野菜、うなぎ、肉などが織り交ぜてあり、味、色彩、季節感、バランスがとても良かった。</li> <li>●更にオリジナルの日本酒が美味であった。</li> <li>●女将の接客も距離感が抜群で、街の歴史を見てきた温かさが滲み出ていた。</li> </ul> <p>RITA 雲南吉田朝食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前夜の夕食同様、季節感、味、色彩、バランス良い食事を感じる。</li> <li>●強いて言うと、欧米人には少し量が多い気がするので 1-2 品少なくとも良い。(特に魚など)</li> <li>●最近では食材を残す事に気を遣う方が多いので、充分あるのが良い訳でもない。</li> <li>●いずれにも共通するが、どここの畑、農家さんから仕入れたレベルの距離感で話ができるサイクリング中の楽しみになる可能性もあり良い。</li> </ul>

項目	評価
安全・安心面	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通量の多い道については走る曜日や時間を考慮。</li> <li>● 坂道、オフロードなどはよく把握してコース設定必要あり。</li> </ul>
商品化に向けた今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイクリングのコース選定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体感として、ゲストの体験価値を分解するとざっくり以下で捉えている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体験そのもの（身体・五感）…約 60～70%</li> <li>✓ 人との関係性（ガイド・地元との接触）…20～30%</li> <li>✓ ストーリー（背景・意味づけ）…10～20%</li> </ul> </li> <li>・ ストーリーは“増幅装置”であって、感動の主成分ではない。土台が弱いと物語が空回りする。よってしっかりとコース選定し、ゲストが何を見て何を体感する実地検証する必要ありと捉える。</li> <li>・ 今回のサイクリングで多くの時間を過ごす風景の田んぼ、里山が軸となり、それを支える暮らし、コミュニティ、集落、歴史、信仰、成り立ち、食、地域文化、祭りなどを深ぼることが重要。</li> <li>・ そうすると今描いている大きなテーマに沿ったピースが集まっていくのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 雨天時などのバックアップ体験複数選定</li> <li>✓ 宿泊候補先選び</li> <li>✓ サイクリングサポートカーオペレーション体制構築</li> <li>✓ 食事対応先(ヴィーガン、グルーテンフリー)ピックアップ</li> <li>✓ サイクリング時立ち寄り可能休憩所、トイレ選定</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

## 5-3. 販売促進に活用可能なテンプレート（タリフ）の作成

前ページまでの内容を踏まえ、モデルプランを3案作成し、タリフとして日本語版と英語版でとりまとめを行った。

### The Genesis of Japan and the Timeless Prayer for Peace ～日本のはじまりと、変わらぬ平和への想い～



**■ツアーに込めた思い(コンセプト)**

日本、世界でも独自の文化を築くこの国ですが、実はその多くの起源が、山陰地方であることはあまり知られていません。そして、平和という言葉。今は広島を中心とした言葉が語られていますが、実は古来から争いを避け、平和を築こうとする思いが日本人の根底にあり、それは、はるか昔、出雲の国で行われたとされる、国譲り神話でも語られています。また、自然を搾取するのではなく、自然と共に生態系と調和した暮らしが、ここにはありました。しかし、時は戦いの世へと移り、その果てに、広島には人類初となる原子爆弾が投下。悲惨という言葉では語りきれない状況があり、そして同時に、自然も破壊されました。そうした状況から、二度と人と人が殺し合う戦争を起こしてはならない、そして、自然と共に生きていこう、という強い意志が改めて生まれました。日本人が原点に戻った、ということかもしれません。今、争いが絶えない世の中において、日本における平和への想い、そして生態系と調和した暮らしを体感し、語り合うことは、これからの時代の平和を、共に作っていく礎になると考えています。サイクリングで巡りながら体感し、一緒にあなたにとっての平和を考えてみませんか？

**■ツアールート**



エリア: 鳥取・島根・広島

**■料金**

6泊7日 ¥500,000(8名参加)～¥900,000円(2名参加)

○含まれるもの  
宿泊料(食費込)・体験料・ガイド料・通訳ガイド料・レンタル自転車料・保険料

**■その他受け入れに関すること**

○実施時期  
春・秋を基本として、月に2回程度

○所要日数  
6泊7日  
※ショートコースの対応も検討できます。

○催行人数(最小・定員)  
最小催行人数:2人 最大催行人数:8名

○対象  
長距離サイクリングが可能な健康な方(1日50～80km程度の走行を想定)

○言語対応  
英語(英語スルーガイドが全行程帯同)

○持ち物・服装  
・サイクリングに適した動きやすい服装  
・レインウェア(上下)  
・運動靴  
・小型バック/バッグ  
・着替え、常備薬、日焼け止め 等

○雨天時  
事前打ち合わせにより、屋内プログラム(文化体験・地域プレイヤーとの対話・資料館見学等)へ変更する場合があります。安全を最優先に判断します。

○集合場所・集合時間  
JR米子駅 13:30

○アクセス方法  
▼広島駅・新大阪駅から  
山陽新幹線で岡山駅へ、特急やくもに乗り換えJR米子駅へ(約3時間半)

▼羽田空港から  
米子鬼太郎空港行き直行便利用後、空港連絡バスでJR米子駅へ(約1時間)

○注意事項  
交通事情、天候、参加者の体調等により行程を変更する場合があります。安全確保のため、ガイドの指示には必ず従っていただきます。  
海外旅行保険への加入を推奨します。

○販売窓口・お問い合わせ先  
Hiroshima Adventure Travel  
MAIL: aaaaaaaa  
TEL: 000-000-0000

○ツアーの予約について  
ツアー実施日の3か月前までに申込み 質の担保および宿泊施設・ガイド等の確保のため、早期予約制としています。

### The Genesis of Japan and the Timeless Prayer for Peace ～日本のはじまりと、変わらぬ平和への想い～

**■ツアー行程詳細**

山陰から山陽、せとうちへと至る中国地方縦断の旅である。山(大山・中国山地)・森(日本海・瀬戸内海)という多様な自然が近接し連続する日本列島の構造を、サイクリングを軸に身体で体感する。さらに、たたら製鉄や里山の営み、広島平和記念公園、厳島神社への訪問を通じ、自然と人間の関係を歴史・産業・信仰・平和の視点から立体的に捉え直す。自然との調和こそが持続可能性と未来の平和への鍵である——その問いを共有する旅である。

エリア: 鳥取・島根・広島

日	テーマ	アクティビティ・ストーリー
1日目	海と信仰の風景から始まる旅	大山ショートハイキングで島根半島を望み、山と海が近接する地形構造を体感。大山信仰の背景を学び、自然が精神文化へ昇華した土地であることを理解する。夜はウェルカムパーティーで「中国地方縦断」という旅の意義を共有する。
2日目	山が海を生んだ地形構造を体感する	大山中腹から弓ヶ浜を眺望し、火山活動と風化が砂鉄を生み、海岸地形を形成した壮大な時間軸を理解。また、火山地形やブナ林の生態系を学ぶ。その後ダウンヒルライド(サイクリング)で標高を一気に下げ、日本海沿岸(弓ヶ浜・皆生温泉)まで走行し、山から海への自然の連続性を身体で体感する。
3日目	自然の力が生んだ文化と神話	弓ヶ浜をサイクリングし、たたら製鉄の過程である鉄穴流しによって形成された地形のスケールを体感する。前日に大山から俯瞰した風景に実際に立つことで、自然と産業のつながりを立体的・断面的に理解する。さらに美保神社や日御碕灯台、出雲大社、稲佐の浜を訪れ、国譲りの文化、神話文化の関係を紐解き、日本人の平和感と自然観を体感する。
4日目	森と暮らしが共存する里山へ	出雲市内から棚田や森林が残る雲南市吉田までサイクリングし、自然資源と共に生きてきた山間集落の暮らしを体感する。吉田でたたら製鉄を支えた「田部家」周辺のまちなみ散策や古民家での宿泊・食事を通じ、たたらと森の関係性を知る。自然・産業・文化が重なり合う「生きた景観」を体感する。
5日目	森の循環と山越えの転換点	管谷たたら山内やたたら刀剣館を訪問し、森林を循環利用した、たたら製鉄のサステナブルな産業システムを学ぶ。砂鉄と木炭を用いた製鉄の歴史を知り、自然の再生力を前提とした経済活動が存在していたことを理解し、里山と産業が共存した持続可能なモデルを体感する。JR木次線・芸備線を活用しながら、サイクリングだけでは越えられない中国山地のスケールを、地域鉄道とともに乗り越え、旅の物語は山陰から山陽へと大きく転換する。
6日目	山を越え、穏やかな内海へ	中国山地を越えた先で再びサイクリングを行い、広島市の荒谷山から瀬戸内海の大島美を眺望する。日本海の荒々しさとは対照的な瀬戸内海の穏やかな景観と内海性気候が生み出す柔らかな光景を体感。広島市内では瀬戸内海の食文化に触れ、人と海が育んだ暮らしを知る。
7日目	再生の地で未来を考える	平和記念公園への訪問とピースサイクリングを通して被爆の歴史と復興の歩みを学ぶ。その後、世界遺産航路で宮島へ渡り、厳島神社を参拝。海と信仰が共存する景観に触れ、破壊と復興の歴史を自然との調和という視点から捉え直す。フェアウェルパーティーでは旅の学びを共有し、「自然との共生こそが未来の平和につながるのではないか」という問いを対話の中で深め、全行程を締めくくる。

### ■本ツアーで得られるもの

① 自然理解の深化	② 身体的達成感	③ 知的刺激と学び	④ 精神的内省	⑤ 地域との共創体験
地形・気候・生態系の違いを身体で体験することで、日本の自然環境への理解が立体的に深まる。	Sea-to-Seaをサイクリングを通じて縦断することで、移動そのものが達成体験となる。	たたら製鉄に代表される循環型産業や自然から生まれた文化的価値を通じ、自然と産業の共生モデルを学ぶ。	自然の圧倒的スケールと広島での平和学習を通じ、自身の価値観を見つめ直す機会を得る。	サイクリングや鉄道利用、地域事業者との直接的接点により、旅行そのものが地域の持続可能性に寄与する実感を得る。

## The Genesis of Japan and the Timeless Prayer for Peace

## Area: Tottori, Shimane, and Hiroshima Wide-Area Tour



### The Concept Behind the Tour

Japan. While this country has built a unique culture within the world, it is not widely known that many of its origins actually lie in the Sangin region. And the word "peace." While this phrase is now spoken primarily in Hiroshima, the desire to avoid conflict and build peace has been deeply rooted in the Japanese spirit since ancient times. This is also recounted in the Kuniyuzuri Myth, said to have taken place long ago in the land of Izumo. Also, here existed a way of life that lived in harmony with ecosystems alongside nature, rather than exploiting it. However, the times shifted to an age of war, culminating in the dropping of the world's first atomic bomb on Hiroshima. The situation defied description as mere tragedy, and at the same time, nature itself was destroyed. From that situation, a strong resolve not to wage war where people kill one another, and to live in harmony with nature, has been reborn. Perhaps it means that the Japanese have returned to their roots. In today's world, where conflict never ceases, we believe that experiencing and discussing Japan's aspirations for peace and a life in harmony with ecosystems will form the foundation for building peace together in the years ahead. Why not join us on a cycling tour to experience it and explore what peace means to you?

### Tour Route



### Fees

6 nights/7 days: ¥500,000 (8 participants) ~ ¥900,000 (2 participants)

#### Included in the price

Accommodation fee (including meals) · Experience fee · Guide fee · Interpreter guide fee · Bicycle rental fee · Insurance fee

#### Additional matters concerning acceptance

##### Date of implementation

Primarily in spring and fall, around twice a month.

##### Required Date

6 nights/7 days

※Short courses available.

##### Minimum and maximum participants

Minimum : 2 people Maximum : 8 people

##### Eligible participants

Healthy individuals capable of long-distance cycling (Around 50-80 km of riding per day)

##### Supported Languages

English

(English-speaking guide accompanies throughout the entire itinerary)

##### Items to Bring / Attire

- Comfortable clothing suitable for cycling
- Rainwear (top and bottom)
- Athletic shoes
- Small backpack
- Spare clothes, Over-the-counter medicine, Sunscreen, etc.

##### On rainy days

Based on prior consultation, the program may be changed to indoor activities (cultural experiences, dialogue with local stakeholders, museum visits, etc.). Safety will be the top priority in making this decision.

##### Meeting Place and Time

JR Yonago Station 1:30 PM

##### Access

▼From Hiroshima or Shin-Osaka Station  
Take the Sanyo Shinkansen to Okayama Station, then transfer to the Limited Express Yakumo bound for JR Yonago Station (approx. 3.5 hours). ▼From Haneda Airport  
Take a direct flight to Yonago Kitano Airport, then take the airport shuttle bus to JR Yonago Station (approx. 1 hour)

##### Notices

The itinerary may be changed due to traffic conditions, weather, or participants' physical condition. For safety reasons, you must follow the guide's instructions at all times. Overseas travel insurance is recommended.

##### Sales Contact / Inquiries

Hiroshima Adventure Travel

MAIL : aaaaaaaa

TEL : 000-000-0000

##### About Tour Reservations

Applications must be submitted at least three months prior to the tour date. To ensure quality and secure accommodations, guides, and other arrangements, we operate on an early booking system.

## The Genesis of Japan and the Timeless Prayer for Peace

## Area: Tottori, Shimane, and Hiroshima Wide-Area Tour

### Tour Itinerary Details

This journey traverses the Chugoku region from Sangin to Sanyo and Setouchi. It offers a physical experience of the structure of the Japanese archipelago, where mountains (Daisen, Chugoku Mountains), forests, the Sea of Japan, and the Seto Inland Sea converge in diverse natural landscapes through cycling. Furthermore, through visits to traditional Tataro ironworks, "satoyama" landscapes, Hiroshima Peace Memorial Park, and Itsukushima Shrine, we will reexamine the relationship between nature and humanity from multidimensional perspectives encompassing history, industry, faith, and peace. Harmony with nature is the key to sustainability and future peace—This is the journey that shares the question.

Theme	Activity and Story
Day 1 A journey beginning with landscapes of sea and faith	Short hike up Mt. Daisen to view the Shimane Peninsula and experience the terrain where mountains and sea meet. Learn about the background of Mt. Daisen worship and understand how nature has been elevated into spiritual culture in this land. In the evening, share the significance of the "Chugoku Region Traverse" journey at a welcome party.
Day 2 Experience the geological structure for mountains nurturing the sea	From the mid-slopes of Mount Daisen, gaze out over Yumigahama Beach and grasp the grand timeline where volcanic activity and weathering produced iron sand and shaped the coastal landscape. Learn about volcanic terrain and the ecosystem of beech forests. Then, descend rapidly via downhill cycling to the Sea of Japan coastline (Yumigahama Beach and Kaike Onsen), physically experiencing the continuity of nature from mountain to sea.
Day 3 Culture and Mythology Born of Nature's Power	Cycling along Yumigahama Beach, experience the scale of the terrain formed by iron-hale drainage, a process of tataro ironmaking. Standing within the landscape viewed from Mount Daisen the previous day allows a three-dimensional, cross-sectional understanding of the connection between nature and industry. Furthermore, visits to Miho Shrine, Hinomisaki Lighthouse, Izumo Grand Shrine, and Inasa Beach unravel the relationship between the story of Transfer the Country and mythological culture, allowing you to experience the Japanese sense of peace and view of nature.
Day 4 To the satoyama Where Forest and Lives Coexist	Cycle from Izumo City to Yoshida in Unnan City, where terraced rice fields and forests remain, and experience the lifestyle of a mountain village that has lived alongside its natural resources. Explore the townscape around the Tabe family, who supported Tataro iron smelting in Yoshida, and learn about the relationship between Tataro and the forest through lodging and meals in an old folk house. Experience the "living landscape" where nature, livelihoods, and culture overlap.
Day 5 The Forest Cycle and the Turning Point Over the Mountains	Visit the Sugaya Tataro Mountain and the Tataro Sword Museum to learn about the sustainable industrial system of Tataro ironmaking, which utilized forests in a cyclical manner. Discover the history of ironmaking using iron sand and charcoal, understand that economic activity existed based on nature's regenerative power, and experience firsthand a sustainable model where satoyama landscapes and industry coexisted. Utilizing the JR Kisuki Line and Gebi Line, we traverse the scale of the Chugoku Mountains—too vast to cover by cycling alone—with the help of local railways. The journey's narrative shifts dramatically, moving from the Sangin region to the Sanyo region.
Day 6 Over the mountains, into the calm inland sea	After crossing the Chugoku Mountains, we cycled once more, ascending Mount Aratani in Hiroshima City to gaze upon the archipelago beauty of the Seto Inland Sea. We experienced the gentle scenery of the Seto Inland Sea—a serene landscape and mild inland sea climate contrasting sharply with the wildness of the Sea of Japan. In Hiroshima City, we encountered the culinary culture of the Seto Inland Sea, learning about the way of life nurtured by the people and the sea.
Day 7 Thinking about the future in the land of reborn	Through visiting Peace Memorial Park and participating in Peace Cycling, learn about the history of the atomic bombing and the path to recovery. Then, cross to Miyajima via the World Heritage Route and visit Itsukushima Shrine. Experience the landscape where sea and faith coexist, re-examining the history of destruction and recovery from the perspective of harmony with nature. At the farewell party, participant's shared insights gained during the journey and deepened the question, "Could coexistence with nature be the path to future peace?" through dialogue, concluding the entire itinerary.

### What you'll gain from this tour

① Deepening Our Understanding of Nature	② Physical accomplishment	③ Intellectual Stimulation and Learning	④ Spiritual introspection	⑤ Co-creation Experiences with the Community
By physically experiencing the differences in terrain, climate, and ecosystems, one gains a multidimensional understanding of Japan's natural environment.	By traversing Sea-to-Sea through cycling, the journey itself becomes an achievement.	Through circular industries like tataro ironmaking and cultural values born from nature, we learn a model for the coexistence of nature and industry.	Through the overwhelming scale of nature and peace education in Hiroshima, I gained an opportunity to reexamine my own values.	Through cycling, rail travel, and direct engagement with local businesses, travelers gain a tangible sense that their journey itself contributes to the region's sustainability.

瀬戸内海から日本海へ、自然と生きる日本人の暮らしと  
祈りを身体を通して知る旅

エリア：岡山・鳥取の広域ツアー



■ツアーに込めた思い(コンセプト)

瀬戸内海から中国山地を越え、山陰海岸へ、穏やかな内海から中山間地、そして荒々しい日本海へと移ろう風景の“グラデーション”を辿りながら、人々が自然とどのように向き合い、共生してきたのかを身体で体感する旅である。旅の始まりは、吉備津神社の鳴釜神事。音に耳を澄まし、五感を研ぎ澄ませることで、この旅を“観光”ではなく“感受”へと切り替える。鉄づくりがもたらした瀬戸内の産業景観、杉とともに生きる智頭の森の暮らし、地殻変動が生んだ洞窟や浦富海岸の断崖、そして日本最大級の砂丘を擁する鳥取砂丘。やがて旅は、修験の道へ。三徳山三佛寺と大山という二つの霊山を辿り、人間が自然の一部であるという根源的な感覚へと回帰する。大山山頂から弓ヶ浜半島を望むとき、旅の初日に知った鉄づくりのスケールが、壮大な地形として立ち現れる。自然に生かされているという実感とともに、感謝の念を抱きながら旅を締めくくる。

■料金

5泊6日 ¥450,000(8名参加)~¥820,000円(2名参加)

○含まれるもの

宿泊料(食費込)・体験料・ガイド料・通訳ガイド料・レンタル自転車料・保険料

■その他受け入れに関すること

○実施時期

春・秋を基本として、月に2回程度

○所要日数

6泊7日

※ショートコースの対応も検討できます。

○催行人数(最小・定員)

最小催行人数：2人 最大催行人数：8名

○対象

長距離サイクリングが可能な健康な方(1日50~80km程度の走行を想定)

○言語対応

英語(英語スルーガイドが全行程帯同)

○持ち物・服装

- ・サイクリングに適した動きやすい服装
- ・レインウェア(上下)
- ・運動靴
- ・小型バックパック
- ・着替え、常備薬、日焼け止め 等

○雨天時

事前打ち合わせにより、屋内プログラム(文化体験・地域プレイヤーとの対話・資料館見学等)へ変更する場合があります。安全を最優先に判断します。

○集合場所・集合時間

JR岡山駅 12:00

○アクセス方法

▼東京・新大阪・福岡駅から山陽新幹線等にて岡山駅へ

○注意事項

交通事情、天候、参加者の体調等により行程を変更する場合があります。安全確保のため、ガイドの指示には必ず従っていただきます。海外旅行保険への加入を推奨します。

○販売窓口・お問い合わせ先

Hiroshima Adventure Travel  
MAIL: aaaaaaaa  
TEL: 000-000-0000

○ツアーの予約について

ツアー実施日の3か月前までに申込み 質の担保および宿泊施設・ガイド等の確保のため、早期予約制としています。

■ツアールート



瀬戸内海から日本海へ、自然と生きる日本人の暮らしと  
祈りを身体を通して知る旅

エリア：岡山・鳥取の広域ツアー

■ツアー行程詳細

中国山地の霊峰・大山を起点に、森と里山、日本海、そして瀬戸内海へと連なる大地を縦断する旅である。山・地下・森林・外海・内海という多層的な自然環境が凝縮された日本列島の縮図を、登山やケイビング、SUP、修験体験を通して身体で体感する。さらに、森を循環させる智頭の林業、祈りの場である吉備津神社や三徳山三佛寺への訪問を通じて、日本人が自然とどのように向き合い、共に生きてきたのかを探る。自然を征服する対象ではなく、畏れと感謝をもって受け入れる存在として捉える思想。その積み重ねが、持続可能な社会の礎となってきた。山から海へ、そして祈りへ。日本列島の構造を身体で理解し、自然との関係性を未来へどう継承するか——その問いを共有する旅である。

	テーマ	アクティビティ・ストーリー
1日目	祈りと産業景観から始まる旅	岡山駅集合後、昼食を囲みながら本ツアーの目的を共有する。最初に訪れるのは吉備津神社。鳴釜神事で旅の安全を祈願し、「音」によって神意を聴くという日本古来の感性に触れる。目に見えないものを感じ取る姿勢が、この旅の出発点となる。夕刻は鷺羽山へ。瀬戸内海の穏やかな多島美と、水島コンビナートの工業地帯が織りなす風景を一望する。自然と産業は対立するものではなく、共存の歴史を刻んできた存在であることを知る一日。
2日目	大地の内部に触れる	舞台は新見市の満奇洞。ケイビング体験を通じて、石灰岩が長い年月をかけて形成した地下空間に身を置く。鍾乳石の静寂と湿度、暗闇。そこには人間の尺度を超えた時間が流れている。瀬戸内海の穏やかな海面から一転、地球の内部へ。自然を“利用する対象”ではなく、“成り立ちを理解すべき存在”として体感する日となる。
3日目	森とともに生きる知恵	午前は奈義町現代美術館を訪問。土地の地形や光と呼応する建築空間から、「自然と対話するデザイン」を学ぶ。昼は山里のみたき園で山菜料理を味わい、午後は智頭町へ。杉の伐採見学や製材所の訪問、升づくり体験を通じて、森を循環させながら暮らす知恵に触れる。木は単なる資源ではなく、世代を超えて受け継がれる命の循環であることを知る。
4日目	日本海のダイナミズム	日本海側へ移動し、浦富海岸でSUP体験。透明度の高い海と断崖絶壁が織りなす景観の中で、波の力と向き合う。午後は鳥取砂丘へ。風によって刻々と姿を変える砂丘は、自然が常に動き続けていることを示している。瀬戸内海の静と、日本海の動。その対比を身体で感じる一日。
5日目	二つの霊山へ — 修験の道	三徳山三佛寺で修験体験。険しい山道を登り、断崖に建つ投入堂を拝む。自然に挑むのではなく、自然の中に身を置くという思想を体感する。午後は淀江の湧水地を訪れたのち、大山寺で加持祈祷を受ける。祈りは恐れからではなく、感謝から生まれるものだ気づく。
6日目	神の山の頂から俯瞰する	最終日は大山登山。山頂から弓ヶ浜半島を望み、山・海・砂丘・森が一つの地形として連なっていることを俯瞰する。旅の始まりに見た産業の風景、地下の地層、森の循環、外海の荒波、修験の山、それらはすべて一つの大地の物語であったことを理解する。自然を征服するのではなく、理解し、敬い、共に生きる。その視点を持ち帰ることで、この旅は終わる。

■本ツアーで得られるもの

①地形理解の深化	②五感の覚醒	③循環型社会の学び	④精神的変容	⑤スケールの統合体験
内海・中山間地・日本海という地理的グラデーションを身体で理解する	鳴釜神事・修験体験を通じ、感覚が研ぎ澄まされる	林業・鉄づくり・伏流水の恵みから持続可能な暮らしを学ぶ	修験体験と登山を通じ、自身を自然の一部として捉え直す	地形・産業・信仰を俯瞰で結びつける知的達成感

From the Seto Inland Sea to the Sea of Japan, a journey to experience the lives and prayers of Japanese people living with nature through the body

Area: Okayama and Tottori Wide-Area Tour



■ The Concept Behind the Tour

From the Seto Inland Sea, crossing the Chugoku Mountains to the Sangin Coast. This journey traces the "gradation" of shifting landscapes—from tranquil inland seas to mountainous regions, then to the rugged Japan Sea—allowing you to physically experience how people have engaged with and coexisted with nature. The journey begins with the Narukama ritual at Kibitsu Shrine. By listening intently to the sounds and sharpening all five senses, the trip shifts from mere sightseeing to profound perception. It explores the industrial landscapes of the Seto Inland Sea shaped by iron production, the life intertwined with cedar in Chizu Forest, caves and the Uradome Coast cliffs born from tectonic shifts, and the Tottori Sand Dunes, home to one of Japan's largest sand dunes. The journey eventually leads to the path of Shugendō. Tracing the two sacred mountains, Mt. Mitoku's Sanbutsu-ji Temple and Mt. Daisen, we return to the fundamental sense that humans are part of nature. When gazing out over the Yumigahama Peninsula from the summit of Mt. Daisen, the scale of iron production learned on the first day of the journey manifests as a grand topography. We conclude the journey with a profound sense of being sustained by nature and a heartfelt gratitude.

■ Tour Route



■ Fees

5 nights/6 days: ¥450,000 (8 participants) ~ ¥820,000 (2 participants)

○Included in the price  
Accommodation fee (including meals)·Experience fee·Guide fee·Interpreter guide fee·Bicycle rental fee·Insurance fee

■ Additional matters concerning acceptance

○Date of implementation  
Primarily in spring and fall, around twice a month.

○Required Date  
5 nights/6 days

※Short courses available.

○Minimum and maximum participants  
Minimum : 2 people Maximum : 8 people

○Eligible participants  
Healthy individuals capable of long-distance cycling(Around 50-80 km of riding per day)

○Supported Languages  
English

(English-speaking guide accompanies throughout the entire itinerary)

○Items to Bring / Attire

- Comfortable clothing suitable for cycling
- Rainwear (top and bottom)
- Athletic shoes
- Small backpack
- Spare clothes, Over-the-counter medicine, Sunscreen, etc.

○On rainy days

Based on prior consultation, the program may be changed to indoor activities (cultural experiences, dialogue with local stakeholders, museum visits, etc.). Safety will be the top priority in making this decision.

○Meeting Place and Time  
JR Okayama Station 12:00 PM

○Access

▼From Tokyo, Shin-Osaka, or Fukuoka Station  
Take the Sanyo Shinkansen or other trains to Okayama Station

○Notices

The itinerary may be changed due to traffic conditions, weather, or participants' physical condition. For safety reasons, you must follow the guide's instructions at all times.

Overseas travel insurance is recommended.

○Sales Contact / Inquiries

Hiroshima Adventure Travel

MAIL : aaaaaaaa

TEL : 000-000-0000

○About Tour Reservations

Applications must be submitted at least three months prior to the tour date. To ensure quality and secure accommodations, guides, and other arrangements, we operate on an early booking system.

From the Seto Inland Sea to the Sea of Japan, a journey to experience the lives and prayers of Japanese people living with nature through the body

Area: Okayama and Tottori Wide-Area Tour

■Tour Itinerary Details

This journey traverses the land stretching from the sacred peak of Mount Daisen in the Chugoku Mountains, through forests and satoyama landscapes, to the Sea of Japan and the Seto Inland Sea. It offers a physical experience of the Japanese archipelago's condensed microcosm—a multilayered natural environment of mountains, underground, forests, open seas, and inland seas—through mountain climbing, caving, SUP, and Shugendō experiences. Furthermore, by visiting Chizu's forestry that sustains the forest cycle and places of prayer like Kibitsu Shrine and Mitokusan Sanbutsu-ji Temple, it explores how the Japanese have faced nature and lived alongside it. The philosophy of viewing nature not as something to conquer, but as an entity to accept with reverence and gratitude. This accumulated mindset has formed the foundation for a sustainable society. From mountains to sea, and then to prayer. This journey shares the question: How can we physically understand the structure of the Japanese archipelago and pass on our relationship with nature to the future?.

Theme	Activity and Story
Day 1 A Journey Beginning with Prayer and Industrial Landscapes	After gathering at Okayama Station, we share the purpose of this tour over lunch. Our first stop is Kibitsu Shrine. We pray for safe travels at the Narukama ritual, experiencing Japan's ancient sensibility of listening to divine will through "sound." This attitude of sensing the unseen becomes the starting point of our journey. In the evening, we ascend Mount Washū. Here, we take in the panoramic view where the serene beauty of the Seto Inland Sea's archipelago intertwines with the industrial landscape of the Mizushima Industrial Complex. This day reveals that nature and industry are not adversaries, but entities that have carved a history of coexistence.
Day 2 Touching the Earth's Interior	The stage is Manki Cave in Niimi City. Through caving, you immerse yourself in an underground space formed by limestone over countless years. The silence, humidity, and darkness of stalactites. Time flows there beyond human scale. A sudden shift from the calm surface of the Seto Inland Sea to the Earth's interior. It becomes a day to experience nature not as something to be "utilized," but as something whose origins we should understand.
Day 3 Wisdom for Living with the Forest	Morning visit to the Nagi Museum of Contemporary Art. Learn about "design that dialogues with nature" through architectural spaces that resonate with the land's topography and light. Lunch features wild mountain vegetable cuisine at Mitaki-en in the mountain village. Afternoon travels to Chizu Town. Through observing cedar logging, visiting a sawmill, and experiencing masu box making, encounter wisdom for living in harmony with the forest's cycles. Understand that wood is not merely a resource, but a cycle of life passed down across generations.
Day 4 The Dynamism of the Sea of Japan	Traveling to the Sea of Japan coast, experience stand-up paddleboarding at Uradome Coast. Confront the power of the waves amidst the landscape woven by crystal-clear waters and sheer cliffs. In the afternoon, head to Tottori Sand Dunes. The dunes, constantly reshaped by the wind, demonstrate nature's perpetual motion. The stillness of the Seto Inland Sea and the dynamism of the Sea of Japan. A day spent feeling this contrast with your body.
Day 5 To Two Sacred Mountains — The Path of Shugendō	At Mitokudō Temple on Mt. Mitoku, I experienced Shugendō ascetic practices. Climbing steep mountain paths, I paid respects at the Tōtō-dō Hall perched on a cliff. I came to understand the philosophy not of challenging nature, but of placing oneself within it. In the afternoon, after visiting the Yodo Spring water source, I received a prayer blessing at Daisenji Temple. I realized that prayer arises not from fear, but from gratitude.
Day 6 Looking down from the summit of the sacred mountain	The final day was climbing Mount Daisen. From the summit, we looked out over the Yumigahama Peninsula, surveying how mountains, sea, sand dunes, and forests flow together as one landscape. We understood that all we had seen at the journey's start—the industrial scenery, the underground strata, the forest's cycle, the rough waves of the open sea, the mountain of ascetic training—were all part of a single story of the earth. Not to conquer nature, but to understand it, respect it, and live alongside it. Carrying this perspective home marks the end of this journey.

■What you'll gain from this tour

①Enhanced understanding of topography	②Awakening of the Senses	③Learning for a Circular Economy	④Spiritual transformation	⑤Integrated Experience of Scale
Understanding the geographical gradation of the inland sea, mountainous regions, and the Sea of Japan through physical experience	Through the Narukama Ritual and Shugendō experience, your senses become sharpened.	Learning Sustainable Living from the Blessings of Forestry, Ironmaking, and Underground Water	Through Shugendō experiences and mountain climbing, rediscover yourself as part of nature.	The intellectual satisfaction of connecting geography, industry, and faith through a bird's-eye view

神への祈りと暮らしを辿る旅

エリア：山口・島根・鳥取の広域ツアー



■ツアーに込めた思い(コンセプト)

カルストの大地に湧く清冽な水から、日本海へと流れ出る川、そして八百万の神々が集う地・出雲へ。山口から石見、出雲へと続くこの旅は、水の流れを軸に、日本人が神と自然に向き合いながら築いてきた暮らしの美学を辿る道程である。旅は、コバルトブルーに輝く別府弁天池から始まる。数億年の時をかけて形成された秋芳洞、カルスト台地を潤す水の循環。その水はやがて錦川や高津川となり、豊穡をもたらすと同時に、ときに人々を試してきた。人は水を制しようと橋を架け、酒を醸し、瓦を焼き、和紙を漉き、神楽を舞ってきた。錦帯橋に見る祈りと技の結晶、旭酒造が醸す彌祭に込められた挑戦の精神、石州瓦が美しく外壁を覆う島根県芸術文化センター グラントワの存在感。それらはすべて、自然への畏怖が形となったものにほかならない。石見の地では、神へ捧げる舞である石見神楽が、銀山で働く人々の魂を支えた。世界遺産石見銀山の坑道に残るノミの跡は、過酷な労働の記憶とともに、人が祈りに救いを求めた歴史を今に伝える。そして最終日、出雲大社へ。神々と共に生きる思想が今も息づくこの地で、旅の出会いと学びに感謝を捧げる。

■ツアールート



■料金

5泊6日 ¥450,000(8名参加)~¥820,000円(2名参加)

○含まれるもの

宿泊料(食費込)・体験料・ガイド料・通訳ガイド料・レンタル自転車料・保険料

■その他受け入れに関すること

○実施時期

春・秋を基本として、月に2回程度

○所要日数

5泊6日

※ショートコースの対応も検討できます。

○催行人数(最小・定員)

最小催行人数：2人 最大催行人数：8名

○対象

長距離サイクリングが可能な健康な方(1日50~80km程度の走行を想定)

○言語対応

英語(英語スルーガイドが全行程帯同)

○持ち物・服装

- ・サイクリングに適した動きやすい服装
- ・レインウェア(上下)
- ・運動靴
- ・小型バックパック
- ・着替え、常備薬、日焼け止め 等

○雨天時

事前打ち合わせにより、屋内プログラム(文化体験・地域プレイヤーとの対話・資料館見学等)へ変更する場合があります。安全を最優先に判断します。

○集合場所・集合時間

JR新山口駅 13:30

○アクセス方法

▼東京・新大阪・福岡駅から山陽新幹線等にて新山口駅へ

▼羽田空港から

宇部空港行き直行便利用後、路線バスにてJR新山口駅へ(約45分)

○注意事項

交通事情、天候、参加者の体調等により行程を変更する場合があります。安全確保のため、ガイドの指示には必ず従っていただきます。海外旅行保険への加入を推奨します。

○販売窓口・お問い合わせ先

Hiroshima Adventure Travel  
MAIL: aaaaaaaa  
TEL: 000-000-0000

○ツアーの予約について

ツアー実施日の3か月前までに申込み 質の担保および宿泊施設・ガイド等の確保のため、早期予約制としています。

神への祈りと暮らしを辿る旅

エリア：山口・島根の広域ツアー

■ツアー行程詳細

カルストの大地から日本海へ、そして神々の国・出雲へと至る、水の流れを辿る旅である。別府弁天池や秋芳洞に見る数億年の地質の時間、錦川や高津川が形づくる流域の風景を通じ、日本列島に息づく水の循環構造を身体で体感する。さらに、旭酒造の酒造り、錦帯橋の構造美、石見銀山と石見神楽に象徴される労働と祈りの歴史、そして出雲大社への参拝を通じ、自然と人間の関係を地質・産業・芸術・信仰の視点から立体的に捉え直す。神々への畏怖が暮らしの美学へと昇華してきた日本の精神文化——自然と共に生きるとは何か、その問いを共有する旅である。

	テーマ	アクティビティ・ストーリー
1日目	水の誕生と信仰から始まる旅	別府弁天池で湧水に触れ、水への感謝と信仰の背景を知る。続いて秋芳洞と秋吉台カルスト台地を訪れ、数億年の時間が生んだ地形と地下水の循環を体感する。水が大地を形づくり、やがて人の暮らしを支える源となることを理解する。夜はウェルカムパーティーで、「水の流れを辿る」という旅の思想を共有する。
2日目	水と技 — 共生の構造美	構造美山間に佇む旭酒造で酒造りを見学し、水を磨き、文化へ昇華させる日本の精神に触れる。その後、錦川に架かる錦帯橋を訪問。氾濫を繰り返す川と向き合いながら生まれた木造アーチの構造美を通して、水を制するのではなく理解し共に生きる思想を学ぶ。自然と人の技が交差する一日。
3日目	流域の暮らしと山里の文化	錦川清流線が川の上流へ向かい、流域の変化を体感。津和野では茶畑を望むテラスで煎茶体験を行い、生産者の言葉から土地に根ざした農の哲学を学ぶ。水が山から里へと流れ、人の暮らしと文化圏を形成してきたことを理解する。流域とは単なる地理ではなく、自然と人が編み上げた生活の舞台であることを実感する。
4日目	祈りが形になる — 芸術と神楽	石州瓦が外壁を覆う島根県芸術文化センター グラントワを訪れ、地域素材が建築美へ昇華した姿を体感。石州和紙の手漉きや神楽面工房での体験を通して、祈りが工芸へと結実する過程を知る。夜は神社で石見神楽を鑑賞。神話が舞台芸術となり、神と人が交わる瞬間に立ち会う。
5日目	労働と信仰 — 銀山が支えた精神文化	世界遺産石見銀山を訪れ、龍源寺間歩の坑道跡を歩く。過酷な銀の採掘現場と町並みを通じ、経済活動の背後にあった祈りと共同体の力を学ぶ。石見神楽が労働者の魂を支えた歴史を知り、産業と精神文化が分かちがたく結びついてきたことを理解する。
6日目	神々のもとへ — 出雲という帰着点	出雲大社を参拝。八百万の神々が集うとされる地で、自然と共に生きる思想の集約を感じる。生産者を訪ねるFarm to Table体験では、斐伊川の水と土地の恵みを「食」として身体に取り込む。フェアウェルパーティーでは、旅で出会った水・技・祈り・暮らしを振り返り、「神と共に生きるとは何か」という問いを共有し、全行程を締めくくる。

■本ツアーで得られるもの

①自然循環の理解	②五感での体感	③文化的洞察	④精神的内省	⑤地域との接続
カルスト台地や秋芳洞、流域を辿る行程を通して、水が大地を形づくり、暮らしを育む循環構造を立体的に理解する。	湧水を味わい、洞窟を歩き、川沿いを移動し、神楽を間近で鑑賞することで、自然と信仰を身体感覚で体感する。	錦帯橋、グラントワ、石見銀山に象徴される建築・産業・芸能を通じ、祈りが文化へ昇華する日本独自の思想を学ぶ。	労働と信仰が結びついてきた歴史、そして出雲大社参拝を通じ、自らと自然・社会との関係性を静かに見つめ直す時間を得る。	酒蔵や茶農家、和紙工房など地域の担い手との直接対話を通じ、旅が単なる消費ではなく、土地の循環と誇りに触れる共創体験となる。

## A Journey Tracing Prayers to the Divine and Daily Lives

Area: Yamaguchi, Shimane, and Tottori Wide-Area Tour



### The Concept Behind the Tour

From the pristine waters welling up in the karst landscape, rivers flow toward the Sea of Japan, then onward to Izumo—the land where millions of deities gather. This journey from Yamaguchi through Iwami to Izumo follows the flow of water, tracing the aesthetic of life built by the Japanese people as they engaged with gods and nature. The journey begins at the cobalt-blue Beppu Benten Pond. It follows the water cycle nourishing the karst plateau, including the Akiyoshi Cave formed over hundreds of millions of years. This water eventually becomes the Nishiki and Takatsu Rivers, bringing fertility while also testing humanity at times. People have built bridges to control the water, brewed sake, fired roof tiles, made Japanese paper, and performed Kagura dances. The Kintaikyo Bridge is a crystallization of prayer and skill, the Dassai sake brewed by Asahi Shuzo embodies a spirit of challenge, and the presence of the Grantowa Shimane Arts and Culture Center, beautifully covered with Sekishu roof tiles, is undeniable. All of these are nothing less than the embodiment of reverence for nature. In the land of Iwami, the sacred dance Iwami Kagura, offered to the gods, sustained the spirits of those working in the silver mines. The chisel marks remaining in the tunnels of the World Heritage Iwami Ginzan Silver Mine convey not only memories of harsh labor but also the history of people seeking salvation through prayer. And on the final day, to Izumo Taisha. In this place where the philosophy of living alongside the gods still breathes, we offer gratitude for the encounters and lessons of our journey.

### Tour Route



### Fees

5 nights/6 days: ¥450,000 (8 participants) ~ ¥820,000 (2 participants)

#### Included in the price

Accommodation fee (including meals) · Experience fee · Guide fee · Interpreter guide fee · Bicycle rental fee · Insurance fee

#### Additional matters concerning acceptance

##### Date of implementation

Primarily in spring and fall, around twice a month.

##### Required Date

5 nights/6 days

※ Short courses available.

##### Minimum and maximum participants

Minimum : 2 people Maximum : 8 people

##### Eligible participants

Healthy individuals capable of long-distance cycling (Around 50-80 km of riding per day)

##### Supported Languages

English

(English-speaking guide accompanies throughout the entire itinerary)

##### Items to Bring / Attire

- Comfortable clothing suitable for cycling
- Rainwear (top and bottom)
- Athletic shoes
- Small backpack
- Spare clothes, Over-the-counter medicine, Sunscreen, etc.

##### On rainy days

Based on prior consultation, the program may be changed to indoor activities (cultural experiences, dialogue with local stakeholders, museum visits, etc.). Safety will be the top priority in making this decision.

##### Meeting Place and Time

JR Shin-Yamaguchi Station 12:00 PM

##### Access

▼ From Tokyo, Shin-Osaka, or Fukuoka Station

Take the Sanyo Shinkansen or other trains to Shin-Yamaguchi Station

▼ From Haneda Airport After taking a direct flight to Ube Airport, take the local bus to JR Shin-Yamaguchi Station (approx. 45 minutes)

##### Notices

The itinerary may be changed due to traffic conditions, weather, or participants' physical condition. For safety reasons, you must follow the guide's instructions at all times. Overseas travel insurance is recommended.

##### Sales Contact / Inquiries

Hiroshima Adventure Travel

MAIL : aaaaaaaa

TEL : 000-000-0000

##### About Tour Reservations

Applications must be submitted at least three months prior to the tour date. To ensure quality and secure accommodations, guides, and other arrangements, we operate on an early booking system.

## A Journey Tracing Prayers to the Divine and Daily Lives

Area: Yamaguchi, Shimane, and Tottori Wide-Area Tour

### Tour Itinerary Details

This journey traces the flow of water from the karst landscape to the Sea of Japan, and onward to Izumo, the Land of the Gods. Through the geological time of hundreds of millions of years seen at Beppu Benten Pond and Akiyoshi Cave, and the landscapes shaped by the Kinugawa and Takatsu rivers, you physically experience the water cycle structure alive within the Japanese archipelago. Furthermore, through the sake brewing at Asahi Shuzo, the structural beauty of Kintaikyo Bridge, the history of labor and prayer symbolized by Iwami Ginzan and Iwami Kagura, and a visit to Izumo Taisha Shrine, we re-examine the relationship between nature and humanity from the perspectives of geology, industry, art, and faith. This journey shares the question: What does it mean to live with nature? It explores Japan's spiritual culture, where reverence for the gods has been sublimated into the aesthetics of daily life.

	Theme	Activity and Story
Day 1	A Journey Beginning with the Birth of Water and Faith	At Beppu Benten Pond, touch the spring water and learn about the background of gratitude and faith toward water. Next, visit Akiyoshi Cave and the Akiyoshi Plateau karst landscape to experience firsthand the terrain shaped by hundreds of millions of years and the cycle of groundwater. Understand how water shapes the earth and eventually becomes the source sustaining human life. In the evening, share the journey's theme of "following the flow of water" at the welcome party.
Day 2	Water and Technique — The Structural Beauty of Symbiosis	Structure and Beauty At Asahi Brewery nestled in the mountains, observe sake brewing, refine water, and encounter the Japanese spirit that elevates it into culture. Later, visit Kintaikyo Bridge spanning the Nishiki River. Through the structural beauty of its wooden arches—born from confronting a river prone to flooding—learn the philosophy of understanding water and coexisting with it, rather than conquering it. A day where nature and human craft intersect.
Day 3	Lives in the Watershed and Mountain Village Culture	Travel upstream along the Nishikigawa Clear streamline to experience the changing landscape of the watershed. In Tsuwano, enjoy a sencha tea ceremony on a terrace overlooking tea fields, learning the philosophy of agriculture rooted in the land through the words of the producers. Understand how water flowing from mountains to villages has shaped human life and cultural spheres. Realize that a watershed is not merely geography, but a stage for life woven together by nature and people.
Day 4	Prayer Takes Shape — Art and Kagura	Visit Grantowa, the Shimane Arts and Culture Center, where Sekishu tiles cover the exterior walls, and experience how local materials have been sublimated into architectural beauty. Learn about the process by which prayer is transformed into craft through experiences such as hand-made Sekishu washi paper and Kagura mask workshops. In the evening, watch Iwami Kagura at the shrine. Witness the moment when myth becomes performing art and Gods and humans interact.
Day 5	Labor and Faith — The Spiritual Culture Sustained by the Silver Mine	Visit the World Heritage Site of Iwami Ginzan Silver Mine and walk through the tunnels of Ryugenji Mine. Through the harsh silver mining sites and townscapes, learn about the prayers and communal strength that underpinned economic activity. Discover how Iwami Kagura supported the spirits of the laborers, understanding how industry and spiritual culture were inextricably intertwined.
Day 6	To the Gods — Izumo as the Final Destination	Visited Izumo Grand Shrine. At this place said to gather millions of deities, I felt the essence of a philosophy centered on living in harmony with nature. During the Farm to Table experience visiting producers, I absorbed the blessings of the Hii River's water and land into my body through food. At the farewell party, we reflected on the water, craftsmanship, prayers, and lifestyles encountered during the journey, shared the question "What does it mean to live with the gods?", and concluded the entire itinerary.

### What you'll gain from this tour

① Understanding Natural Cycles	② Experiencing with senses	③ Cultural Insights	④ Spiritual introspection	⑤ Connecting with the Community
Through exploring karst plateaus, Akiyoshi Cave, and following river basins, gain a three-dimensional understanding of how water shapes the land and sustains life through its cyclical structure.	Savor the spring water, walk through caves, travel along the river, and experience Kagura up close—gaining a physical understanding of nature and faith.	Learn about Japan's unique philosophy, where prayer is sublimated into culture through architecture, industry, and performing arts symbolized by Kintaikyo Bridge, Grant, and Iwami Ginzan	Through the history where labor and faith have been intertwined, and by visiting Izumo Grand Shrine, one gains time to quietly reflect on one's relationship with nature and society.	Through direct dialogue with local stakeholders—such as sake breweries, tea farmers, and washi paper workshops—travel becomes a co-creative experience that connects with the land's cycles and pride, rather than mere consumption.

## 6. 検討会の実施

### 6-1. 概要

中国地方の AT ビジョン等について、専門的な観点から意見をいただき、内容の精度を高めることを目的として、専門家を交えた検討会を3回実施した。

第1回	(主な議題) <ul style="list-style-type: none"><li>○ 中国地方の AT ビジョンの方向性について</li><li>○ モデルプランの方向性について</li><li>○ 中国地方の AT ビジョンの構成 (案) について</li></ul>
第2回	(主な議題) <ul style="list-style-type: none"><li>○ 中国地方の AT ビジョンについて</li><li>○ モデルプラン案について</li><li>○ モニターツアーの評価検証項目について</li></ul>
第3回	(主な議題) <ul style="list-style-type: none"><li>○ 中国地方の AT ビジョンについて</li><li>○ モデルプラン案について</li></ul>

## 6-2. 参加者

属性	氏名	所属	第1回	第2回	第3回
専 門 家	吉田 史子	Tricolage 株式会社	○ WEB	○ WEB	○ WEB
専 門 家	山下 真輝	一般社団法人日本アドベンチャーツーリズム協議会	○ WEB	×	○ WEB
専 門 家	マイク・ハリス	株式会社キャニオンズ	×	○	○
委 員	佐藤 亮太	一般社団法人 Hiroshima Adventure Travel	○ WEB	○	○ WEB
委 員	後藤 峻	一般社団法人 Hiroshima Adventure Travel	×	○	○ WEB
委 員	岡本 泰志	一般社団法人 Hiroshima Adventure Travel	○ WEB	○	×
委 員	川口 康太	一般社団法人 Hiroshima Adventure Travel	×	×	○
委 員	広瀬 徹	一般社団法人 Expe	○ WEB	○	○ WEB
委 員	藤岡 雄太	メディアスコープ株式会社	○ WEB	×	○ WEB
事 務 局	八木 周吾	ランドブレイン株式会社	○	○	○
事 務 局	三木 脩平	ランドブレイン株式会社	○	○	×
事 務 局	田添 雄大	ランドブレイン株式会社	×	○	○
事 務 局	柏木 実	中国運輸局 観光部 観光地域振興課	○	○	○
事 務 局	津森 篤	中国運輸局 観光部 観光地域振興課	○	○	○
事 務 局	池田 竜太郎	中国運輸局 観光部 観光地域振興課	○	○	○

## 6-3. 第1回検討会

### ○日時・場所

日時： 令和7年10月29日（水） 10：00～12：00

場所： 第3ウエノヤビル会議室（広島市中区鉄砲町1-20） オンライン併用

### ○次第

1. 開会
2. 昨年度事業の振り返りと今年度事業の概要
3. 議事
  - 中国地方のATビジョンの方向性について
  - モデルプランの方向性について
  - 中国地方のATビジョンの構成（案）について
4. その他
  - ・今後のスケジュール
5. 閉会

## ○記録

### 1. 開会

### 2. 昨年度事業に振り返りと今年度事業の概要

－ 事務局より説明（記録省略） －

### 3. 議事

－ 事務局より説明（記録省略） －

## ●全体に関する事項

事務局	中国地方のATビジョンについての行動ポリシーや構成等について、意見を頂きたい。
吉田	昨日、島根県の出雲大社に神道に係わることをテーマとして回って来た。また先月は、瀬戸内のイベントに参加して、山口、広島、愛媛の瀬戸内側を回った。中国地方という括りであるが、改めて場所によってまったく異なることを感じる体験であった。私は、広島出身で瀬戸内のカルチャーで育ったので、日本海側の壮大な自然や幻怪な海のイメージを肌で感じたことがなかった。改めて中国地方としてまとめるのが難しいことを自己体験として認識した。旅行会社の立場からすると、瀬戸内を一つにまとめることはできるが、中国地方を一つにまとめることには違和感がある。行政的には分けられていないが、名前としても陰と陽にわかれているように、二つの違いを打ち出した見せ方が分かりやすいと思う。両者をどのように具体的に繋げて打ち出していくかの実務的な検討を社内で話しているところだが、強弱をつけた方が分かりやすいのではないかと話している。どのように繋げるかは、ロジ的な面の他にストーリー的には、まったく別物としてではなく、何かのきっかけがどこかで繋がっているはずなので、中国地方という一つのエリアとして見せるのではなく、二つの異なるカルチャーや地形の違いを一度に回れる面白いエリアとして見せることが Interesting Tour なのではないかと考えている。
事務局	まさに、述べられた山陰・山陽の話は、後ほどのモデルプランでも出てくる話なので、後ほど触れて頂きたい。
山下	鳥取と島根のマスタープランは、高付加価値化のモデル地区とした14エリアのマスタープラン策定の一環である。その事業の大義は、インバウンド旅行者の6千万人の目標が、このまま行けば2030年に達成するが、航空の供給量も限界にきており、私の推定では5千数百万人ぐらいがキャパシティとみている。私は、6千万人を日本が受け入れることができるか疑問であり、社会問題が起きると思っている。オーバーツーリズムよりむしろ京都など極地に集中するオーバーコンセントレーションが問題である。地方を周遊させるため、14地区がマスタープランを作っており、山陰と瀬戸内それぞれがマスタープランを作っている。 このような状況の中で、何故中国地方が面としてプラットフォームを構築する必要があるのかを、大義名分を適切に言語化する必要がある。山陰、山陽にそれぞれにステークホルダーがいるので、それらの活動とどのようにかわるのか、整合を取らないと混乱する。私は意義があることとっており、陰と陽の両面の話があったように、中国地方を縦のラインでつなぐコンセプトを基にしたモデルコースに意味があると思っている。中国地方に様々な縦ラインを構築していくことが、商品の構成となるので、その意味で中国地方のプラットフォームは意義がある。今回の動

きは、6千万人時代に中国地方が、高付加価値観光者の受け皿を面で行うことが、地域のためにもなり、オーバーコンセントレーションを解決しビジネスチャンスにもなることを、前段で取り組み意義として明確に示した方が良い。その上で、それぞれのマスタープランの動きを明文化して、それらを中国エリアとして面的に繋げることが中国地方全体の発展となることを明文化すべきである。

コンセプトに関しては、以前のセミナーで話をしたように、私の父のふるさとが広島であることもあって、中国地方がどんなエリアなのかを考えた。中国とは日本のミドルイーストに位置する「なかつくに」をコンセプトとして提案した。これは京都からみて近江や遠江と同じ意図が言葉の由来である。中国地方は、京都から中間的な距離にあって、古くから人や船がいきかうクロスロードとして、多彩な文化が開いたと述べた。

コンセプトをしっかりと立て、日本の中でのポジショニングを明確にすることが大切である。アメリカに例えると州単位レベルの動きでありながら、広域連携 DMOがないので、皆さんが、コンセプトを立て、日本での立ち位置を示し、さらに陰と陽を縦ラインで結ぶユニークモデルコースを作る明確な戦略を示すと良い。

繰り返しになるが、皆さんの行動の意義、目指していることやどんな観光客を誘致し、どのように地域を発展させようとしているかを最初にしっかり述べ、日本における中国エリアの立ち位置やポジショニングを明確にすべきである。中国地方では、わかりづらいので、中国という言葉でよいのかを「なかつくに」が良いか悪いかは別にして、もう少しエリアブランディングの方向性を議論されると良い。

事務局 AT の意義や中国地方の強みを議論したことはあるが、何故それを面で捉える必要があるのかを深掘し、共通認識にするまでに至っていないので、提案の方向で議論を進めていきたい。

広瀬 様々なアドバイスに感謝申し上げます。我々も、14 のモデル地区として高付加価値インバウンド地域づくりに取り組んでいる。我々のマスタープランを捉え、AT、CAT の動きも考えることを意識したい。我々が行うことの意義に関しては、14 モデル事業でも意識している。例えば、鳥取・島根では、「日本の始まり」をテーマとして行っているが、もっと広がりがあるはずとコンテンツの醸成やストーリーを考える中で感じている。例えば刀や鬼などの信仰を考えると、鳥取・島根の枠のみならず中国エリア全体への広がりを持たせなければ、ストーリーやバックグラウンドを旅行者に感じてもらえないと感じている。さらに AT というカテゴリーで考えれば、陰と陽の縦の軸を考えなければならず、山陰、山陽の片方だけでは成立しないので広がりをもつことでこの国の様々な価値を表現できるのではないかと思う。さらに、中国地方に限ったことではなく、日本全体で考える必要があるとの意見もある。広がりをもって日本の価値を伝える起点として、CAT を考えている。

山下 改めて、以前に広島で行った講演の内容を説明する。私なりの捉え方であるが、日本の始まりを語れるのは、出雲大社がある島根しかない。そして、中国エリア全体に広げて価値を考えると、海と陸の交差点が多い点が特徴である。刀の備前長船が全国に広まったのは、その一つに陸路の流通が便利な点がある。海の航路も山陰や瀬戸内に広がっており、色々な文化が融合して化学変化を起こしていった。東北

の山岳信仰や出羽三山などの神秘的な世界観とは違い、また険しい山ではなく里山のイメージであり、そこには生業や人々の暮らしや人の往来があって、新しい文化が生まれた。その意味で、日本人が他国の文化を取り入れて自分のものとする姿勢の源であり、中国地方は日本の縮図であると言えるので、私は「日本のクロスロード」ではないかと講演した。観光はポジショニングが大事であり、いかにユニークなのが重要である。個別テーマを深掘りするだけでなく、日本の中でのポジショニングを俯瞰し、日本の歴史の中でどのような役割をはたしてきたのかという前提を明らかにする必要がある。日本の始まりである出雲大社から近代産業振興として自動車のマツダがあり、長きにわたって日本を形成して来た。まさに日本の原点なので「日本にくるなら中国地方にこないとわからない」と言い切っても良いかもしれない。俯瞰的な視点からコンセプトの議論をしてはどうか。

事務局 意見を聞き、ポジショニングが大事であり、中国地方をどのように捉えて自分達の価値をいかに伝えていくかがコンセプトであると理解した。中国地方のポジショニングの議論を深めて、共通認識を作ることを進めていきたい。

佐藤 先日来、相談会で話をする中でポジショニングが重要との話であった。広島単体としては、平和を伝えることができるが、中国地方全体や瀬戸内で考えると、何故このまちなのかを伝えられることが非常に大切であるとの話になった。そもそも、何故日本に来る必要があるのか、何故このエリアで過ごし、体験し、学ぶのかを一言で明確に示すことが重要であるとの数か月感じている。この一言で明確に示すことを、今後のキャラバンを含め進めていくことが大切である。

陰と陽の間の中国山地を捉えると、水の流れが両方に生まれるのだが、それをどのように表現するかが重要である。しかし、必ずしも中国地方の人は、東北人にあたる言葉がなく、そのような言葉が必要な必然性がなかったのだと思う。私は、広島出身ではないのでわからないのだが、山陽にはその意識がなく、山陰には少しあるように感じている。

藤岡 私は山口県周南市の出身で瀬戸内だが、山陽との意識はなく広島と福岡に挟まれた所との意識ぐらいである。今は、島根に住んでおり、こちらは山陰との言葉をよく聞き、その意識はあると思う。陰とついているので自虐的に山陰とつかうこともあり、山陰との意識は強い。

佐藤 そこに住んでいる人の意識の違いが何故なのかを明らかにするのか、それがなかったからこそ改めて観光として明確なコンセプトを作っていくのか、その点が整理できていない。陽はまとまっていなくて陰はまとまっている点にも面白さがあり、それらを生かしてコンセプトを固める上で、フックになるのではないかと考えている。

吉田 昨年、山下さんの講演を聞かせて頂いたが、その際に「なかつくに」という言葉は初めて知った。この言葉は、中国地方を表現する上で非常に良いコンセプトになると感じる。同時に、外国人観光客にどこまで、どのように伝えるかが要になると思う。日本を選んだ中で、中国地方に来てもらうためのポジショニングは、俯瞰して中国地方の位置づけをどれだけユニークに見せるのが大切である。我々が、わざわざアクセスが難しい山陰につれて行くストーリーを持っていないと、とても難

しい作業であると感じている。中国地方のアイデンティティを紡ぐためのストーリーが課題であると資料に示されていたが、佐藤さんが言われたように中国地方にアイデンティティがどこまであるのか、中国地方の人間としてあまり意識したことはないし、確かに山陽人としての意識はない。今後本件に関わる方も、中国地方のアイデンティティはどこに紐づいているのかと疑問に感じると思う。中国地方を一つの地域としてアンダーラインで繋げ、それをストーリーとして伝えたいが、ブランディングやPRなど実際に伝えたいことは、トリック的に分けてもよいのではないかと思う。5県のキャラバンツアーを行う中で、尖った部分を見せ、あえてまとまりのない地域だが、これだけ面白い文化がある地域でもあることを色々な色や尖がり示して、「なかつくに」が日本の縮図であることに繋げて行ってはどうか。実際に色々なことを体感、経験してもらうために、尖ったカラーを打ち出すのも、他の地域にはないし、各地域がブランディングとして神の場所や自然のエリアなどで打ち出しているの、あえて違う方法で行うのは中国地方だからこそできることであるし、面白いし、後で結果的に繋がるのはユニークではないかと思う。

山 下 東北地方では、夕日のきれいな日本海側の男鹿半島から朝日のきれいな太平洋側の岩手の浄土ヶ浜まで途中の田沢湖を經由した太陽の道のコンセプトを議論したが、相当な距離がある。日本は太平洋から日本海に抜けるには、どこも相当な距離があるが、瀬戸内海から日本海に抜けるのは比較的短くダイナミックに日本列島を感じることができて面白い。岡山から鳥取、広島から島根、山口は一県で、多島美や物流拠点、歴史のある瀬戸内海から中山間地を経て日本海側に至り、他のエリアよりダイナミックなルートが組める。また、中部エリアの昇龍道プロジェクトでも、このようなコンセプトがあったが、三重県から能登半島は流石に遠すぎて商品化は困難であった。東南アジアの方は1県程度だが、欧米人の方は、4県から5県を回るので、中国地方を縦に移動することで満足度が高くなるはずである。

事 務 局 吉田さんの意見にあった、それぞれの色を生かし、一つに色をきめないことが必要だと思う。それらをまとめて中国地方の特徴だと一つの言葉で言うのは難しいので、どのようにPRするのかを考える事が今後の課題である。

山下さんからあった縦の繋がりをどのように見せるかが、吉田さんからの尖ったものをストーリーとして見せていくかとの話かと思うので、ポジショニングやアイデンティティをどのように見せるかを検討ワーキング等で議論し、言語化まで固めていく必要がある。

時間の制約もあり、山下さんからモデルプランに関する話を頂いたので、モデルプランに関する意見があればお願いしたい。

山 下 本日は参加していないがマイク氏は、古道をかなり意識しているし、ウォークジャパンも物語性やストーリー性のある道を意識しており、ロングトレイル的なものでストーリー性があるルートを意識した方がよい。縦と横の紡ぎ方も色々ある。また、旅は楽しくないと意味がなく、スタディーツアーのような勉強の旅にならないように、旅の中でメリハリをつけなければならない。さらに、ハイライトが必要であり、それを軸にどのように紡いでいくかを考えることが必要である。

作り方のプロセスになるが、中国地方で日本を代表するようなアクティビティや

体験を選び、それをピン止めし、そこにどのようにアクセルするかを考えてはどうか。昨今ATは、ストーリーに拘りすぎてツアーとして面白くないものが出て来ているので、何をメインアクティビティとして中心にするかを考える必要がある。先日、大山から海まで行くダウンヒルに参加したが、大変面白かった。山の上から海まで下り、宿坊に泊まる体験は全国的に珍しくメインハイライトになり、それをどのように紡いでいくかが重要だ。地域資源に優劣をつけるのは失礼だが、メインハイライトをAクラスやBクラスに分離して、そのアクティビティだけでも価値があるAクラスのアクティビティをしっかりと抽出し、そこから作るという方法もあると思う。

事務局 今の点も、まさに必要だと思う。皆さんとの検討ワーキングでは、ストーリーに集中したところがあるので、どこを一番のピークにもってくるかを仕分けする必要があると認識した。

吉田 テーマとしては、ここに書いてあるものは、十分にテーマ性があるストーリーができると思った。山下さんの話にあったように、ストーリー性を重視して、結構まじめな内容なものが多いと感じていたところである。詳細な中身がわからないが、どんな人に会えるのかが気になる点である。ハイライトの議論に近いが、アウトドアでも文化でも、ガイディングをどなたがするのがポイントで、地域のこの人というのが絶対にある。それがフックとなってそのコンテンツやツアーを商品として売り出す場合に最終的に意識する点となる。アドベンチャーの体験は、食と人がコンテンツの要となるので、こういった方々が登場するのが気になった。後から、テーマが決まれば、それぞれ面白い方が登場してくるのだろうが、どのような人が登場してくるかが気になる点である。

## ●モデルプランについて

事務局 確かに、人という観点も絶対に必要である。今の意見の人を含めて、他に意見がないか。ワークで話したプランを三つ出しているが、もう少しこのようなことができるのではないかなど、意見があればお願いします。

藤岡 吉田さんが言われたように、来たら楽しいが来てもらうまでが難しいので、やはりメリハリをつけて、スペシャルコンテンツと後は追従するようなコンテンツに仕分けする必要性を感じる。地域の事業者や関係者が集まると、すべてを入れなければならない話になりがちだが、実際はゲストにヒアリングを行ってオーダーメイドの商品を提供することになるので、それらの地域のコンテンツやキーマンの情報を集約・整理し、引き出しとして持って、そこから一本軸のあるストーリーを持ったオーダーメイド商品を作るような流れで商品化できると良いと思って聞いた。

佐藤 実際に自分が旅人として旅行する場合や旅行会社のツアーを買う場合でも、いきなりストーリーから入っていかないかと思うし、世界のATもほぼほぼストーリーを重視していないのが現実である。ストーリーがあるのに越したことはなく、また得意な分野でもあるので作り続けていくが、一方で、一番の目玉は、例えばパタゴニアのように景色をみたいからそこに行く、というように体験を求めてそのエリア

に行くのではないか。一般向けへの表現はブランディングと紐づくと思うので、ブランディングとツアーの魅力をどのように作って行けるかが重要と思っている。今、三つモデルプランが出て来ているが、まだ自分としてしっかり来ていない点があり、詰めていきたい。また、中国地方として、瀬戸内海と日本海が近いとはいえ場所によっては遠いところもあるので、移動の楽しさをどのように作っていくかが重要だと考えている。核となるポイントがいくつかあるが、移動を含めてどこに楽しさを追求していくのかをもっと練らなければならないが、今回の事業の間に一つに絞ってモニターツアーをするとなるとあまり時間もなく、いまから急いで行わなければならないと思っている。

岡 本 私はツアー作りの経験が浅いので、この後の CAT の自走化に向けて話をしようと思っていたが、これまでの話を聞いて、様々な課題があることが分かった。

その中でも、モデルプランに関しては、地方としてのアイデンティティが感じられにくい中国地方において、一つのモデルプランができれば、アイデンティティが生まれ、象徴的に繋がりができるという意味で重要なのだと感じた。つまり、一つのモデルプランを作りそれを実施することで、中国地方としてもそのようなものが生み出せるのだと意識されるような、自分達のインナーコミュニケーションとしての重要性もあるのだと思った。是非、それを形にして推進できたらと改めて思っており、縦のラインや移動の面白さを作り上げ、認知された課題を潰していけば実現可能なので、残りの期間を頑張りたいし、期待もしたい。

## ●AT ビジョンの構成等

事務局 AT ビジョンの構成について意見を頂きたい。すでに内容的に構成に関する意見を頂いたと思うが、ビジョンに関して、事務局から構成案を五つほどまとめている。先ほどの意見では、中国地方としての枠をどのようなポジションとして捉えるか、その意義や定義が大切であるとの意見であった。構成の中で合意しておくべき点について意見を頂きたい。

山下 戦略ターゲットとともにペルソナ的なものが明確に記載されないのか。

事務局 今のところ、記載する話は出ていない。前段としての強み、ポリシーや行動指針までしか議論できていないので、伝えたいターゲットや、ストーリーを検討する段階で出て来るかもしれない。

山下 アプローチ方法は二つある。プロダクトアウト的に積み上げ、その結果として誰に提供するかが出てくることもあるが、一方で課題感を持って、誰を呼び込みたいから、何を提供するのかとのマーケットイン的なアプローチもある。取り留めのない話にならないように、議論をある程度絞るために、こんな人を呼び込むことが中国地方の発展に繋がるのだと、数を増やすマスツーリズムではなく、知的な面を追求するペルソナ的なものを設定すれば、議論が深くなるであろう。各エリアが作ったマスタープランには、金太郎飴的にモダンラグジャリー層と記述されているが、モダンラグジャリーや高付加価値旅行者は、旅行者の本質についていないと考えている。最近の社内フォーラムで、本質的探究者、Authentic Seekers という新しい

		概念を発表した。本質的に日本にきたい人達は、北米の五人に一人が自認し、最近増加している SBMR エコノミー（Spiritual But Not Religious）であろう。中国地方に関心を持つ人は、「こんな人だ」と仮説でもよいのでターゲットを設定し議論した方がよい。
事務局	山	ストーリーやモデルプランを考える上では、必要になると考えていたが、ビジョン全体としてもペルソナやターゲットを設定すべきなのか、詳しく説明頂きたい。
	下	少なくとも千客万来とはならないと思っている。皆様は、広く色々な方にきてもらいたいと思い、絞り込まない方が良いのではないかと考えていると思うし、また行政の総合政策では、ターゲットを絞っていないと思うが、国などの具体的属性を絞るのではなく、この様な事を求める人々として定義すべきである。観光は相手があることなので、絞らない観光戦略はないし、相手を想定しないビジョンは説得力にかける。
事務局	山	ターゲットとは、こういうことを求めている人々やある目的を達成しようとする人達であり、具体的な属性を超えたターゲット層と理解した。
	下	その通りである。欧米、シンガポールや香港などの国柄もあるが、本質的に AT を求める共通のメンタリティーがあるので、それを捉えることで、こういう人だと明確にする。例えば、東アジアの人は、風景が似たところがあるので、近代的な物や都市型の観光を求め、香港やシンガポールの人は、自国にはない雪景色に憧れて東北を訪れる。色々な事を考え合わせると、おのずとターゲット層が絞られるので、国を明確にしなくても中国地方に来る人を明確に定義できる。また、通過型ではなく滞在型の観光客を誘致するためには、ターゲットを示さないと各県が観光政策を考える場合に参考にしづらい面もある。
事務局	山	そうすると、どの様なお客様なのかが気になるが、その点も含めて意見があればお願いしたい。
	下	共有可能な講演資料など、参考資料を改めて提供する。おそらくこのような人達ではないかを示すことができると思う。
藤岡	山	情報を共有させて頂きたい。山陰のモデル観光地域として昨年作成したマスタープランでは、先ほどの SBNR や Art Lover や、Special Interest Luxury として 23% を狙って行くなどの議論をした。実際の作成の仕方は、プロダクトアウトのところはあるが、我々ができることを議論した上で、山陰はこのように育てていくことにした。
	下	地域のマスタープランの場合は、この手の議論をしっかり行うことが必要であり、参考にされると良い。
藤岡	山	山陰ではシックな色の表紙でガイドブックを作った、一方で瀬戸内は、反対に明るい色の表紙である。このようなことから、山陰と山陽の縦のグラデーションを示していくのは面白いのではないかと思う。
吉田	山	ビジョンの話に関して、ペルソナ、つまり相手方が誰かは、確かに必要である。次に、誰のためかと書いてある、この視点も重要な点である。このビジョンに従っ

て、地域住民が参加しながらプランを作り上げると思うが、彼ら彼女らがどのような中国地方を思い描いているのか是非見たいと思う。これらの取り組みを通じて、5年後、10年後にその地域がどのようになりたいかを強く明確に示すことができれば、ビジョンとして非常に良いものになると思う。ビジョンなので長く書く必要はないが、例えば海外では、観光客自身が自然の担い手になるとの明確なビジョンに基づいた様々なプランを立てている例があるように、観光客側がどう行動したいのか、どう行動してほしいかを、観光客と実施側両者の二つの視点がそろったビジョンになると良いのではないか。

山

下

構成要素に関してビジョンをまとめるのであれば、なぜ今中国地方でアドベンチャーツーリズムを推進するのかを説明するイントロダクションがあり、そこでは、国際動向、日本における課題や中国地方のポテンシャルやスロット的なものを示す必要がある。さらに、アドベンチャーツーリズムがどのようなもので、何故中国地方にフィットするのかを説明する。その次に、中国地方のアイデンティティは何かを定義し、例えば、私は「なかつくに」と言っているが、日本における中国地方のユニークなポジションを示す。

その次に、ビジョンステートメントとして、例えば日本の文化を体現するアドベンチャーディステイネーションの地位を確立するなどのような、中国地方のなりた姿の明確な方向性を示す必要がある。

次に、ビジョンを実現させるための基本方針を示す。それは、それぞれのプロジェクトを行う上で、ルート作りはストーリーに沿って形成するとか、地域文化を体験化して伝えるとか、人材育成や地域連携を進めるとか、山陰と山陽を繋ぐとか、サステナブルな取り組みを意識するなどの方針である。

次に重点テーマを示す。そこには、商品開発やルート作りのプロジェクトがあり、一つ一つの点を磨き上げることが大切である。次に、人材育成も大事であり、我々がやっているアドベンチャーツーリズムアカデミー中国版のようなプログラムを行ったり、情報発信やマーケティング活動を行ったりする重点プログラムがある。

次にターゲットに関して、どのようなお客を私たちは誘致しようとしているのかをイメージ的なペルソナなどで示す。その次に体制やスキームの説明をして、最後に中長期的な5年から10年の未来像を含めたロードマップを入れる。ビジョンといえば、このような感じであり、ビジョンであればこうあるべきとの基本があるので、それを基に検討されるとよいであろう。

事務局

構成は、事務局でたたき台として出している段階なので、今後メンバーで基本をおさえつつ、頂いた意見をもとに検討したい。

三つの議事に関しては、検討ワーキングで頂いた意見を基にCATメンバーや主要メンバーと議論を重ね、ビジョンやモデルプランをブラッシュアップし案を次回会議で示したい。

#### 4. その他

－ 事務局より説明（記録省略） －

事務局	まだ方向性を示した段階であり決まったものではないので、収益や体制について意見があればお願いします。
山下	資金や体制に関して、行政の資金にのみ頼ることはできないので、発展することでメリットを享受する人達が、資金を出し合うことが大事である。覚悟の表れでもあり、中核となるメンバーが、一定程度の資金を出して行政の応援をお願いする形となるので、行政の資金にのみ頼らず、企業の支援、有料サービス提供、業務委託も検討する必要がある。北海道でも、お金が不要の時は人が集まるが、お金が伴うと人があつまらない苦労があったので、ステークホルダーが少額でも支出することを先送りしないようにすべきである。
吉田	法人形態としてどちらが良いかは、分かりかねるが、色々な地域で実際に作る上で様々なサプライヤーとパートナーを組んで進めており、両方の例が実際にある。 一般社団法人を作る前提条件として、DMCの機能を持つことを重要視している。DMCを持っている団体が、地域を統括してブランディングからツアーの統制、行政との調整や宿泊施設までと幅広く行い、質の高い事業をしているところがある。しかし、観光協会と業務が重複したり連携が不足したりし、我々のような全国のDMCからすると、どちらに頼めばよいのか悩ましいケースが散見される。実務面でどちらの形態が良いかというよりも、地域の観光協会との連携を上手に行わないと実務面で影響が多く出る。
山下	今の意見は大事なポイントである。中国地方には、広域連携DMOがなく、山陽と山陰がそれぞれでプロモーションをしているので、「中国地域全体を面でプロモーションする場合は、我々にまかせてください」となると思う。しかし、まだ各県が中国地方全体をプロモーションしたことがないので、佐藤さん等を筆頭にマーケットと繋がった人がいる強みを生かして、B2BやATTAに対するアプローチやマーケティング機能として存在感を出せば、例えば、各県から費用を貰って「我々が、しっかり海外に届けていきます」と言えるマーケティング組織として存在感を示せば、ビジネスとなる。そこは誰も担っていないのであるから、競合もない。
事務局	CATとしての強みや何を利として捉えるのかを考えていきたい。

#### 5. 閉会

事務局	多くの助言や意見に感謝する。議題であったビジョンにしてもモデルプランにしても、まだまだ詰める必要があると感じている。ただ、残り期間も短いことから、本日頂いた意見しっかり整理して活かしていきたい。 事務局において、モデルプランやビジョンも形にしていきたい。今後とも協力をよろしく願います。第1回の検討会をこれで終わる。
-----	---

以上

## 6-4. 第2回検討会

### ○日時・場所

日時： 令和7年11月28日（金） 13:30～15:30

場所： 第3ウエノヤビル会議室（広島市中区鉄砲町1-20） オンライン併用

### ○次第

1. 開会
2. 前回の検討会の振り返りと現地視察・意見交換結果の共有
3. 議事
  - 中国地方のATビジョンについて
  - モデルプラン案について
  - モニターツアーの評価検証項目について
4. その他
  - ・今後のスケジュール
5. 閉会

### ■会議風景



## ○記録

1. 開会
2. 前回の検討会の振り返りと現地視察・意見交換結果の共有
3. 議事

### ●中国地方のATビジョンについて

－ 事務局より説明（記録省略） －

佐藤	藤	陰と陽が「共存する」という言葉の中にどのような意図があるのか。陰と陽が共存すると言われて、どれだけわかる人がいるのか、私自身もよくわからない。山陰山陽は大事だが、陰と陽の共存という言葉を使う意図は何か。
事務局	局	エリアの中に2つの楽しみがある。例えば、山陰と山陽では天気や気候も違い、文化的な背景や生活の仕方も異なる。そのようにエリアによって2つの楽しみがあるといったところの共存が大事だと捉えている。多層と記載しているが、様々なレイヤーを楽しめる。レイヤーが共存しており、様々な要素が入っているところが、面白いと感じている。共存という表現がわかりづらい可能性もあるので、言葉の選択は再考したい。
佐藤	藤	「誰に向けたものなのか」ということによっても変わってくる。あくまでも地域や地方の人向けのものとして表現していくのであればわかるかもしれないが、海外のエージェント等にもその地域の特性と表現していくとなるとわかりづらい。 海外向けということも考えて言葉の選択をしていったほうが良い。中国地方のポジショニングとなった時に、中国地方でなくても良いという内容は結構ある。本当に「この地方だからこそ」という要素にフォーカスする必要がある。例えば、東北であっても真ん中の山を境に東西にあるだろうといったところなどもある。もう少し絞り込む必要があると感じた。
事務局	局	山陽と山陰の違いを明確にしつつ、この内容はどう交わっていくのかといったところをしっかりと表現するということか。
佐藤	藤	東北地方でも言えるような内容を省く必要がある。本当に中国地方にしかないところが、この地域のポジションのところだと思う。その内容は、もう少し議論していく必要がある。
広瀬	瀬	共存というよりも対比を楽しむということなのではないか。陰と陽、山陰と山陽については、特に気候や天気で感じるのだが、特に冬場は山陰側、日本海側はずっと天気が悪い。おそらく住んでいる人の性格も違う。佐藤さんもおっしゃったように東北も太平洋側と日本海側があると思うが、この中国地方も非常に距離が近いところでの、中国山地を隔てた部分での天気は大きな違いがある。山陰は日本の始まりという部分にも関わってくるので、非常に閉鎖的であまりものを受け入れない、自分たちのものをずっと守っていった文化がある。一方で山陽は、貿易など交流の拠点でもあるので、例えばたたら鉄を巡って取引が動いたりした。共存というよりも対比の方が面白いと感じる。短い距離、狭い範囲内の地方の対比をクローズアップしてアピールできる。

事務局	<p>イメージとしても共存ではなく対比の方がイメージとしては強い。文章の中でも対照的なエリアと書いてあり、意見交換も踏まえて対比のようなキーワードがあると思う。マイクさん、吉田さんはお二人とも関東の方だが、例えば、そういった山陽と山陰の違いを楽しめるというのは、中国地方の面白さにつながるかという観点で、何かご意見いただければと思う。</p>
マイク	<p>日本のことを知っている方はその違いがわかるかもしれないが、外国人からすると1つのエリアとしてしか見られないので、山陰と山陽とはそもそも何なのか。そのようなところから始まると思う。山陰山陽について書いてあるが、それ以外の、この地域のユニークなことや、ユニークな文化をそこまでまだ書ききれてないのではないか。海山川についてはどこでも書くので、神話的なところは1つあると思う。地域がそれを本当に言いたいのであればそれでも良いと思うが、マーケット側はどうやってアプローチするか考える必要がある。そのため、このポジション内容については、「中国地方特有」の要素が大事なのではないか。</p> <p>一方、地域側がいくら「これを出したい」といっても、果たしてそうしたニーズがあるのかは重要だ。一生懸命、打ち出したところで、「興味がない」となったら、もうそれは終わりになるので、その辺は日本のDMCなり海外のエージェント等にアイデアを投げて、もう少しマーケットリサーチが必要ではないだろうか。その辺のステップを踏んでやった方がいいのではないと思われる。</p>
事務局	<p>おっしゃるように、「はじまり」はおそらく日本の様々なところにあって、中国地方の皆さんが共通してはじまりだと思っているところをしっかりと深掘りしたものを今後落とし込んでいく必要がある。山陰と山陽それぞれの面白さは何なのかを落とし込まないとその対比というのもわからないと思うので、もう少し落とし込むようにしていきたい。また、マーケティングについても、DMCやエージェントの方にも意見を伺うところがあれば聞いてみて、本当にニーズが高いのかというのを調査できればしていきたい。</p>
マイク	<p>トレンド的に待ブームが来ている。Netflixでも出ている。今度、SHOGUN 将軍のシーズン2も放送される。明治革命の時、山口県はとてもしばりオンの要素があるので、中国地域からそうじゃないと反対されるかはわからないが、商品としては結構出せるのではないかなと思う。閉鎖的な、外からのものを受け入れない、我々はどうだからというところは何か使えるのではないかなと思う。</p>
吉田	<p>いくつかあるのだが、山陰と山陽の対比の部分で言うと、マイクさんがおっしゃったように、マーケットリサーチは必要だと思う。山陰と山陽という言葉だと「それってどこ」と言う人の方が大半だと思う。そのイメージをどのように打ち出すか。山陰と山陽はコントラストが強い。例えば、日本海側と太平洋側等色々あると思うが、この光の対比をできるのはここだけだと思う。あくまでも言葉や字面ではあるが、その裏側にある印象や歴史等は、そこからどんどん紐解いていけるはずである。その表面に出ている、すごく分かりやすい光のコントラストというところは使える。ブランディングのイメージとしてはとても強力な見せ方が、場合によっては可能なのではないかなと思う。</p> <p>確かに我々のお客様も、例えば、アーバンやカントリーサイド等のリクエストを</p>

されることもあり、全てアーバンを見たいというわけでもないし、カントリーサイドだけを見たいというわけでもないといった、その対比のバランスがある。

ネイチャーとアーバンといったリクエストもいただくことがある。そういう意味では、他にはないこの対比をブランディングとして打ち出せるのではないか。強みを生かすこともできるのではないかと思った。

ビジョンについては、とてもうまくいろんな側面をまとめていると思った。先ほど佐藤さんからおっしゃっていただいた様に、ボリュームがあるので、他のところでも言えるようなものを削ぎ落として、「中国地方ならではのもの」にしていくとちょっと研ぎ澄まされたものになると思った。

地域目線というか、地域がどういうものを提供していきたいか、どのようにストーリーを紡いでいくかというところがしっかり書かれている印象だった。では来てもらう旅行者の立ち位置についてはどうか。最終的に地域の皆様が受け入れをしていくことになっていくと思うのだが、旅行者を受け入れる姿勢、あるいは旅行者に期待すること、旅行者は旅行者のままなのか。関係人口という言葉が書かれていたかと思うのだが、実際問題関係人口と言われているが、実際に成功してすごく増えたというところはかなり少ないと思う。関係人口でただ来てもらうというよりは、その人たちの役割や、例えばただの旅行者ではなくて一緒に作っていく人達というポジショニングにするなど、これを地域の皆様に行動ポリシーとかビジョンを共有して、これを元に中国地方を盛り上げていこうと言った時に、旅行者あつての旅行が成り立つかどうかであるので、じゃあ彼らに対して、お客様という形でおもてなしをしていく対象としてなのか、それともこの地域と一緒に旅行者として一緒に作っていく競走者としての受け入れになっていくのか、そのあたりがどちらの方向を向いているのか。お客様としての立ち位置なのか、あるいは一緒の方向を見て一緒に作っていくプレイヤーとしてポジショニングしていくのか、そういったものが少し触れてみると、実際に地域の方々が旅行者を迎え入れた時の1つの指針になるのではないかと思った。

事務局

要素を削ぎ落としていくというか、しっかり固有名詞を入れつつ、ここならではということろはしっかりと整理していきたい。中国地方のATに関わる事業者目線での、事業者に伝わるようなビジョンということで考えていたのだが、旅行者にしてほしいことや一緒にやっていくことについても整理していくことも視野に検討していきたい。地域を作っていくようなスタンスでやっていくことがATの良さだと思う。そこを明記することは検討したい。

佐藤

P14の4番で、旅の締めを選ばれるとあるが、締めでいいのか。私はそう思っていない。確かに現状で言うとゴールデンルートのゴールかもしれないが、おそらくこれからお客さんの流れも変わってくる中で、私は締めというよりも最初にここで知った上で街に向かうことを目指していく方がよいのではないかと考えている。締めを目指していくと、この地域全体の人たちの期待値も、私たちのやる気もそこまで上がりきらないのではないかと。それで良いとは私は思っていない。私が思うだけで皆さんがどう思うかはわからないが、そこに甘んじるよりも、まずはここに来てから日本の旅がスタートするというところ、この地域とはこういうことが見え

		てくると最初に伝えられる場所だということを目指していくのが私は良いのではないかと思うが、いかがだろうか。
事務局		実はこの部分は社内で話す中でも、少し浮いているのではないかという話があった。この内容について皆さんに意見を聞こうかと思っていた。今回ポジショニングを日本のはじまりとするのであれば、旅の始まりとして選ばれるのも、もちろん共通項としてやっていかなければならない。
後藤		そもそもゴールデンルートの始まりをポジショニングするか、締めをポジショニングするかという考え方は必要ないのではないかとにかくここが選ばれることを目指して、ここを目的地に行きたいと思わせるブランディングをすれば、それが始まりなのか、終わりなのかは、今時点で明確にしなくてもよい。自分たちで中国地方だけではなくて日本全国での滞在をアレンジするのなら別であるが、今は中国地方の旅を考えている。あと、モチベーションは大事である。
佐藤		この中に無い事として、改めて世界から見て中国地方と言っているものも理解されておらず、改めて日本のここだという地理的な中国地方の場所を明確に分かりやすい言葉で示す必要はある。場所を教えてそれが何なのかという気はするのだが、逆にこれについてマイクに聞いてみたい。関西もウエスタンジャパンと出していたが、あまりそれが浸透していない。その上で中国地方が地理的に日本のここだというのが、場所についても、地域の雰囲気についても、このポジショニング的な言葉も含め、一言で海外に伝わるとしたら何なのだろうか。
マイク		海外はイーストジャパン、ウエストジャパンという感覚がなく、ノースジャパンサウスジャパンという言い方が多い。私は中国地方を説明するときは本州の一番南と説明する。ポジショニングとして使うかどうかは分からないが、広島というネームバリューはある。世界中みんな広島というところを知っている、そこから全部近いと説明できる。海外で説明する時は、広島と聞くと大体みんなわかると思う。位置的にはもしかしたらわからないかもしれないが、広島はみんな聞いてわかる。そういうみんなが知っているような言葉が大事である。最近、しまなみ海道や瀬戸内の認知度も上がっている。広島は1つのハブポイントである。
事務局		吉田さんが外国人旅行者の方に中国地方を伝える時はどのような言葉で伝えているのか。
吉田		固有名詞で言っており、中国地方全体を提案することは正直ないので、今で言うと、おっしゃっていただいた広島という言葉で、そのデスティネーションか、エリアで言うと瀬戸内という言葉は少し浸透してきているので使うことはある。山陰の方は出雲という言葉が認知度は高くはないが、提案する時はその言葉を使ってその周辺を提示して説明をしている。なので、現時点で全体をどのように説明しているかについては、正直ない。今そこを全体的に提案することが、そもそもないというのが実際のところである。
マイク		おそらく、みんな熊野古道が和歌山県にあることがわからない。私はみなかみに住んでいるが、日本人もみなかみがわからない。宝川温泉というと、「宝川温泉」のある場所となる。もしかしたらマーケット的には知ってもらおうというより、ま

		<p>ずはルートを沢山出してもらった方が旅行者にもわかりやすいかもしれない。自分からすると、もう少しその辺の資源は、細かいものを集めると良いと思う。自分からすると本当に洞窟はすごく豊富ですごく強いなという意味である。</p>
事務局		<p>今回実際に山口も岡山も色々視察をさせてもらい、洞窟は強みであると思った。確か日本の70~80%くらいはこの地域にあるらしい。強みはあると思っている。</p>
佐藤		<p>循環方針については、あえて循環にする必要があるのか。</p>
事務局		<p>5つがうまく連動して回っていくのが大事ではないか。</p>
佐藤		<p>例えば、ブランディング発信をして、それが自然の摂理に寄り添うのかというと、違うと思う。無理に循環にする必要はない。先ほどから出ている根本の話で、ATビジョンは誰に向けたものなのか。対内的なものなのか、対外的なものなのか、それを一緒にするというやり方もあれば別で作るやり方もあると思う。</p>
事務局		<p>今回はP13に書かせてもらったように、観光事業者やガイド等、ATに取り組む関係者が何を指すのか、どの基準で進めるかというのを共有するためのビジョンと思っている。外に発信するというよりは内向けの話だと思っている。</p>
佐藤		<p>本当に内向けで良いのか。どうせ作るなら、こういう地域だということを外に示すエネルギーに使えるものを内向けだけに使うのは少しもったいない。外のことを意識してまとめていく、あるいはそういう冊子などを作るのであれば、それを持っていって説明できるかもしれない。</p>
事務局		<p>例えば、ポジショニング等は世界に発信できる。しっかりとしたものを作れば発信できるので、その辺をうまく活用しつつ、外向けにもできるような内容にアレンジができると思う。</p>
マイク		<p>誰のためにやるかを考えると、将来ATを通じて、お客さんを増やしていくことであったり、事業所を地域に確立して、暮らしを豊かにする等、そういったことがビジョンには書いてあると思う。ATのお客さんを増やして地域にお金を落とすというビジョンだから具体的にマーケット的なことと競争相手を考える。未来像はいつも役場の出しているプランに中長期的なことが書いてあるから、より具体的に5年後までとする。例えば、現時点で17社のオペレーターがいる。これを30社まで増やして、それぞれの規模を今の150%ぐらいにする。こういう地域で色々支援してこれをやってくれる。そうすると、もっとこの後のアクションプランには落としやすいと思う。みんなが参加していると、ここまでののだとか具体的に見えやすい。どのぐらいのペースで何をするか、スマートゴール的なものを書くと、超えられる。これはまだそこまでちょっと見えてないかもしれないが。</p> <p>今年中にデータが収集できるのが課題。そうすると支援してくれる政府等は、具体的な数値を目指すことになるので、支援しやすくなると思う。</p>
佐藤		<p>事業者向けにすると、これを読む等して、自分もやりたいなど、アクションに繋がらないようななら意味がないと思う。そのため、概念的になりすぎないようにするのが大事である。</p>
マイク		<p>おそらくモデルプランなどを色々やるのだが、モデルプランはこの後お客さんを</p>

		増やすとか AT を増やすとか、具体的に増やすならゴール的なところをある程度書いてあると良い。
事 務 局	マ イ ク	取れるデータにもよると思うが、指標や数値目標は検討させてもらいたい。 難しいところだが、ある程度今自分が把握している中で、こういう状態である「このぐらいのところを目指しましょうか」などと示した方が良い。おそらく正確なデータはまだ取れていないかもしれないが、来年もっとこのぐらいのデータは見直しがあると思うのでやろうとしていくべき。
事 務 局	岡 本	たしかに今の状態と何年後にこうなれば良いというのは示した方が、行動もしやすいし、分かりやすい。 今の意見にとっても賛成であり、さらに加えるとして、これは今どちらかという、良いところや目指していく綺麗な話だけが書かれている状態であるので、アクションを引き出すという意味でも、今この中国地方にこれが足りないとか課題のようなものと、それを解決していく為には、現状はこうだ、目標としてはこうだという数値がセットになってくると、こういう課題があるのであれば、これができる等を考えられる。この課題はチャンスがあるということである等。そのような認識が、より具体的になりアクションしやすくなると思ったので、数値で具体的にすること、その課題で、方向性を示すということ、両方があると良い。
事 務 局	後 藤	課題感は今まで色々なところで把握はしている。そこを示さないと、解決しないといけないといった危機感というか、プレッシャーにつながらないとは思う。 更新性がある部分、5年間というようなスパンで区切る部分と普遍的にある程度変わらない部分の2種類の情報が来る、そのようなイメージである。今はビジョンなので、みんなが目指したいと思えるようなビジョンが何なのか見える化するフェーズだと思う。私は割とそれは内向けというか、関係者が目指したいビジョンが明確になれば良いと思っている。その先にマーケティングの視点を入れながら、どういう目標を目指していくかということをはっきりと示し、そして掘り下げていく。この事業の中でマーケットリサーチはどこまでできるかということもあるとは思いますが、ここに書いてある P18 はどういうビジョンをみんなで目指すのかとあり、そのビジョンを実現する為には、先ほど言ったようなお客さんをどこにどのくらい連れて行くのか、その為にはどのくらいのガイドが必要なのかなどの具体的な目標を決めていく構成なのではないかと思う。そうすると、この P18 の描きたい地域像が重要だ。ビジョンを一言でいうと、P18 の日本のはじまりを映す風土と文化が日常に息づき、住民も旅行者も共に誇れる持続可能な地域へということか。
事 務 局		それが将来像のビジョンである。最終的にこういう行動をしていくことで、こういう所になれば良いのではないかという考えである。この P18 にある 5 つの将来像を噛み砕いていくと、マイクさんが言われたような数値目標の設定もできる。例えば経済であれば、観光消費額がこれだけ増えたような話等、それがどのくらい地域経済でも落ちているかの数値目標が見えてくるのではないか。今年どこまでできるかもあるが、これを噛み砕いていくと数値が示せると思う。

●モデルプラン案について

－ 事務局より説明（記録省略） －

（プラン①について）

事務局	感情曲線は、どこにピークを持ってくるのか教えてほしい。
佐藤	そこまではまだ考えきれていないが、広島市の平和記念資料館、出雲大社、稲佐の浜、大山からの眺望にピークを持って来られたらと思う。
事務局	アクティビティとしては基本的にサイクリングでつなぐ計画となっているが、サイクリングに代わって切り替えるとしたらどこが考えられるか。季節によってプラン変更できるものなのか。
佐藤	基本は夏季と冬季にはサイクリングは入れず、春季と秋季を考えている。ポイント毎にアクティビティを組込む必要はあるが、変わったアクティビティは組込むべきではないと思う。
事務局	トレイルはどうか。
佐藤	サイクリングしたい人がトレイルをするかという点、それはないと思う。トレイルならトレイルを2週間実施するという点はあるかもしれない。
マイク	基本的にはサイクリングをする人はサイクリングだけする。前後に別のアクティビティが入るとしても、5日間～1週間はサイクリングだけというのが売れ筋の商品である。潮風トレイルは本来ハイキングトレイルだが、道路が多いところを歩くだけではつまらないので、来年からはサイクリングとの商品も出てくる。このルートであればサイクリングが一番売りやすいのではないかと。
佐藤	今年、瀬戸内海でサイクリングツアー商品を作ったが、今までとは届き方が全然違う。中国エリアは広いのでサイクリングが中心になるのではないかと。今、瀬戸内海エリアではサイクリングがブランド化しつつあり、中国地方には他にも様々なサイクリングルートがあるということになれば、サイクリング愛好者の利用拡大も見込める。サイクリング中級者でも1日40～50キロ走行のコースであれば問題ない。逆に上級者に対応できるガイドはこの地域にはいない。
事務局	吉田さんのお客さんに関して、サイクリングのニーズはどれくらいあるのか。
吉田	ジェネラルなお客さんが多く、目的特化系やアドベンチャー系は少ない。プランの中にサイクリングを組込むことはあるが、それがメインではなくサイクリングは町を巡り、歴史を知るためのツールとしての位置付けである。サイクリングだけを組込むとしても、2週間の内、せいぜい1日というイメージである。説明を聞くと体験を中心に置くのではなく、地域産業の盛上げや生業の継続を訴求するという点だが、ツアーのなかでこれらをどのように体現していくのかが気になった。
佐藤	1月に実際にこの地域を走る時に探していきたい。スポットは分かっているが、その間に何があるのかについては全く把握できていないので、一番良さそうなルートや登場人物も含め1月に詰めたい。
マイク	7日間のサイクリングツアーを海外のお客さんに販売しているが、ワサビ農家に30

		<p>～40分立寄り、ワサビのことを教えてもらったりしている。例えば、春から秋は農家ではどういう野菜を育てているのかを見てもらい、少し野菜をもらって近くのレストランで調理してもらおう。夜には天ぶらを揚げてもらおうとか、そういうちょっとしたタッチポイントがあれば良い。</p>
事務局		<p>このプランには入っていないが、島根を視察した時にたたら刀剣館と福頼の棚田を見学した。その棚田では美味しいお米が作られていて、田んぼはたたら手法で出来上がったという実際のストーリーを伝え、そこで作られたお米で地域の人がおにぎりにして、その人たちと交流しながらおにぎりを食べる時間があった。そういう落とし込みができれば良いし、そういうニーズもあるのではないかな。</p>
マイク		<p>そういうニーズはある。欧米豪のターゲット客であれば、米や日本野菜へのイメージが全くないので、そういうものに対してはすごく興味深いと思う。1日40キロであれば、サイクリングの所要時間は3時間のためタッチポイントとして立寄れる時間も十分に取れる。これらは彼らにとって貴重な体験になり、アドベンチャー要素は入れなくても、こういう地域でのタッチポイントで十分ではないかな。</p>
佐藤		<p>その場合、ルートの逆になるので、刀剣館とたたら山内の間にそういう場所があれば良い。</p>
広瀬		<p>棚田が見やすい展望台も作ってあったが、たたら以外にも棚田はたくさんあるので、今のルート上にあるのかはともかく、探せば候補地はあるかもしれない。</p>
マイク		<p>米や野菜の収穫時期については、地域のJAでこの情報は取れる。</p>
事務局		<p>旬の野菜はもちろんだが、食文化の観点から言えば山陰や山あいには保存食の文化がある。生活の中でこういう食材の使い方をすることが見れば面白い。</p>
マイク		<p>今グルメのコンテンツはすごく人気があるので、野菜を使って地元のおばあちゃんたちと一緒に料理を作るとか、夜はキャンプ場で何か一緒に作るとか、そういうものが入るとすごく価値がある。群馬の日本一のこんにゃく、うちのガイドは旬の時期にこんにゃく芋を掘りに行く。このプランは良いと思う。広島、宮島、出雲大社、大山などハイライトとなるポイントもあり、その間の田舎風景も楽しめる。先ほどのマーケティングの話でもあったように、フックを意識するのは良いと思う。何をフックにするか、広島であれば宮島と平和公園、旅の終わりには出雲大社と大山がある。そこでエージェントやお客様が実際に行ってみると、フックの間にもすごく面白いものが体験できたり味わえたりするので、この設計はうまくできそうな感じがする。</p>
後藤		<p>江田島には時々スイス人のお客さんが来る。スイス人専門のエージェントが連れてくるが、彼らが何を見て江田島に来たかと言うと、私が昔作った江田島人物図鑑という江田島の面白い人を紹介するコンテンツを見て、この人とこの人に会いたいからよろしくという感じでやって来る。通なお客さんには日本のローカルで何かをやっている人のところに会いに行き、話を聞きたいというニーズがすごくある。</p>
事務局		<p>それから出雲大社から大山まではバス移動で良いのか。もう2日延ばせばサイク</p>

		リングも組込めるし、どちらが良いかと思いつつも、冬季はできないが大山からダウンヒルができればとても面白いのではないかと。
佐藤	事務局	出雲大社から宍道湖沿いを走り中海を通過して大山まで行くというのは、平坦路でもありサイクリングとしてはすごく気持ちが良い。
事務局		反応も聞きながらサイクリングでつなぐことが良いということであれば、対応できる。途中で玉造もある。
佐藤		出雲の後にもう2日間サイクリングがあるというのも、間延び感がある。出雲である程度締めて最後は大山。このリズムが必要だ。

(プラン②について)

マイク		多少マニアックなプランだが、今は侍ブームなので侍文化と刀や武器の関係、これらがたたら鉄によって発達したということに広げていけば、できなくもない。
事務局		おそらくこれらを普通に車移動でつなげると、純粋に文化巡りのような感じになる。ATとしてサイクリングを組込むことで面白さが出るのか、感情曲線的にはどこにピークを持ってくるかについては未だ詰めきれていない。
吉田		ちなみにこれは何日間のプランか。
事務局		おそらく3泊4日、4泊5日くらいのプランになると思う。
吉田		テーマに沿って日程を組み、訪問地を巡るという感じがする。私たちのお客様にはこれだけを学びたいという方はいないが、全国の工房を回るとFITのお客様で刀や包丁の文化に興味がある方はみっちり3日間とか、テレビ番組で紹介されるような弟子入りするような人達もおり、彼らを受入れることで成り立っているところもある。特定のテーマに深く興味がある方は一定数おり、そこに一致すれば強い訴求力になると思うが、アドベンチャーと合致するかどうかという要素も入ってくる。何十キロも自転車に乗った後に刀となると、どんどんプランが狭まり、その先のマーケティングが難しくなる。
		スペシャルインタレスト系の方は一定数いらっしゃるもので、そういった意味では良いと思うが、ATをやりたい広いターゲットに販売するのであれば、もっと見せ方を考える必要がある。道中でどういうものが見ることができるかも踏まえての総合的な判断が必要になるかと思う。
事務局		このプランは岡山の事業者のアイデアで、実際にこれをやりたい、形にしたいという事業者もおり、これをどう改善し、どういうプランでATに組込むかについては、意見交換しながら詰めていきたい。ストーリーとしては確かにあり得るので、どうツアーに落とし込めるかについて今後議論したい。また、もうひとつの想定として秋吉台も巻き込めたらという話を佐藤さんなどがしていたが、これについてご意見をいただきたい。

(プラン③について)

佐藤		秋吉台は別ルートが良い。
----	--	--------------

マイク | 1つのルートに全部入れ込むのは難しいので、将来的には2、3ルートを考えても良いのではないかと。昔は岡山から出雲街道があり、秋吉台の側には萩街道の面白い関所跡も残っている。

●モニターツアーの評価検証項目について

事務局 | モニターツアーは今示しているモデルプラン①をベースに詰めていきたい。モニターツアーを実施する際にどういう観点で専門家の方々に見ていただくべきか、評価項目の内容に漏れがないか、最後に確認いただきたい。AT ツアーのモニターを実施する際、こういう観点を評価してもらえばよりブラッシュアップが図れるという点についてご意見いただきたい。

現在、事務局で考えている評価検証項目としては、先ずツアーの満足度、距離感の適切さ、立ち寄り先、コンテンツと人との関わり、ツアー品質とストーリー性、宿と食事のクオリティ、スポットにおけるガイドさんの対応、ツアー全体を通じた安全管理、そして商品化に向けた課題やどうしたら持続可能な販売商品になるか等を、このモニターツアーの中で、検証していけたらと思っている。これら評価検証項目に関し、不足している部分や追加項目があれば是非ご教示いただきたい。

マイク | 概ね良いと思うが、持続可能性についてはその事業の継続性のみならず、地域への貢献、エコの観点からプラスチックは使っていないかなど、1回目としては難しいかもしれないが、そういうところもフィードバック項目とすれば良いのではないかと。

事務局 | 経済面と環境面のご指摘ということで理解した。

事務局 | モニターツアーは7日間全部をフルで通して実施するというのか。短縮して実施するとしたらその短縮のやり方について検討していたと思う。

マイク | 宮島などはモニターをやる必要はない。中央部分で見学が多い日は飛ばしても良いし、ハイライトが最後にあればそこまでは行った方が良い。時間を短縮してやろうとすると結構大変である。モニターツアーはいつ実施するのか。

事務局 | 1月に実施する。気候的にも自転車に乗れない可能性があるため、そこは短縮するか自動車移動になる。

評価項目はこの内容をベースとしてもう1度見直しを行い、最終的に皆さんに確認いただきたい。

4. その他

- ・今後のスケジュール

5. 閉会

## 6-5. 第3回検討会

### ○日時・場所

日時： 令和8年2月9日（金） 14:00～16:00

場所： 第3ウエノヤビル会議室（広島市中区鉄砲町1-20） オンライン併用

### ○次第

1. 開会
2. 前回の検討会の振り返り・検討ワークの共有
3. 議事
  - 中国地方のATビジョンについて
  - モデルプラン案について
4. その他
  - ・CATの今後の展開
5. 閉会

### ■会議風景



## ○記録

1. 開会
2. 前回の検討会の振り返り・検討会ワークの共有
3. 議事

### ●中国地方のATビジョンについて

－ 事務局より説明（記録省略） －

山	下	ビジョンは根本的な話だが、コンセプトの話なのか。内向きに対する連携の話なのか。グランドコンセプトという立場で良いのか。	
事	務	局	内向きだが、一方でコンセプトは内向きの方々、関係者の方々もコンセプトは目標として意識して、例えば旅行者へ発信していく時にコンセプトとして持って PR できる仕組みを作っていたらと思う。
山	下	AT をやる意義やそれらを言語化したもの示すのがビジョンだと思うが、今回は、本来的なビジョンとは違う使い方をされていると思う。推進するため、地域としてのベネフィットを入れるべき。	
事	務	局	最終的にはこういった地域をつくることを示したい。AT に取り組むことで経済効果も生まれることを示せることが一番良い。
山	下	AT そのままの経済効果は期待しないほうが良い。アドベンチャートラベラーというのは、一般的な外国人旅行者だと、どうしてもメインは今でもゴールデンルートになる。さらにメジャーになっている国東半島やみちのく潮風トレイル、AT トラベラーであれば、中山道、四国のお遍路等ブランドがたっているところに行きがちである。そういった人達を次に振り向かすことができるトリガーになるのではないかといったイメージがある。ターゲット層も絞るべきだ。セカンドデスティネーションを目指す形かもしれない。エリア全体の価値が底上げされて、AT トラベラー以外の人達への影響も出てくると思う。トリガーみたいな位置づけにしたほうが、全体的に爆発的に経済効果が生まれるのはマストリズムを想起させてしまうので書きぶりには気を付けてほしい。	
マ	イ	ク	日本のマニア向けには良い。実際マーケットに出してみないとわからないがどれだけ商品がビジョンに沿ってつくれるか、商品コンテンツにもよる。それぞれの体験、行程の中にそれを感じられ、「これは本当に日本のコンテンツだな」というコンテンツをどれだけ生み出せるかがポイントになる。先ほど山下さんもおっしゃった中山道や熊野古道はルートとしてブランドが成立しているので、ひとつのメインルート、目玉商品ができれば、そのコンセプトに基づいたコースづくりができると思う。「ビジョンはこの地域をこの姿にします。」といったイメージである。 商品を作って、マーケットに投げてみないとわからない。完璧に仕上げるよりはプロトタイプを出してブラッシュアップしていくべきだ。
事	務	局	マーケットの話もあったが、地域の皆さんから様々なキーワードが出てきた印象がある。佐藤さんとも一緒に意見交換したがこういった意見は出ていたので再確認になるがいかがか。
佐	藤	今回、各地域を巡りながら出てきた意見が反映されている。結局何をやるのかを	

		集約して明確に掲げるべき。
マ	イ	ク
事	務	局
		自分のイメージのビジョンに近いのは行動ポリシーがビジョンに感じる。
		ブランドコンセプトを伝えていくために「こういった行動をとっていきましょう」と目指している。行動をすることで地域の将来像、日本のはじまりを風土とする文化や日常がしっかり残って誇れる持続可能な地域を作っていくビジョンを意識しているが、流れがわかりにくいところもあるので見せ方は再度検討していく。
マ	イ	ク
事	務	局
		発信はするが DMC 機能はどうするのか。
		具体的にどうやっていくのかは決まっていないが、CAT として DMC 機能、販売機能は持っていきたい。
マ	イ	ク
事	務	局
		そこは重要なところで方針だけで終わってしまうと、誰がそれをまとめて販売するのか。プロモーションで終わらず販売することが大事だ。
後	藤	
		佐藤さん、今の話を聞いていかがか。
		CAT という組織にどういった役割を持たせるかが明確になっていない。CAT に DMC 機能を持たせるのか法人化も含めて決めないといけない。
事	務	局
広	瀬	
		広瀬さんはブランドポリシーやブランド化はいかがか。
		この部分は皆さんで熱く語り合いまとめるのが大変だったと思う。中国地方のアイデンティティのくだりのところは時間をかけてやり、行動指針も熱い思いがあり、ここはやっていく上で中心になっていくものだと思うのでこの記載で良いと思う。わかりやすくするためにはビジュアルの工夫やキーワードの抽出が必要かもしれないが、我々が議論した思いが表れている。
事	務	局
吉	田	
		何をするかをわかるように工夫をしていきたい。吉田さんはいかがか。
		前回から日が空いていたので復習として資料を拝見していたが、今説明していたビジョンやコンセプトはうまくまとめてある印象がある。前回の意見も反映されている。コンセプトの言葉が「sacred origins」は山陰のイメージと被る。中国地方ということで山陰だけではないと思う。しっかり読めばクロスロードや「陽」の部分が読み取ることができるが、瀬戸内のイメージやみんなが持っている内側のイメージ、山陽側のイメージと結びつきにくい。これに肉づけするのであれば「陰」の色からもう少し追加すべきと感じる。ステークホルダーはどういったプロセスで議論されていて、どのような方々が入られているのか気になった。どういった方々の意見が汲み取られているのか、どの辺の地域の方々の意見が汲み取られるポイントなのかが気になった。
事	務	局
		プロセスに関わっていただいた方々として地域で意見交換会を実施していく中で、ガイド、通訳、案内の方々から多様な意見をいただいている。行政の方も入って意見をいただいている。中国地方の特徴を聞きつつ意見を集約して作成している。行動に関してはプレイヤーをイメージしている。
吉	田	
		地域の声がどれだけ汲み取られているか、結局地域の方々がされていくことなので気になったところだ。

事務局	山陰の印象が強いと改めて思ったので、その見せ方や伝え方は改めて検討する。後藤さん、川口さんはいかがか。
川口	ビジョンは議論しているので良い。概ね良ければ前に進めていきたいのでまずは作ってみて出して反応を見ていきたい。やまごころの記事にあるように数値に関する考えは参考になる。納得感がこれまで数値化していなかった。観光、貢献度合いはこれからどんどん数値化していくべきで説明できる軸を持つことが大事である。立場ごとに見方が違って良い。数値は広報ではなく運用のためにある。この辺がキーワードになるので、しっかり数字を取ってやっていく。
後藤	進められるところは進めていけたらと思うので、具体的にこうしたほうが良いといった意見はあるか。
藤岡	意見が反映されていてこのままで良いと思う。確かに山陰色が強いとも感じた。
山下	以前提案した2つの海を越えることは中国地方の特徴的な点なので、差別化に使える。中国地方の売りである。山陰海岸は日本列島のはじまりが見えて神話の世界の日本のはじまりも見える。クロスロードは山陽側が強い。宿場町や物流、山陽の瀬戸内海を陽だまり線がまわって入ってくるのでクロスロードの側面のイメージがある。陸のクロスロードが山陽側、縦のクロスロードはふたつの海を越える。2つの海の意識を入れたら良い。
事務局	いただいた意見を反映していきたい。

●ビジョンの活用・展開について

－ 事務局より説明（記録省略） －

山下	CATが法人化して推進のための事業計画として使っていくべきではある。中国地方の広域連携DMOがない。他県に使ってもらうのは難しいとは思いますが、例えば広島と岡山など2県の連携はあるのではないかと。2県が連携するときベースになるものがないため複数県連携の場合に使っていけるかもしれない。リーフレットのようにきれいには難しいかもしれないが、ビジュアルを良くしてコンセプトシートのように読みたくなる資料にすると良い。民間事業者（ランドオペレーター等）に対してPR（セールスツール）に使って活用してもらえたら良い。
事務局	CATが率先して使っていくことが必須だと思うので、取組んでいきたい。縦のつながり（岡山・鳥取、島根・広島）に使える要素がある。興味を持ってもらい、インパクトのあるデザインをしていく予定にしている。
マイク	セールスツールには良い。広域的な事業はないので良い動きだと思う。旅行者にとっては県単位でないのが良い。事業者に対しては集客が重要視されるのでセールス・プロモーションが重要だ。こういった立ち位置のブランドにするか。ATに限らないブランドにできそう。どこまでそれを応援してくれるのか、エリア全体で動けるかは行政支援にもよる。観光客向けのブランディングがしっかりできていないと集客はついてこないため、力を入れて集客で結果を出していくのが大事である。ビジョンを事業者と共有する動きも大切だが、観光客がついてこないと諦めて

	しまうので結果を出していくべきところだ。観光客向けにもっと押していくべき。
事務局	マイクさんの意見を踏まえて、吉田さんも海外旅行者とつながりがあると思うが、こういった取り組み、コンセプト、行動をしている地域はニーズが高い印象か。
吉田	我々が案内しているお客様は必ずしもATの方が多くわけではないのでそのターゲットはずれている可能性があるが、ATに限らずエリアとして客からのニーズは伸びている。起点としてはDMC・地域での使い方と観光客に伝わっていくものがある。今年度山陰周辺に関わることが多く、瀬戸内あたりは引き続き別の事業で携わらせていただいているが、山陰だったり山陽だったり色々なステークホルダーの方と話す機会が最近増えている。皆さん異口同音に山陰と山陽をつなげていく話は様々なニュアンスがあるがそれぞれの方々がおっしゃっている。色々なステークホルダーの方がそれぞれのビジョンを各自で語っている。DMCとしてどなたにお願いするか様々な条件によって変えている。最終的にATビジョンを共通項として共有していくのがブランディングに繋がると思う。うまく使っていけたらと思う。
事務局	今は共通項、共通認識がなく難しいところではあるので、このビジョンをうまく展開し、多くの人に共感してもらい共通項として持っていただきたい。 これまで様々な方々とお話をきて、この中に集約を図ってきただけなので、これからはそれをまとめたビジョンを発信していくことが共通項を生むための取り組みだと考えられるため、積極的に発信をしていき、皆さんに理解してもらえようように取り組んでいきたい。

●モデルプランについて

－ 事務局より説明（記録省略） －

山下	旅行会社として旅行を作る側からすると、最後はフリータイムにして、ショッピングであったり、ゆっくりできるようにする。そのため最後に大山側で終わるのは現実的ではない。次の移動も考慮して広島で終わる方が良いと考える。ストーリーも大事だが、旅行商品としての大事なポイントを踏まえると広島で終わらないと厳しくなる。入口の大山はインパクトがあると思う。私も去年モニターでダウンヒルをやったので、日本の山岳信仰や日本人の精神性の原点みたいなところから入っていくということはすごく良いと思う。今回の内容は、今の発展した日本が作られてきた深層心理みたいなところだと思うので、最後広島を通して、日本人のパワーというかそのような物語が語られると思う。復興させていく日本人の原動力は何なのか、精神性のベースがある。いつも sokoiko! のツアーでも、昔と現在と未来が語られると思うが、広島で未来を語っていくという見解だと思う。ちなみに、このツアーはこれで良いと思うが、もっと長いツアーだった場合に山陰海岸や鳥取の東部は物理的なつながりがあるが、向こう側からのストーリーは考えられるか。
事務局	サイクリングが良いかもしれない。日本列島が始まったというところでより長いスパンで考えていくと面白い。まだしっかり各地を見ることができていないので、早いうちに勉強したい。
山下	鳥取県は大山がどうしても中心になる。観光局の管轄のところを何とかしたい気

持ちが強くある。環境省の事業で山陰海岸エリアには行ったことがあり、面白いという感覚があった。コースとしてハイキング、サイクリング含めた別の商品としてあり得ると考えている。様々なバリエーションがあると思うので、東から繋げるのか、西から繋げるのかというところはある。どちらにしても最後は広島が良い。

広瀬 山陰だけでルートを考えて時に、鳥取砂丘がどれだけ珍しいかというのはわからない。因幡の白兔という神話があり、その神話になぞらえた時に鳥取から入っていき、三徳山は現代の修験という意味では大山ともかかわりがあり、精神性を体感できる面白い場所でもある。鳥取県はサイクリングに関しては走りやすい。因幡の白兔の白兔海岸などの海岸沿いは若干アップダウンがあるが、きれいな場所ではある。交通量の問題は少しあるが、海岸沿いを走れるので便利であると同時にストーリーも神話という意味ではあると思う。

佐藤 まだ実際に走ってみてはいないので検証が必要だ。

マイク 2日間のタイプ等、もう少し短い期間のものもあると販売しやすくなると思う。もちろんフルバージョンで売りたいが、目玉のところだけでも体験できるようにしても良い。

#### ●他のモデルプランについて

－ 事務局より説明（記録省略） －

マイク それぞれのコンテンツが広がれば良いのではないかと。どこでも昔はマイナーだったわけだし、ストーリーに沿っていて迫力があれば良いと思う。移動する時間が長いとあまりAT要素がないと感じるかもしれない。あまりアクティブではなく、どちらかという文化的要素が強い感じであるため、ATの会社は興味がないかもしれない。もう少しサイクリングやハイキングなどアクティブな要素を入れる必要がある。車に乗っている時間よりも、外で動いている時間の方がみんな好きだと思う。

#### ●CATの今後について

－ 事務局より説明（記録省略） －

マイク 広域的な動きは必要だと感じている。旅行者の観点からすると、1つの県だけでなくもう少し広域的につなぐというのは良い動きだと思うので、産業的なガイドの育成などもあるが、プロモーション的なところではニーズがある。需要を作っていけばモチベーションが上がるので、鶏と卵の話になってくるが、プロモーションを先に出して需要が増えてきたら、もっとガイド等を増やしていく動きが良い。プロモーションは、ブランドがある程度固まって、ルートが出来たらメディアを呼ぶのが良い。

山下 事務局があっけないような感じに見える。ランドブレインがやるのであれば日常的に活動をサポートするような体制をどうするのかというところ、佐藤さんが孤軍奮闘しているように見えるので、事務局の体制が気になる。あと、ランディングページを作ったほうが良いのではないかと。コストはかかる事だが、例えばガイドの紹介やDMCの紹介など、ポータルサイトのようなものが1つあれば良い。Hiroshima Adventure Travelのサーバーを使えるのであれば、そこに入れるのか。そういったことを検討してみたらどうか。また、これも予算がかかるがマイクさんのところ等

にストーリーテリングの記事を書いていただくのも良い。SNS の認知を高めるには5~10年かかると思うので長期スパンでやれる体制と心構えがないと難しい。これだけ民間の人達がつながっているのが素晴らしいことで、少し行政の後ろ盾が弱い。各県の人たちが連携できる大義名分となる体制面、発信の受け皿となるページの部分、あと前にも伝えたが基本的に縦のルートをどれだけ作れるか。2つの海ということを発言したがそのパターンでツアーのストーリーが発信されているようなのが良い。まずは国内のDMCの人たちに、しっかり売り込むということだと思う。JTBは日常的にインバウンドを使っていたり、ほかにも旅行会社があるので、そういうところに依怙頼負してもらえようような人間関係づくりも日常的にやっていくことは必要と思う。来年も同じように予算が付き続けるかということもあるので、心配している。

吉 田 DMCからの期待としては3つある。1つはDMC機能について、地域が広がれば広がるほど1つの窓口で対応いただくのが対応しやすいというのが現実的にある。2つ目がブランディングで、お客様にどのように推していけば良いのか、マテリアルも含めて、文章やビジュアルがきちんと決まっていると私たちとしても提案しやすいので、そこを期待している。3つ目はコンテンツについてで、ツアーだけでなくガイドなど中身の部分に関して、すでに様々な検討をされていると思うが、これらの3つが揃うと現実的に仕事がしやすくなってくる。

#### 4. その他

・今後のスケジュール

#### 5. 閉会

以上

## 7. 事業総括

### 7-1. 事業成果

本事業を通じて、中国地方における AT の推進に向けた基盤や仕組みができ、今後の展開につながる土台が形成された。

AT の方向性や地域の強みを整理したビジョンを取りまとめたことで、主要な関係者間で目指す姿を認識することができた。これにより、今後の取組を進めるうえでの共通の指針が明確になった。

現状関り代の少ない関係者等に対してアプローチがしやすくなったため、更なるネットワーク拡大や機運醸成を推し進めていく必要がある。

また、セミナーや意見交換、勉強会等を通じて、多様な関係者とのつながりが拡大し、広域的な連携に向けた基盤や体制が整いつつある。

さらに、中国地方を横断するストーリー性を踏まえたモデルプランの検討を進めたことで、中国地方における AT 商品（ツアー）の内容等が関係者間で共有できた。今後は、これらの内容を更に磨き上げ、高付加価値のある商品としてブラッシュアップやブランディング化を図る必要がある。

加えて、CAT を中心とした連携体制についても、情報共有や調整の場として一定の機能が確立されてきており、継続的に取組を進めていくための基盤が形成された。

このように、本事業により、ビジョンの共有、人材・ネットワークの形成、商品化に向けた検討、推進体制の整備といった点で、AT 推進に向けた基礎的な環境が整いつつある。

さらに次年度以降は、山陰・せとうち地方が AdventureWEEK2026 に採択されたことで、さらなる機運醸成やネットワークの拡大なども期待される。

## 7-2. 今後の課題

上記の成果を踏まえ、以下のような今後の課題や展開に次年度以降も取組を継続的に進めていく必要がある。

### (1) AT 人材のさらなる拡大とネットワークの深化

本事業を通じて、AT に関心を持つ事業者・関係者のネットワークが形成されつつあるが、さらなる市場拡大に向けては裾野の拡大が不可欠である。

今後は、作成した AT ビジョンを活用しながら、以下の取組を展開する必要がある。

- ・セミナーやキャラバン等による参画事業者の拡大
- ・異業種（交通、農林水産、文化等）との連携強化
- ・地域内外のプレイヤーをつなぐさらなる広域ネットワークの形成

これにより、AT を核とした持続的な地域づくりと担い手の確保を図る。

### (2) 広域ツアーに対応したスルーガイドの育成

中国地方における AT は、山陰・山陽を縦断するような広域的なストーリー性が強みである一方で、エリアを通して案内できる人材が不足している。

このため、今後は以下の方向でガイド育成を進める必要がある。

- ・広域周遊に対応した「スルーガイド」の育成プログラムの構築
- ・地域ごとのスポットガイドとの連携体制の確立
- ・中国地方全体で共通化したガイド基準・認証制度の検討

これにより、広域ツアーの付加価値向上と受入体制の強化を図る。

### (3) 「稼ぐ観光」に向けたビジネスモデルの確立

AT の推進にあたっては、ビジョンの共有に加え、実際に収益を生み出し地域に還元する仕組みの構築が重要である。

今後は、以下の視点で展開を進める必要がある。

- ・高付加価値な広域ツアーの造成・販売の強化
- ・海外市場を見据えたプロモーション・販路開拓
- ・ガイド・地域事業者への適正な収益分配の仕組み構築

### (4) プラットフォームの法人化と持続可能な運営体制の構築

現状のプラットフォーム（CAT）は、関係者の連携基盤として一定の機能を果たしているが、継続的な事業推進や収益確保の観点からは、運営主体の明確化が求められる。

今後は、プラットフォームの法人化を視野に入れ、以下の取組を進める必要がある。

- ・ツアー造成・販売、ガイド研修等を担う事業主体の確立
- ・収益事業（ツアー販売、研修事業等）による自立的な運営モデルの構築
- ・関係団体（自治体、DMO、事業者等）との役割分担の明確化

これにより、持続可能で自走可能な推進体制への移行を図る。

これにより、AT を通じて地域経済に貢献する持続的な観光モデルの確立を目指す。

令和7年度訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）  
プラットフォームを活用した中国地方アドベンチャーリズム推進事業  
事業実施報告書

---

2026年2月

編集：中国運輸局 観光部 観光地域振興課  
〒730-8544 広島県広島市中区上八丁堀6番30号  
TEL: 082-228-8703 FAX: 082-228-9412  
支援：ランドブレイン株式会社